

タヘキ債権ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ
 供託シタル國債及有價證券並ニ供託ニ代
 タル大藏省預金部ヘノ預ケ金ニ付他ノ債權
 者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス
 前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ
 預金額ノ給付金額又ハ給付ヲ受ケヘキ有價
 證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價
 證券ノ給付ヲ受ケヘキ債權ニシテ給付金又
 ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付
 テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス
 第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其
 ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス
 一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、
 引受又ハ買入
 二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ
 質トスル貸付
 三 不動産ヲ抵當トスル貸付
 四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トス
 五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給
 付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限
 度トスル貸付
 第六條第六號ノ規定ニ依ル有價證券
 ノ給付ヲ受ケヘキ債權者ニ對シ既ニ拂
 込ミタル賦拂金ヲ限度トスル貸付
 第七條 道府縣市町村ニ對スル一年內ノ貸付
 額賦償還ノ方法ニ依ル二年內ノ貸付

九 銀行若ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金又
 ハ郵便貯金
 十 主務大臣ノ定ムル所ニ依リ信託會社
 へ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信託
 十一 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形
 ノ買入
 前項ニ規定スル社債及株式ニ付テハモノ種
 類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ
 預ケ金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式
 ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコト
 ヲ得ス
 第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本
 金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十四條 第一項第三號又ハ第七號ノ規定ニ
 依ル貸付金ノ總額ハ各拂込資本金及準備金
 ノ總額ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十五條 第一項第一號ノ規定ニ依ル貸付金
 ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一
 ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十六條 第一項第五號ノ規定ニ依ル貸付金
 中既ニ受
 入レタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナ
 ル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス
 第十七條 第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金
 ハ一人ニ付テハ千圓以下トシ且確實ナル二人以
 上ノ保證アルコトヲ要ス
 第十八條 一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行
 ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條

第一項及第五條第一號第五號第六號ニ規定
 スル受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行
 ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユル
 コトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十
 一條第一項第一號ニ掲クル有價證券ヲ以テ
 擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第十九條 第三項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ
 付テハ準用ス
 第二十條 規定ハ一信託會社ニ對スル信託財
 產及其ノ信託會社ノ引受ケタル手形ノ買入
 高ノ總額ニ付テハ準用ス
 第二十一條 貯蓄銀行力其ノ財產ヲ以テ債務ヲ
 完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第
 一號第一項及第五條第一號第五號第六號ノ
 規定ニ依ル契約ニ基ク銀行ノ債務ニ付各取
 締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス
 第二十二條 前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ
 付退任登記後二年間仍存續ス
 第二十三條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務
 大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 一 定款ヲ變更セムトスルコトキ
 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトス
 三 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトス
 四 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類
 若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコ
 トヲ得
 第二十七條 有價證券割賦販賣業法ハ第一條及

第八條乃至第十一條ノ規定ニ限り貯蓄銀行
 ニシテ第五條第六號ノ業務ヲ營ム者ニ付之
 ヲ適用セス
 第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ貯蓄
 銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締
 役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下
 ノ過料ニ處ス
 一 第六條、第八條、第九條、第十一條
 乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定
 ニ違反シタルトキ
 二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大
 臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
 三 有價證券割賦販賣業法第十條ノ規定
 ニ違反シタルトキ
 第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル
 者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
 第二十一條 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事
 項ニ付テハ銀行法ニ依ル
 銀行法第十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適
 用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依
 ル給付金及第五條第六號ノ規定ニ依リ給付
 ヲ爲スヘキ有價證券ハ之ヲ預金ト爲シ給付
 第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納
 付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
 ヲ定ム(大正十年勅令第二百八十四號ヲ以
 テ同十一年一月一日ヨリ施行ス)
 第二十四條 貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス
 舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀
 行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本
 法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト爲
 ス
 舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ
 行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ
 於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト爲
 做ス
 第二十五條 前條第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金
 ニ付テハ本法施行後五年ヲ限り仍舊法ニ依
 ル
 第二十六條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニ
 シテ現ニ其ノ商號中ニ貯蓄銀行又ハ貯蓄銀
 行ナル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一
 項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商號ヲ用ウルコト
 ヲ得
 第二十七條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行力
 第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テ
 ハ本法施行後二年ヲ限リ仍舊法ニ依ル但シ
 其ノ期間內ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於
 テハ第一條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル
 金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル
 第二十八條 本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル

契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコト
 ヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契
 約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ
 限リ之ヲ繼續スルコトヲ得
 第二十九條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所
 有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條
 第一項第一號ノ規定ニ依リ應募、引受又ハ
 買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後
 三年ヲ限り仍之ヲ所有スルコトヲ得
 第三十條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所
 有スル株式ニシテ第十二條ノ規定ニ依ル限
 ヲ超ユルモノニ付テハ本法施行後三年內ニ之ヲ其ノ
 限度ニ適合セシムヘシ
 第三十一條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預
 金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ
 總額力第十四條第一項ノ規定ニ依ル限度ヲ
 超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年內ニ之
 ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ
 第三十二條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施
 行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ
 規定ニ依ル責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル
 第三十三條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條
 ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契
 約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ
 限リ之ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
 ハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第
 九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非ス...

第二十四條 主務大臣ハ無盡業社ノ業務又ハ...

無盡業法 (昭和六年四月一日)

第一條 本法ニ於テ無盡業ト稱スルハ一定ノ口...

第六條 無盡業社ハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得...

第二條 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保ト...

第十五條 無盡業社ノ營業年度ハ一月ヨリ六...

第二十二條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡業社...

第二十九條 無盡業社力營業ノ免許ヲ取消ス
レタルトキハ之ニ因リテ解散ス
前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請
求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ選任ス
其ノ清算人ノ解任亦同シ
第三十條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利
害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算
人ヲ解任スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキ
ハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得
第三十一條 裁判所ハ無盡業社ノ清算事務及
財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其
ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコト
ヲ得
第三十二條 無盡業社ノ清算、破産又ハ強制
和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ無盡業社ノ検査
監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ
検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得
第三十三條 無盡業社ノ清算、破産又ハ強制
和議ノ場合ニ於テ無盡業社ノ検査監督ニ從
事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコ
トヲ得
第三十四條 無盡管理會社ハ其ノ管理スル無
盡ノ掛金ノ拂込ヲ爲スニ於テ掛金者ニ代
リ掛金ノ拂込ヲ爲スニ任ス
第三十五條 無盡管理會社ハ其ノ管理スル無
盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支

拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ
爲ス權限ヲ有ス
掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル訴訟ニ
於テハ無盡管理會社ハ原告又ハ被告ト爲ル
コトヲ得
第三十六條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ無
盡業ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處
ス
第三十七條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査
役、支配人又ハ清算人ヲ一年以下ノ懲役若
ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記
載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官
廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ
二 本法ニ依ル検査ニ際シ帳簿書類ノ隱
蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢
査ヲ妨ケタルトキ
第三十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査
役、支配人、代理店主(代理店主法人ナル
トキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其
ノ他法人ノ代表者)又ハ清算人ヲ十圓以上
千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑
科スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス
一 第六條、第八條、第九條、第十條、
第十三條、第十四條、第十七條又ハ第
十九條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第七條ノ規定ニ依リ定メタル營業區

域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ
三 無盡業社力第十二條ノ規定ニ違反シ
タルトキ
四 正當ノ理由ナクシテ第二十條ノ說明
書ノ交付ヲ拒ミ又ハ之ニ虛偽ノ記載ヲ
爲シタルトキ
五 本法ニ依リ無盡業社ニ備ヘ置クヘキ
書類ノ備附若ハ主務大臣ニ提出スヘキ
書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スヘキ事
項ヲ記載セス又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲
シタルトキ
六 第二十四條、第二十五條、第二十八
條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ主務大
臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シ
タルトキ
七 本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタ
ルトキ
第三十九條 第十二條ノ規定ニ違反シタル取
締役、監査役、使用人又ハ代理店主(代理
店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社
員、取締役其ノ他法人ノ代表者)八十圓以
上千圓以下ノ過料ニ處ス
前項ノ場合ニ於テハ無盡業社ノ取締役及監
査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
第四十條 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル
者八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
第四十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至

第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ
之ヲ準用ス
第四十二條 本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル
事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシ
テ之ヲ行ハシムルコトヲ得
第四十三條 本法中無盡業社ニ其ノ取締
役、監査役、支配人、使用人、清算人及代
理店主ニ關スル規定ハ無盡管理會社ニ其
ノ取締役、監査役、支配人、使用人、清算
人及代理店主ニ、無盡業ニ關スル規定ハ無
盡管理會社ニ之ヲ準用ス
附則
第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム
第四十五條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケ
タル株式會社以外ノ無盡業者ニシテ本法施
行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行後五年ヲ
限り仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得
本法中無盡業社ニ關スル規定ハ前項ノ無盡
業者ニ之ヲ準用ス
第四十六條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケ
タル無盡業者ニシテ本法施行ノ際現ニ存ス
ルモノニ付テハ第四條ノ改正規定ニ拘ラス
本法施行後五年ヲ限り仍從前ノ規定ニ依ル
第四十七條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケ
タル無盡業者ニシテ前條ノ期限迄ニ第四條
ノ改正規定ノ要件ヲ具備セサルモノカ其ノ

期限迄ニ爲シタル無盡業契約ニ付テハ之カ完
了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之
ヲ繼續スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ無盡業者カ前項ノ業務以
外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ
罰金ニ處ス
第四十八條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケ
タル無盡業者ノ本法施行ノ際現ニ有スル本
店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施
行後一年內ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非
サレハ之ヲ存續スルコトヲ得ス
前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月內ニ主
務大臣ニ提出スヘシ
第四十九條 本法施行ノ際現ニ無盡業社ノ常
務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ
會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年
ヲ限り主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ引續キ
其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得
第五十條 第四十五條第一項ノ無盡業者ニシ
テ會社ニ非サルモノノ業務廢止ニ付テハ主
務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第五十一條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第
四十五條第一項ノ無盡業者ニ付テハ其ノ營
業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執
行スル社員)ニ之ヲ準用ス
第五十二條 從前ノ第三十一條第一項又ハ第
三十二條ノ無盡業者ニ付テハ仍從前ノ例ニ

依ル
第五十三條 非訟事件手續法第三百三十六條、
第三百三十七條及第三百三十八條ノ二中「銀行」
ヲ「銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理會社」ニ改ム
公益質屋法
(昭和二年三月三十一日)
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公益質屋法ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム
公益質屋法
第一條 市町村又ハ公益法人ハ本人ニ依リ公
益質屋ヲ經營スルコトヲ得
公益法人公益質屋ヲ經營スル場合ニ於テハ
業務所ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
第二條 本法ニ依ル公益質屋ニ非サレハ其ノ
名稱中ニ公益質屋タルコトヲ示スヘキ文字
ヲ用フルコトヲ得ス
第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ
範圍內ニ於テ市町村又ハ公益法人ニ對シ公
益質屋ノ設備ニ要スル經費ノ二分ノ一以內
ヲ補助ス
第四條 貸付金額ハ一口ニ付十圓、一世帯ニ
付五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官
ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在

第五條 貸付利率ハ一月ニ付百分ノ一ニ五ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル地方ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 貸付金ニ對スル利子ニシテ一錢未満ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未満ナルトキハ之ヲ一錢トス

第七條 公益質屋ニ於テハ其ノ質契約ニ關シ元金及利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ質主ヨリ金錢其ノ他ノ利益ヲ受ケルコトヲ得ス

第八條 流質期限ハ質契約成立ノ日ヨリ四月未滿ノ期間ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得ス四月未滿ノ期間ニ於テ之ヲ定メタルトキハ其ノ期間ヲ四月トス

第九條 流質期限到來前ニ於テ質物ノ交換又ハ質物ノ一部ノ受戻ヲ爲シタルトキト雖モ利子ノ計算及流質期限ニ付テハ質契約ノ變更ナキモノト看做ス

第十條 質主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一部

辨濟ヲ爲スコトヲ得

第十一條 流質物ハ競爭入札ニ依リ之ヲ賣却スヘシ

第十二條 流質物處分前ニ於テ質主カ元金、利子及流質期限經過後質契約カ存續シタリトセハ支拂フコトヲ要スヘキ利子ニ相當スル金額ヲ支拂ヒタルトキハ流質物ハ之ヲ返還スヘシ

第十三條 流質物ノ賣却代金ヨリ元金及利子ニ相當スル金額並ニ命令ヲ以テ定ムル手數料ヲ控除シタル殘餘金ハ之ヲ質主ニ交付スヘシ

第十四條 流質物ヲ一括シテ賣却シタル場合ニ於ケル各流質物ニ對スル元金ノ計算ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ交付スヘキ殘餘金額ハ之ヲ質主ニ通知スヘシ

第十六條 通知ヲ發シタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ殘餘金ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 質屋取締法第二條乃至第八條、第十條乃至第十七條及第二十條ノ規定ハ公益質屋ニ之ヲ準用ス

第十八條 質屋取締法第十二條ノ規定ハ第十二條ノ流質物ノ返還及第十三條第一項ノ殘餘金ノ交

付ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ違反スル質契約ニシテ質主ニ不利ナルモノハ其ノ不利ナル部分ニ限り之ヲ爲ササルモノト看做ス

第十七條 公益質屋ノ經營スル公益質屋ノ監督上必要アルトキハ地方長官ハ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第十八條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 公益質屋ノ經營スル公益質屋ノ理事又ハ從業員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第二條乃至第四條、第五條第一項第二項、第六條、第七條第一項、第八條第一項、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

第二十二條 第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品若ハ帳簿ヲ毀損亡失シタルトキ

第二十三條 本法中町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

公益質屋法施行規則

(昭和二年七月十六日 內務省令第三十四號)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第二百三十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行ス)

本法施行ノ際現ニ市町村又ハ公益質屋ノ經營スル公益質屋ハ本法ニ依リ公益質屋ト看做ス市町村又ハ公益質屋ノ經營スル公益質屋ニ於テ本法施行前ニ爲シタル質契約ハ本法ニ拘ラズ仍其ノ效力ヲ有ス

第一條 公益質屋法第一條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

一 名稱

二 業務所ノ位置

三 業務所及其ノ附屬建物ノ規模、構造

四 業務開始ノ豫定年月日

五 事業方法

六 財産目錄

七 定款又ハ審附行爲

公益質屋法施行規則

第二條 市町村又ハ公益質屋ノ業務ヲ開始セントスルトキハ業務開始ノ日前三十日ヨリ迄ニ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第三條 市町村又ハ公益質屋ノ業務ヲ開始セントスルトキハ業務開始ノ日前三十日ヨリ迄ニ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 市町村又ハ公益質屋ノ業務ヲ開始セントスルトキハ業務開始ノ日前三十日ヨリ迄ニ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第五條 質主一部辨濟ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ之ヲ元金ニ充當ス

第六條 公益質屋法第十一條第一項ノ規定ニ依リ流質物ヲ賣却セントスルトキハ競爭入札ノ日前五日ヨリ迄ニ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 入札ニ付スル物品ノ種類及員數

二 契約條項ヲ示ス場所

三 入札ノ場所及日時

四 入札保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ

ハ隨意契約ニ依リ流質物ヲ賣却スルコトヲ得

一 競爭入札ニ付スルモノ入札ナキトキ

二 競價格ニ達セザルトキ

三 流質物カ競爭入札ニ付スルヲ適當トセザルトキ

四 競爭入札ニ付スルヲ著シク不利ト認ムルトキ

第八條 流質物毀損變質其ノ他ノ事由ニ因リ賣却スルコトヲ得サルニ至リタル場合ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第九條 公益質屋法第十三條第一項ノ手數料ハ流質物ノ賣却代金ノ百分ノ五トス

第十條 公益質屋法第十三條第二項ノ場合ニ於ケル各流質物ニ對スル代金ハ賣却代金ヲ其ノ質入當時ニ於ケル評價格ニ按分シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條 公益質屋ニ備付タルコトヲ要スル帳簿ノ様式ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 質札及通帳ニハ其ノ番號、質主ノ住所、氏名及公益質屋ノ名稱ヲ記載シ主務者記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸付金額、質物ノ種類、員數、番號及質入年月日ヲ記入スヘシ其ノ様式ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

質札及通帳ニハ申出ニ依リ質契約ニ關シ通

知ヲ受クヘキ場所ヲ記載スルコトヲ得
 第十三條 質屋主質札又ハ通帳ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ番號、借受金額、質物ノ種類、員數及質入年月日ヲ記載シ保證人ノ連署シタル書面ヲ以テ質札又ハ通帳ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得
 質札又ハ通帳ノ再交付ヲ爲サントスルトキハ其ノ質札又ハ通帳ノ番號ヲ一週間公示スヘシ
 第十四條 公益法人公益質屋ノ業務ニ關シ規程ヲ設ケントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ爲サントスルトキ亦同シ
 第十五條 本令中町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス
 附則 本令ハ昭和二年八月十日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ公益質屋ヲ經營スル市町村又ハ公益法人ハ本令施行後一月以内ニ第一條第一號乃至第三號及第五號ニ掲グル事項並ニ業務開始ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

信託業法

(大正十一年四月二十一日) 改正 昭和四一法律六七

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル信託業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 信託業法
 第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
 第二條 信託業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ
 信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 信託會社ハ左ニ掲グル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス
 一 金錢
 二 有價證券
 三 金錢債權

四 動産
 五 土地及其ノ定著物
 六 地上權及土地ノ賃借權
 第五條 信託會社ハ左ニ掲グル業務ニ限り之ヲ併セ營ムコトヲ得
 一 保護預り
 二 債務ノ保證
 三 不動産賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ賃借ノ媒介
 四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
 五 財産ニ關スル遺言ノ執行
 六 會計ノ検査
 七 左ノ事項ニ關スル代理事務
 一 財産ノ取得、管理、處分又ハ賃借
 二 財産ノ整理又ハ清算
 三 債權ノ取立
 四 債務ノ履行
 第五條 主務大臣ハ債務ノ保證ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設ケルコトヲ得
 第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得
 第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ

一但シ其ノ金額百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス
 第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受タルノ權利ヲ有ス
 第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セザル金錢信託ニ限り元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得
 第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス
 信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行為ニ依リ受益者ニ對シ質擔スル債務ヲ履行スル爲ニ必要ナル場合ニ限り信託行為ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得
 第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス
 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
 二 公債其ノ他前號ニ掲グル有價證券ヲ質トスル貸付
 三 動産ノ買入又ハ動産ヲ擔保トスル貸付
 四 不動産ノ買入

五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付
 六 公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付
 七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入
 前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ連スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
 第十三條 信託會社ハ毎半年業務報告書ヲ作リ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
 貸借對照表ハ毎半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ
 第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
 第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ
 第十六條 合併後存續スル信託會社又ハ合併

ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス
 信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス
 第十七條 主務大臣ハ何時ニモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
 第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得
 第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ

第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ

第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ

本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ

信託會社カ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目錄ヲ作ラサルトキ

信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依リテ信託財産ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第三十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ至多二百圓ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日法律第五十二號)

改正
明治四二一法律二九
大正三一一法律三
昭和八一法律四六

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テタル擔保附社債信託法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 動産質

二 證書アル債權質

三 不動産抵當

擔保附社債信託法

第一章 總則

四 船舶抵當

五 鐵道抵當

六 工場抵當

七 鐵道運送業抵當

八 運河運送業(昭和八年法律第四十四號ヲ以テ第九條ヲ削リ本號ヲ第九號トス)

九 漁業財團抵當(同上ヲ以テ本號追加)

十 自動車交通事業抵當(同上)

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ノ資本又ハ金銀ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金銀ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會

社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第九十條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

第十六條 商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セザルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ
第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代理者之ニ署名スヘシ(昭和八年法律第四十四號ヲ以テ第二項削除)

七 利息支拂ノ方法及期限
八 債權ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示
九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分
十一 委託及受託ノ表示
十二 證書作成ノ年月日
第十九條ノ二 社債ノ總額ヲ數同ニ分チ發行スル場合ニ於テハ信託證書ニハ前條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ニ代ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ(同上ヲ以テ本條追加)

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 第十九條第一號乃至第七號及第十號八號ヲ以テ本號改正)
二 物上擔保附社債ナルコト
三 信託證書ノ表示
四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル

一 委託會社及受託會社ノ商號
二 社債ノ總額
三 各社債ノ金額
四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
五 社債價還ノ方法及期限
六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
八 信託證書若ハ其ノ原本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所
社債ノ總額ヲ數同ニ分チ發行スル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲモ公告スヘシ但シ第十九條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事項ハ其ノ旨ニ發行スル社債ニ關スルモノトス(同上ヲ以テ本條改正)

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ヲ募集シ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債權ヲ發行シ社債ノ價還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス權利ヲ有ス
第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ(同上ヲ以テ本號改正)
第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタルコトヲ得
第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債權ヲ發行シ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債權發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債權ヲ發行スルコトヲ得
第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第十二條ノ規定ヲ準用ス(同上)
受託會社ハ社債ヲ讓渡ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ原本ヲ閱覽セシムヘシ
第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ價還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス權利ヲ有ス
第二十九條 委託會社ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得
前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ兩行為トス
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債權ヲ發行シ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債權發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スルコトヲ得
第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ於テハ其ノ第三者カ擔保ノ價格ニ付調査シタル結果ヲ表示ヲ以テ第二十二條ノ規定ヲ準用ス(同上)

十二條第一項第四號ノ二ニ掲ケタル事項ニ代フルコトヲ得(同上)以テ本項追加)

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ原本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ原本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ原本ニ之ヲ準用ス

第三十一條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ最終ノ回ノ發行ハ信託證書作成ノ日ヨリ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第三十一條ノ三 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テ未タ發行セサルモノアルトキハ委託會社又ハ受託會社トノ契約ヲ以テ社債ノ總額ヲ其ノ既ニ發行シタル額ニ至ルマテ減額スルコトヲ得受託會社ハ正當ノ事由ナクシテ契約ノ締結ヲ拒ムコトヲ得ス(同上)

前項ノ契約ノ締結ニ因リ受託會社ノ受ケタル損害ハ委託會社之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第十九條ノ三第二項及第七十七條ノ規定ハ第一項ノ契約ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受

託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十三條ノ二 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ各回ノ發行金額ノ引受ヲ以テ社債ノ總額ノ引受トス(同上)

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條ノ三第一項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ(同上)以テ本項改正)

一 第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項(同上)

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依リ委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

社債カ其ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ其ノ第一回ノ發行ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ登記シ第二回以後ノ發行ニ付テハ其ノ回ノ發行金額及第

十九條第三號、第五號乃至第七號、第二十二條第二項第三號、前項第三號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ其ノ發行毎ニ登記スヘシ(同上)以テ本項追加)

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項(同上)

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 債券ノ番號

四 前條第一項第三號及第四號ニ掲ケタル事項(同上)

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セ

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項(同上)

二 第三十四條第一項第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ社債原簿ニ其ノ發行毎ニ前項ニ掲ケタルモノノ外第二十二條第二項第一號及第三號ニ掲ケタル事項ヲモ記載スヘシ(同上)以テ本項追加)

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ原本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ原本ハ委託會社トノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ原本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ原本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置タヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ原本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ委託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原本ヲ第二十九

條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ召集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ

社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ
 自ラ之ヲ招集スルコトヲ得
 前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキ
 ハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘ
 シ
 第九十四項又ハ第九十九條ニ定メタル集會
 ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得
 第五十一條 商法第五百十六條ノ規定ハ社債
 權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス
 第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約
 ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレ
 タル議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第
 六十四條、第六十七條第一項第七十五條、
 第六十五條、第六十六條及第九十七條第一
 項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有
 スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シ
 タル者ノ半数以上ニシテ社債總額ノ半数以
 上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場
 合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定
 ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス
 集會ニ出席セザル社債權者ハ信託契約ニ別
 段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決
 權ヲ行フコトヲ得
 各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一個ノ議
 決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ一倍以
 上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ

以テ之ヲ制限スルコトヲ得
 第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ
 總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債
 權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ
 意見ヲ述ブルコトヲ得
 第五十四條 委託會社ノ代表者ハ社債權者集
 會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ
 付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席
 シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述ブルコ
 トヲ得
 第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前
 二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ
 通知ヲ發スヘシ
 商法第五百十六條第一項及第二項ノ規定ハ
 前項ノ通知ニ之ヲ準用ス
 第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタ
 ル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ
 通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ
 得
 第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其
 ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ
 違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各
 社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所
 ニ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ
 爲スヘシ
 社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ

債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ
 因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ
 第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ
 事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契
 約ニ定メタルモノニ限ル
 第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ
 決議録ヲ作成スヘシ
 第六十條 委託會社ハ社債權者集會ノ決議録
 ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ
 受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求ヲ
 ルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議
 録ヲ閱覽セシムヘシ
 第六十一條 委託會社以外ノ者カ決議録ヲ作
 成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ
 謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用
 ス
 第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社
 又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ
 引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除ク
 ノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス
 第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社
 之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ
 執行スルコトヲ許サザルトキハ集會ニ於テ
 之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム
 第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ
 社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者

ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ
 委任スルコトヲ得
 代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總
 額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ十分ノ一
 以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス
 代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段
 ノ定メザサルトキハ代表者ノ權限ニ屬ス
 ル事項ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當
 スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ
 自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコ
 トヲ得
 第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公
 告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條
 第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ
 之ヲ通知スヘシ
 第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表
 者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ
 得
 前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ
 委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ
 總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
 第六十七條ノ二 社債ノ總額ヲ數同ニ分チ發
 行スル場合ニ於テ或ル同ノ社債權者ニ
 利害ノ關係アリテ其ノ同ノ社債權者ニ
 損害ヲ及ボサザル事項ハ其ノ同ノ社債權者
 ノ集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム(同上)以テ

本條追加)
 前項ノ社債權者ノ集會ニハ社債權者集會ニ
 關スル規定ヲ準用ス
 第六十七條ノ三 社債ノ總額ヲ數同ニ分チ發
 行スル場合ニ於テ社債權者集會ノ決議カ或
 ル同ノ同ノ社債權者ノ損害ヲ及ボスヘキト
 キハ其ノ同ノ社債權者ノ決議アルコトヲ要
 ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準
 用ス(同上)
第七章 信託契約ノ效力
 第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事
 務ヲ處理スヘシ
 第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者
 ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託
 事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
 第七十條 信託契約ニ依ル物件擔保ハ信託證
 書ニ記載シタル總社債權者ノ爲ニ受託會社
 ニ歸屬ス
 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存
 シ且實行スルノ義務ヲ負フ
 第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應ジ平
 等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス
 第七十二條 信託契約ニ依リ物上擔保ハ社債
 成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス
 第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七
 十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託

契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス
 第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ
 以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得
 第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議
 ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更
 スルコトヲ得
 第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一
 ノ效力ヲ有ス
 第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約
 ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタ
 ル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社
 通達ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル
 社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ
 總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知ス
 ヘシ
 第二十條、第二十一條及第三十一條ノ規定
 ハ前項ノ契約證書ニ之ヲ準用ス(昭和八年
 法律第四十四號ヲ以テ本項改正)
 第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債
 權者ノ爲ニノミ行使スルコトヲ得
 第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ
 償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二
 箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權
 者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ
 爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲サザル
 トキハ社債ノ總額ニ付期間ノ利益ヲ失ハシ
 ムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲サザル
トキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ
第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益
ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ
公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十
九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル
者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債
ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル
場合ニ之ヲ準用ス
第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セザレヌ
又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ
解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債
權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ
民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依
ル動産質ニ之ヲ適用セス
第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付
與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物
ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依リ競賣
ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ社債權者ニ對スル異議ハ受託
會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得
第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定
ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得
ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議

ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ
因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲
スコトヲ得
第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議
ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又
ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコト
ヲ得
第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十
五條又ハ前條ノ掲ケタル行爲ヲ完了シタル
トキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタ
ル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債
ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知
スヘシ
第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟
ヲ得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ應ジテ各
社債權者ニ交付スヘシ
受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シ
タルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準
用ス
社債權者ヲ通知スルコト能ハサルトキ又ハ
社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能
ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲
ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ
受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九
條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者
ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ
得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲
スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社
債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任
シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合
ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外
ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ
第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁
判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ
各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス
第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託
事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコト
ヲ得
信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百
四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約
ニ之ヲ準用ス
第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務
ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費
用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還
シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠
償スルノ義務ヲ負フ
受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル
費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社
債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ對シ之ヲ準用ス
第九十三條 信託契約ニ依リ擔保ハ前條
第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債

權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス
受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先
シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス
第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ
物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少
セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ
社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ
相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ
設定シタルモノト看做ス
前項ノ質權ハ信託契約ニ依リ物上擔保ト看
做ス
第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ
依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ
十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ
受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査
スルコトヲ得
無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受
託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ
爲スコトヲ得ス
第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規
定ハ信託契約ニ依リ質權ニ之ヲ準用ス

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所
ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意
アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定
メテ辭任スルコトヲ得
信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナル
トキハ第八十七條第一項ノ規定ヲ準用ス
第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サレ
由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任ス
ルコトヲ得
第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又
ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其
ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託
會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會
社ヲ辭任スルコトヲ得
第一百條 第二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任
シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消
サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ
受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシム
ヘシ
第一百一條 第九十九條ニ依リ信託事務ノ承繼
ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代
表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リ
テ其ノ效力ヲ生ス
前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲
滞ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
前條ニ依リ承繼ハ新受託會社ニ對スル主務
官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力
ヲ生ス

第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依
ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新
受託會社、第一百條ニ依ル場合ニ於テハ委託
會社及新受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告ス
ヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第
一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ
各別ニ之ヲ通知スヘシ
第一百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第
百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前
受託會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務
ヲ處理スヘシ
社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ
歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、
解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遷リテ新
受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違
反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此
ノ限ニ在ラス
第一百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物
ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受
託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモ
ノト看做ス
第一百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表ス
ル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク
其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル
物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ
移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼
ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八章 信託事務ノ承繼

及終了

擔保附社債信託法

第八章

信託事務ノ承繼及終了

前項ニ掲ケタル引續ヲ完了シタルトキハ各
會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ
届出ヘシ
前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附
スヘシ
第六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監
督ニ屬ス
第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ
準用ス
第七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタル
トキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章 罰則

第八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社
債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千
圓以下ノ過料ニ處ス
第九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執
行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、
第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代
表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シ
タルトキ
四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタ
ルトキ
五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二

項ノ規定ニ違反シタルトキ
六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ
記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルト
キ
七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場
合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ
履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ
八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存
又ハ實行ヲ怠リタルトキ
九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ
規定ニ違反シタルトキ
十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケ
タルトキ
十一 第五條第一項ニ定メタル事務ノ
引續ヲ怠リタルトキ
十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場
合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタ
ルトキ
十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對
シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽
シタルトキ
十四 第九十九條ノ二ニ依ル登記ヲ爲ス
コトヲ怠リタルトキ(昭和八年法律第
四十四號ヲ以テ本號追加)
第十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執
行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、
第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受

ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九
條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五
圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ定メタル届出、公告又ハ通知
ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ
通知ヲ爲シタルトキ
二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セ
ス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正
當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシト
キ
四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カ
ス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又
ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
第十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至
第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ
之ヲ準用ス
附則(明治三十八年法律第五十二
號附則)

第一百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於
テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
第一百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ
營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請
スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法
第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主
務官廳ノ免許書又ハ其ノ認認アル謄本ヲ添
附スヘシ

既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業
ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申
請スルトキ亦前項ニ同シ
第十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシ
テ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免
許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
第十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二
條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許
ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ屬
託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
第十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書
ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタ
ル書面ノ外信託證書及第十九條ノ四第一項
ノ契約證書アルトキハ其ノ證書ヲ添附スヘ
シ(昭和八年法律第四十四號ヲ以テ本條改
正)

第十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變
更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ
之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申
請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル
書類ヲ添附スヘシ
第十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登
記ニ付テハ委託會社ノ登記權者トス
第十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登
記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第
百十六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記

載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル
前項ノ場合ニ於テ社債ノ總額ノ數回ニ分チ
發行スルトキハ不動産登記法第十六條又
ハ第十七條ノ規定ニ拘ラス申請書ニハ社
債ノ總額、社債ノ總額ノ數回ニ分チ發行ス
ル旨ヲ表示及社債ノ利率ノ最高限度ノミヲ
記載スヘシ(同上ヲ以テ本項追加)
第十九條ノ二 信託契約ニ依ル物上擔保附
社債ノ總額ノ數回ニ分チ發行スル場合ニ於
テ社債ヲ發行シタルトキハ其ノ同ノ發行金
額ニ付引受又ハ募集ノ完了シタル日ヨリ二
週間内ニ其ノ同ノ發行金額及其ノ同ノ社債
ニ關スル第九十九條第五號乃至第七號ニ掲ケ
タル事項ヲ登記スヘシ(同上ヲ以テ本條追
加)

商法第二百四條ノ三第三項ノ規定ハ前項ニ
規定スル登記ノ期間ニ準用ス
第一項ノ登記ハ其ノ社債ヲ擔保スル權利ノ
登記ニ附記シテ之ヲ爲ス
第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム(明治三十八年勅令第八十五號ヲ
以テ同年七月一日ヨリ施行ス)
附則(昭和八年法律第四十四號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業
ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申
請スルトキ亦前項ニ同シ
第十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシ
テ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免
許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
第十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二
條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許
ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ屬
託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
第十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書
ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタ
ル書面ノ外信託證書及第十九條ノ四第一項
ノ契約證書アルトキハ其ノ證書ヲ添附スヘ
シ(昭和八年法律第四十四號ヲ以テ本條改
正)

第十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變
更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ
之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申
請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル
書類ヲ添附スヘシ
第十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登
記ニ付テハ委託會社ノ登記權者トス
第十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登
記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第
百十六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記

手形法

(昭和七年七月十四日法律第二十號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル手形法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一編 爲替手形

第一章 爲替手形ノ振出及方式

第一條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字
二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託
三 支拂フ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
四 滿期ノ表示
五 支拂フ爲スベキ地ノ表示
六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱
七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示
八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲タル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
滿期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス
支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス
振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス
第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得
爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得
爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得
第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得
第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズヘキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做ス
利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ

表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲ササルモノト看做ス
利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス
第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス
爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス
第七條 爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルコトナシ
第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂フ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同シ
第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス
振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セサルモノト看做ス
第十條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫

メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 裏書

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得
振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得
裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス
一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス
持受人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス
第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スル

手形法

第一編 爲替手形

第二章 裏書

コトヲ要ス
裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス
裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ
一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得
二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ裏書スルコトヲ得
第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支拂ヲ擔保ス
裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ裏面ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ
第十六條 爲替手形ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同シ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ於テ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ依リテ手形ヲ

取得シタルモノト看做ス
事由ノ何タルヲ問ハズ爲替手形ノ占有者失ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十七條 爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人ノ關係ニ基キ抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十八條 裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單純ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル
代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ
第十九條 裏書ニ「擔保ノ爲」、「質入ノ爲」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使

スルコトヲ得但シ所持人ノ爲シタル裏書ハ代理ノ爲メ裏書トシテノ效力ノミヲ有ス債務者ハ裏書人ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 引受

第二十一條 爲替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ滿期ニ至ル迄引受ノ爲メ支拂人ニ其ノ住所ニ於テ之ヲ呈示スルコトヲ得

各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲メ手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得但シ振出人カ引受ノ爲メ呈示ヲ禁シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

コトヲ要ス日附ノ記載ナキトキハ所持人ハ裏書人及振出人ニ對スル請求權ヲ保全スル爲メハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶證書ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ證スルコトヲ要ス

第二十九條 爲替手形ニ引受ヲ記載シタル支拂人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ證券ノ返還前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知ヲ爲シタルトキハ此等ノ者ニ對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四章 保證

第三十條 爲替手形ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得

一ノ責任ヲ負フ 保證ハ其ノ擔保シタル債務カ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

其ノ期日ヨリ始マル 第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ滿期ハ引受ノ日附又ハ拒絶證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス
前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知り得ベキトキハ之ヲ適用セズ

第六章 支拂

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ要ス
手形交換所ニ於ケル爲替手形ノ呈示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル効力ヲ有ス

第三十九條 爲替手形ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ手形ニ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得
所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ
一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 爲替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ要セズ
滿期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス
滿期前ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限り其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏

書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ請査スル義務ナシ
第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得
外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
振出國外支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第四十二條 第三十八條ニ規定スル期間内ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債務者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求

第四十三條 滿期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ滿期前ト雖モ亦同ジ
一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ
二 引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效ヲ奏セザル場合
三 引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合

第四十四條 引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證券(引受拒絶證券又ハ支拂拒絶證券)ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス
引受拒絶證券ハ引受ノ爲ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶證券ハ其ノ翌日之ヲ作ラシムルコトヲ得
確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ支拂拒絶證券ハ爲替手形ノ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス一覽拂ノ手形ノ

支拂拒絶證券ハ引受拒絶證券ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス
引受拒絶證券アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證券ヲ要セズ
引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證券ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得ズ
引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ所持人ハ其ノ請求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶證券作成ノ日ニ次グ又ハ無償用價還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス
前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知

ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル
通知ヲ爲スベキ者ハ如他ノ方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得
通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ノ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ
第四十六條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無償用價還」「拒絶證券不要」ノ文句其ノ他ノ同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ請求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證券又ハ支拂拒絶證券ノ作成ヲ免除スルコトヲ得
前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ

要ス
振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ効力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテ其ノ効力ヲ生ズ振出人カ此ノ文言ヲ記載シタルトキハ其ノ費用ハ所持人ノ之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證券ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得
第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ
所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得
爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノ同一ノ權利ヲ有ス
債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ
第四十八條 所持人ハ請求ヲ受クル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得
一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息ニ年六分ノ率ニ依ル滿期以後ノ利息

手形法 第一編 爲替手形 第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用
 満期前ニ請求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額
 二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息
 三 其ノ支出シタル費用

第五十條 請求權ヲ受ケタル又ハ受ケベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條 一部引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ請求ヲ爲スルコトヲ得シムル爲メ手形ノ證明書及拒絶證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂トシ

テ振出し且其ノ者ノ住所ニ於テ支拂トベキ新し手形(戻手形)ニ依リ請求ヲ爲スコトヲ得戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印紙稅ヲ含ム

所持人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住所ニ宛テ振出ス一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所ヨリ前者ノ住所ニ宛テ振出ス一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三條 左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間
 二 引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間
 三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲メ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲メ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベ

キトキハ此ノ限ニ在ラズ
 裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ依リ之ヲ援用スルコトヲ得

第五十四條 法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス不可抗力ガ滿期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコトヲ得

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ所持人又ハ所持人カ手形ノ呈示若ハ拒絶證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テハ單純ナル人の事由ハ不可

抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 參加

第一節 通則

第五十五條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

爲替手形ハ請求ヲ受ケベキ何レノ債務者ノ爲メ參加ヲ爲ス者ニ於テモ本章ニ規定スル條件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

參加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形トシテ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

參加人ハ其ノ被參加人ニ對シ二取引日内ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 參加引受

第五十六條 參加引受ハ引受ノ爲メ呈示ヲ禁ゼザル爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記

載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ニ爲替手形ヲ呈示シ且拒絶證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ證スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

參加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ參加引受ヲ拒ムコトヲ得若所持人カ之ヲ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル請求權ヲ失フ

第五十七條 參加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ參加人署名スベシ參加引受ニハ被參加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲メ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十八條 參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ

被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絶證書及受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節 參加支拂

第五十九條 參加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

支拂ハ被參加人カ支拂ヲ爲スベキ金額ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支拂ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有スル參加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者カ豫備支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ拒絶證書ノ作成ナキトキハ豫備支拂人ヲ記載シタル者又ハ被參加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一條 參加支拂ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第六十二條 參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ證スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲メ之ヲ爲シタルモノト看做ス爲替手形ハ參加支拂人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 參加支拂人ハ被參加人及其ノ者

ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ

第九章 複本及贖本

第一節 複本

第六十四條 爲替手形ハ同一内容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

第二節 贖本

第六十七條 爲替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權利ヲ有ス

第十章 變造

第六十九條 爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第十一章 時効

第七十條 引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル

第十二章 通則

第七十一條 時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ス

第七十二條 滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行為殊ニ引受人ノ爲シテ拒絶證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第二編 約束手形

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字

手形法 第一編 爲替手形

第十二章 通則

第二編 約束手形

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束

三 滿期ノ表示

四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖スル者ノ名稱

六 手形ヲ振出ス日及地ノ表示

七 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第七十六條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ約束手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條 左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

一 裏書(第十一條乃至第二十條)

二 滿期(第三十三條乃至第三十七條)

三 支拂(第三十八條乃至第四十二條)

四 支拂拒絶ニ因ル請求(第四十三條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十四條)

形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ署名シタル日ヨリ
進行ス振出人カ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ
拒ミタルトキハ拒絶證書ニ依リテ之ヲ證ス
ルコトヲ要ス(第二十五條)其ノ日附ハ一覽
後ノ期間ノ初日トス
附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商
法施行法第二百二十四條乃至第二百二十六條ハ
之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ
適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ効
力ヲ有ス

第八十一條 本法施行前ニ振出シタル爲替手
形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺
印ヲ含ム

第八十三條 第三十八條第二項(第七十七條
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形
交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第八十四條 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジ
タル權利ノ欠陥又ハ時効ニ因リテ消
滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受
人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限
度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ
對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ
消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在
リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ
中断ス

前項ノ規定ニ因リテ中断シタル時効ハ裁判
ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、
日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務
ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定
ム其ノ國ノ法律カ他國ノ法律ニ依ルコトヲ
定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ據グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者
ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ
國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ實
任ヲ負フ

第八十九條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲
ノ方式ハ署名ノ爲シタル地ノ屬スル國ノ法
律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規
定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲
ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適
式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式
ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨テラズルコト
ナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及

約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律
ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ日本人
ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第九十條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振
出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬
スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ據グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手
形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル効
力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法
律ニ依リ之ヲ定ム但シ請求權ヲ行使スル期
間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬ス
ル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出
ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ
振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 爲替手形ノ引受人ノ手形金額ノ一
部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂
ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬ス
ル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第九十三條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ
他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又
ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ
作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬
スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又
ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬

小切手法

(昭和八年七月二十八日)
法律第五十七號

第一章 小切手ノ振出及方式

第一條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用
タル語ヲ以テ記載スル小切手ナルコト
ヲ示ス文字
二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナ
ル委託
三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
五 小切手ヲ振出す日及地ノ表示
六 小切手ヲ振出す者(振出人)ノ署名
第七條 前條ニ據グル事項ノ何レカヲ缺ク證
券ハ小切手タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項
ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示
ナキ限り之ヲ支拂地ト看做ス支拂人ノ名稱

二 數箇ノ地ノ附記アルトキハ小切手ハ初頭
ニ記載シタル地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノ
トス

前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ
振出地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ
附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト
看做ス

第三條 小切手ハ其ノ表示ノ時ニ於テ振出人
ノ處分シ得ル資金アル銀行ニ宛テ且振出人
ヲシテ資金ヲ小切手ニ依リ處分スルコトヲ
得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振
出すベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザル
トキト雖モ證券ノ小切手タル効力ヲ妨ガズ

第四條 小切手ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ小切
手ニ爲シタル引受ノ記載ハ之ヲ爲サザルモ
ノト看做ス

第五條 小切手ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出
スコトヲ得

一 記名式又ハ指圖式
二 記名式ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ
之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載ス
ルモノ
三 持參人拂式

記名ノ小切手ニシテ「又ハ持參人」ノ文字
又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シ
タルモノハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

受取人ノ記帳ナキ小切手ハ之ヲ持参人拂式
 小切手ト看做ス
 第六條 小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ
 振出スコトヲ得
 小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコ
 トヲ得
 小切手ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコ
 トヲ得
 第七條 小切手ニ記帳シタル利息ノ約定ハ之
 ヲ爲サザルモノト看做ス
 第八條 小切手ハ支拂人ノ住所ニ在ルト又
 ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト問ハズ第三者ノ住
 所ニ於テ支拂ベキモノト爲スコトヲ得但
 シ其ノ第三者ハ銀行タルコトヲ要ス
 第九條 小切手ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記
 帳シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルト
 キハ文字ヲ以テ記帳シタル金額ヲ小切手金
 額トス
 小切手ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ
 重複シテ記帳シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ
 差異アルトキハ最小金額ヲ小切手金額トス
 第十條 小切手ニ小切手債務ヲ負擔スル能力
 ナキ者ノ署名、偽造署名、假設人ノ署名又
 ハ其ノ他ノ事由ニ因リ小切手ノ署名若ハ
 其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル
 署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之
 ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲララルコトナシ

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシ
 テ小切手ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ小切
 手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタ
 ルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超
 エタル代理人ニ付亦同シ
 第十二條 振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之
 ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ責言ハ之ヲ記帳セ
 ザルモノト看做ス
 第十三條 未完成ニテ振出シタル小切手ニ擔
 保シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗
 スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大
 ナル過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ
 此ノ限ニ在ラズ

第二章 譲渡

第十四條 記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ裏書
 ニ依リテ之ヲ譲渡スコトヲ得
 記名式小切手ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ
 之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記帳シタル
 モノハ指名債權ノ譲渡ニ關スル方式ニ從ヒ
 且其ノ效力ヲ以テ之ヲ譲渡スコトヲ得
 裏書ハ振出人ノ他ノ債務者ニ對シテモ之
 ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ裏
 書スルコトヲ得
 第十五條 裏書ハ單純ナル「要ス裏書ニ附
 シタル條件ハ之ヲ記帳セザルモノト看做ス
 一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス
 支拂人ノ裏書モ亦之ヲ無効トス
 持参人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力
 ヲ有ス
 支拂人ニ對シテ爲シタル裏書ハ受取證書タ
 ル效力ノミヲ有ス但シ支拂人ガ數箇ノ營業
 所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ振宛テラレ
 タル營業所以外ノ營業所ニ對シテ爲シタル
 裏書ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十六條 裏書ハ小切手又ハ之ト結合シタル
 紙片(補箋)ニ之ヲ記帳シ裏書人署名スルコ
 トヲ要ス
 裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又
 ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコ
 トヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ
 裏書ハ小切手ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ
 非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
 第十七條 裏書ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權
 利ヲ移轉ス
 裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ
 一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白
 地ヲ補充スルコトヲ得
 二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更
 三 小切手ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ
 小切手ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ
 第十八條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り支拂

ヲ擔保ス
 裏書人ハ新ナル裏書ヲ續ズルコトヲ得此ノ
 場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ小切手ノ爾後ノ
 被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ
 第十九條 裏書シ得ベキ小切手ノ占有者ガ裏
 書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルコトキハ
 之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白
 地式ナル場合ト雖モ亦同シ抹消シタル裏書
 ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記帳セザルモノト
 看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキ
 ハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因
 リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス
 第二十條 持参人拂式小切手ニ裏書ヲ爲シタ
 ルトキハ裏書人ハ請求ニ關スル規定ニ從ヒ
 責任ヲ負フ但シ之ガ爲證券ハ指圖式小切手
 ニ變ズルコトナシ
 第二十一條 事由ノ何タルヲ問ハズ小切手ノ
 占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切
 手ヲ取得シタル所持人ハ小切手ガ持参人拂
 式ノモノナルトキ又ハ裏書シ得ベキモノニ
 シテ其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權
 利ヲ證明スルコトキハ之ヲ返還スル義務ヲ負
 フコトナシ但シ惡意又ハ重大ナル過失ニ因
 リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第二十二條 小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者
 ハ振出人ノ他ノ所持人ノ前者ニ對スル人的
 關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコ

トヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スル
 コトヲ知りテ小切手ヲ取得シタルトキハ此
 ノ限ニ在ラズ
 第二十三條 裏書ニ「回收ノ爲」「取立ノ爲」
 「代理ノ爲」其ノ他單純ナル委任ヲ示ス文言
 アルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切
 ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代
 理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗
 スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコ
 トヲ得ベカリシモノニ限ル
 代理ノ爲ノ裏書ニ依リ委任ハ委任者ノ死亡
 又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ
 終了セズ
 第二十四條 拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ
 有スル宣言ノ作成後ノ裏書又ハ呈示期間經
 過後ノ裏書ハ指名債權ノ譲渡ノ效力ノミヲ
 有ス
 日附ノ記帳ナキ裏書ハ拒絕證書若ハ之ト同
 一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成前又ハ呈示期
 間經過後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三章 保證

第二十五條 小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部
 又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコト
 ヲ得
 支拂人ヲ除クノ外第三者ハ前項ノ保證ヲ爲
 スコトヲ得小切手ニ署名シタル者ト雖モ亦
 同シ
 第二十六條 保證ハ小切手又ハ補箋ニ之ヲ爲
 スベシ
 保證ハ「保證」其ノ他ト同一ノ意義ヲ有ス
 ル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スベシ
 小切手ノ裏面ニ爲シタル單純ナル署名ハ之ヲ
 保證ト看做ス但シ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ
 在ラズ
 保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカヲ表示スル
 コトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲
 ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第二十七條 保證人ハ保證セラレタル者ト同
 一ノ責任ヲ負フ
 保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ
 除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルト
 キト雖モ之ヲ有效トス
 保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保
 證セラレタル者及其ノ者ノ小切手上ノ債務
 者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第四章 呈示及支拂

第二十八條 小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ
 反スル一切ノ記帳ハ之ヲ爲サザルモノト看
 做ス
 振出ノ日附トシテ記帳シタル日ヨリ前ニ支
 拂ノ爲呈示シタル小切手ハ呈示ノ日ニ於テ

之ヲ支拂フベキモノトス
 第二十九條 國內ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手ハ十日以内ニ支拂ノ爲メ呈示スルコトヲ要ス
 支拂ノ爲メ呈示スル小切手ハ於テ振出シタル小切手ハ振出地及支拂地ガ同一洲ニ存スルトキハ二十日以内又異洲ニ存スルトキハ七十日以内ニ呈示スルコトヲ要ス
 前項ニ關シテハ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ振出シ地中海沿岸ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手又ハ地中海沿岸ノ一國ニ於テ振出シ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手ハ同一洲内ニ於テ振出シ且支拂フベキモノト看做ス
 本條ニ掲グル期間ノ起算日ハ小切手ニ振出ノ日付トシテ記載シタル日トス
 第三十條 小切手ガ曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタルモノナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換フ
 第三十一條 手形交換所ニ於ケル小切手ノ呈示ハ支拂ノ爲メ呈示タル效力ヲ有ス
 第三十二條 小切手ノ支拂委託ノ取消ハ呈示期間經過後ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ
 支拂委託ノ取消ナキトキハ支拂人ハ期間經過後ト雖モ支拂ノ爲メ呈示コトヲ得
 第三十三條 振出ノ後振出人ガ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ小切手ノ效力ニ影響ヲ及ボスコトナシ

トナシ
 第三十四條 小切手ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得
 所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ
 一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ小切手上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
 第三十五條 裏書シ得ベキ小切手ノ支拂ヲ爲ス支拂人ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ
 第三十六條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル小切手ニ付テハ其ノ呈示期間内ハ支拂ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂フベキコトヲ得呈示ヲ爲スモ支拂ナカリシトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ呈示ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ小切手ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得
 外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ幣制ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ小切手ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ小切手ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス
 第五章 線引小切手
 第三十七條 小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小切手ニ線引ヲ爲スコトヲ得線引ハ次條ニ定ムル效力ヲ有ス
 線引ハ小切手ノ表面ニ二條ノ平行線ヲ引キテ之ヲ爲スベシ線引ハ一般又ハ特定タルコトヲ得
 二條ノ線内ニ何等ノ指定ヲ爲サザルカ又ハ「銀行」若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ一般トス二條ノ線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載シタルトキハ線引ハ之ヲ特定トス一般線引ハ之ヲ特定線引ニ變更スルコトヲ得ルモ特定線引ハ之ヲ一般線引ニ變更スルコトヲ得ズ
 線引又ハ被指定銀行ノ名稱ヲ抹消ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス
 第三十八條 一般線引小切手ハ支拂人ニ於テ銀行ニ對シ又ハ支拂人ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得
 特定線引小切手ハ支拂人ニ於テ被指定銀行ニ對シテノミ又ハ被指定銀行ガ支拂人ナルトキハ自己ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得

コトヲ得但シ被指定銀行ハ他ノ銀行ヲシテ小切手ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得
 銀行ハ自己ノ取引先又ハ他ノ銀行ヨリノ線引小切手ヲ取得スルコトヲ得銀行ハ此等ノ者以外ノ者ノ爲メ線引小切手ノ取立ヲ爲スコトヲ得ズ
 數箇ノ特定線引アル小切手ハ支拂人ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得但シ二箇ノ線引アル場合ニ於テ其ノ一ガ手形交換所ニ於ケル取立ノ爲メ呈示レタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前四項ノ規定ヲ遵守セザル支拂人又ハ銀行ハ之ガ爲メ生ジタル損害ニ付小切手ノ金額ニ還スル迄賠償ノ責ニ任ズ
 第六章 支拂拒絕ニ因ル遡求

附シタル手形交換所ノ宣言
 第四十條 拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ呈示期間經過前ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス
 期間ノ末日ニ呈示アリタルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得
 第四十一條 所持人ハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日以内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ支拂拒絕アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日以内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出入ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス
 前項ノ規定ニ從ヒ小切手ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル
 通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ小切手ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ノ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス
 前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ小切手ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ
 第四十二條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券記載シ且署名シタル「無費用償還」拒絕證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ爲メ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル文言ノ作成ヲ免除スルコトヲ得
 前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル小切手ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス
 振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ

所持人之ヲ裏書人又ハ保人ガ此ノ
 文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書又ハ
 之ト同一ノ効力ヲ有スル宣言ノ作成アリタ
 ルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償
 還セシムルコトヲ得

第四十三條 小切手ノ各債務者ハ所持人ニ
 對シ合同シテ其ノ責任ニ任ズ
 所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負
 ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ
 爲スコトヲ得

小切手ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノ
 モ同一ノ權利ヲ有ス債務者ノ一人ニ對スル
 請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既
 ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同
 シ

第四十四條 所持人ハ請求ヲ受ケタル者ニ對シ
 テ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 支拂アラザリシ小切手ノ金額
 二 年六分ノ率ニ依ル呈示ノ日以後ノ利
 息
 三 拒絶證書又ハ之ト同一ノ効力ヲ有ス
 ル宣言ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ
 費用

第四十五條 小切手ヲ受戻シタル者ハ其ノ前
 者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額
 二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ

計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第四十六條 請求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債
 務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書又ハ之ト同一
 ノ効力ヲ有スル宣言、受取ヲ證スル記載ヲ
 爲シタル計算書及小切手ノ交付ヲ請求スル
 コトヲ得

小切手ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ
 裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第四十七條 法定ノ期間内ニ於ケル小切手ノ
 呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ効力ヲ有
 スル宣言ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國
 ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因
 リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス
 所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ
 不可抗力ヲ通知シ且小切手又ハ補償ニ其ノ
 通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコ
 トヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十一條ノ規定
 ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナ
 ク支拂ノ爲小切手ヲ呈示シ且必要アルトキ
 ハ拒絶證書又ハ之ト同一ノ効力ヲ有スル宣
 言ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可
 抗力ヲ通知ヲ爲シタル日ヨリ十五日ヲ超エ
 テ繼續スルトキハ呈示期間經過前ニ其ノ通
 知ヲ爲シタル場合ト雖モ呈示又ハ拒絶證書

若ハ之ト同一ノ効力ヲ有スル宣言ヲ要セズ
 シテ請求權ヲ行フコトヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絶
 證書若ハ之ト同一ノ効力ヲ有スル宣言ノ作
 成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事
 由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第七節 複本

第四十八條 一國ニ於テ振出し他ノ國ニ於テ
 若ハ振出ノ海外領土ニ於テ支拂フベキ小
 切手、一國ノ海外領土ニ於テ振出し其ノ國
 ニ於テ支拂フベキ小切手、一國ノ同一海外
 領土ニ於テ振出し且支拂フベキ小切手又ハ
 一國ノ一海外領土ニ於テ振出し其ノ國ノ他
 ノ海外領土ニ於テ支拂フベキ小切手ハ持參
 人拂ノモノヲ除ク外同一ノ内容ノ數通ヲ以
 テ之ヲ振出すコトヲ得數通ヲ以テ小切手ヲ
 振出しタルトキハ其ノ證券ノ文言中ニ番號
 ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ
 之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第四十九條 複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ
 他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキト
 キト雖モ義務ヲ免レシム

數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其
 ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返
 還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第八章 變造

第五十條 小切手ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テ
 ハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ
 從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言
 ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第九章 時効

第五十一條 所持人ノ裏書人、振出人其ノ他
 ノ債務者ニ對スル請求權ハ呈示期間經過後
 六月ヲ以テ時効ニ罹ル

小切手ノ支拂ヲ爲スベキ債務者ノ他ノ債務
 者ニ對スル請求權ハ其ノ債務者ガ小切手ノ
 受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタ
 ル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十二條 時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ
 生ジタル者ニ對シテノミ其ノ効力ヲ生ズ

第十章 支拂保證

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲
 スコトヲ得

支拂保證ハ小切手ノ表面ニ「支拂保證」其ノ
 他支拂ヲ爲ス旨ノ文字ヲ以テ表示シ日附ヲ
 附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス
 支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタ
 ル變更ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈

示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈示アリタル場
 合ニ於テノミ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂ナキ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコ
 トハ第三十九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スル
 コトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場
 合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ
 小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナ
 シ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ
 爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之
 ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對
 スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一
 年ヲ以テ時効ニ罹ル

第十一章 通則

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法
 令ニ依リテ銀行ト同視セラルル人又ハ施設
 ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絶證書ノ作成ハ
 取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲殊ニ呈示又ハ
 拒絶證書若ハ之ト同一ノ効力ヲ有スル宣言
 ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ
 法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ

滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間
 中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第六十一條 本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初
 日ヲ算入セズ

第六十二條 恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁
 判上ノモノタルト問ハズ之ヲ認メズ

附則

第六十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
 ヲ定ム

第六十四條 商法第四編第四章ハ之ヲ削除ス

第六十五條 本法施行前ニ振出しタル小切手
 ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六十六條 本法施行後六月内ニ日本ニ於テ
 振出す小切手ハ振出地ノ記載ヲ缺クトキト
 雖モ小切手タル効力ヲ有ス

第六十七條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺
 印ヲ含ム

第六十八條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南
 洋群島又ハ勅令ヲ以テ指定スル亞細亞洲ノ
 地域ニ於テ振出し日本内地ニ於テ支拂フベ
 キ小切手ノ呈示期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ伸長
 スルコトヲ得

第六十九條 第三十一條ノ手形交換所ハ司法
 大臣之ヲ指定ス

第七十條 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅
 令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 小切手ノ振出人ガ第三條ノ規定

ニ違反シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七十二條 小切手ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、裏書人又ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シテ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第七十七條 小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第八十條 左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

九 裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル過料權保全ノ爲拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トスル

拒絶證書令

(昭和八年勅令第三一六號)

第一條 手形(爲替手形約束手形)及小切手ノ拒絶證書ハ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

トキハ拒絶者ガ之ヲ承諾シタルコト支拂人ガ手形法第二十四條ノ一項ノ規定ニ依リテ之ヲ呈示スベキコトヲ請求シタルトキハ拒絶證書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條 數人ニ對スル請求又ハ同一人ニ對スル數回ノ請求ニ付テハ一通ノ拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

拒絶證書カ減失シタル場合ニ於テ利害關係人ノ請求アリタルトキハ前項ノ記載ヲ爲シタル原本ニ依リテ原本ヲ作リ之ヲ利害關係人ニ交付スルコトヲ要ス此ノ原本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

附則 本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件

特例ニ關スル件

(昭和八年十二月十二日勅令第三百十七號)

第一條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ振出シ日本内地ニ於テ支拂フヘキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ二十日トス
南洋群島ニ於テ振出シ日本内地ニ於テ支拂フヘキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス
第二條 日本及滿洲國以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ日本内地ニ於テ支拂フヘキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ六十日トス

附則 本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

不正競争防止法

(昭和九年三月二十六日勅令第十四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル不正競争防止法ヲ

裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不正競争防止法

第一條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ被害者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス

一 本法施行ノ地域内ニ於テ取引上廣ク認識セラルル他人ノ氏名、商號、商標、商品ノ容器包裝其ノ他他人ノ商品タルコトヲ示ス表示ト同一若ハ類似ノモノヲ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ他人ノ商品ト混同ヲ生セシムル行為

二 假設若ハ借用ノ商號ニ附加シテ商品ニ虛偽ノ原產地ノ表示ヲ爲シ又ハ之ヲ表示シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ原產地ノ誤認ヲ生セシムル行為

三 他人ノ商品ノ信用ヲ害スル虛偽ノ事實ヲ陳述シ又ハ之ヲ流布スル行為

前項ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ其ノ行為ノ差止ヲ命スルコトヲ得

第一項第三號ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ商品ノ信用ヲ回復スルニ必要ナル處置ヲモ命スルコトヲ得

第二條 商品ノ普通名稱若ハ取引上普通ニ同

種ノ商品ニ慣用セラルル地名其ノ他ノ表示ヲ使用スル行為又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スル行為ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第三條 外國人ニシテ本法施行ノ地域内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外第一條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 外國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ之ヲ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ商標トシテ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

前項ノ紋章ハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ商品ノ原產地ノ誤認ヲ生セシムル方法ニ依リ取引上之ヲ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

外國ノ官ノ監督用又ハ證明用ノ印章又ハ記號ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ之ヲ同一若ハ類似ノ商品ノ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

帝國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章又ハ官ノ監督用若ハ證明用ノ印章若ハ記號ノ使用ノ許可ヲ當該官判ヨリ受ケタルトキハ外國ノ國

同類以下ノ輸入税ヲ課シ若ハ輸入税ヲ減免シ又ハ輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價額ノ三倍カ七千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行為者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ

主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同シ

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勅令第十七號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス)

本法ハ施行後六年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス(昭和十一年法律第一號ヲ以テ本項中改正)

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行為ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

改正、昭和一一一法律一

(昭和九年四月六日法律第四十五號)

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律

貿易調節及通商擁護

二關スル法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル貿易調節及通商擁護ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ外國ノ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對シテ貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲メ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調查委員會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ關稅定率法別表輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト

同類以下ノ輸入税ヲ課シ若ハ輸入税ヲ減免シ又ハ輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價額ノ三倍カ七千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行為者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ

主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同シ

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勅令第十七號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行ス)

本法ハ施行後六年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス(昭和十一年法律第一號ヲ以テ本項中改正)

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行為ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

改正、昭和一一一法律一

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律 商法

金融組合令

(大正三年五月 勅令第22號)

改正 大正七年六月勅令第13號
昭和三年四月勅令第8號
昭和四年四月勅令第4號
昭和六年六月勅令第12號

第一章 總則

第一條 金融組合ハ組合員ノ金融ヲ緩和シ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル社団法人トス

第二條 金融組合ノ組合員ハ組合ノ區域内ニ於テ住所ヲ有スル者ニ限ル

第三條 金融組合ノ住所ハ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 金融組合ノ名稱中ニハ金融組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ要ス

第五條 金融組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ金融組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第六條 金融組合ハ左ノ業務ヲ行フモノトス
一 組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト
二 組合員ノ爲ニ預金ヲ受入レ又ハ期間ヲ定メテ一定ノ金額ノ給付ヲ爲スコト
三 約シ定期ニ若ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金銀ヲ受入ルコト

第七條 府又ハ朝鮮總督ノ指定シタル市街地力組合ノ區域ニ屬スル金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項第一號ノ資金ノ爲手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第八條 金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ組合員ノ爲ニ其ノ貨物ヲ倉庫ニ保管シ又ハ之ニ對シ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

第九條 前項ノ倉荷證券ニハ商法中倉荷證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 金融組合ハ組合員ニ非サル者ノ爲ニ貯蓄銀行令第一條第一項若ハ第五條第一號ノ業務ヲ爲シ又ハ同令第五條第五號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十一條 金融組合ハ無盡會社又ハ無盡管理會社ヨリ預リ金ヲ爲スコトヲ得(昭和六年六月勅令第十二號ヲ以テ本項追加)

第十二條 金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ他ノ金融組合若ハ銀行ノ業務ヲ代理シ又ハ銀行ノ業務ノ媒介ヲ爲スコトヲ得

第十三條 金融組合ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十四條 業務上ノ餘裕金ハ金融組合聯合會若ハ朝鮮總督ノ指定シタル銀行ニ預入シ、郵便貯金ト爲シ又ハ國債證券、地方債證券其ノ他朝鮮總督ノ認可シタル有價證券ヲ買入ルノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十五條 金融組合ハ業務ノ爲ニ必要ナル物件ヲ取得シ又ハ債務辨濟ノ爲物件ヲ引受クル場合ヲ除クノ外動産又ハ不動産ヲ所有スルコトヲ得ス

第十六條 金融組合ハ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十七條 出資一口ノ金額ハ十圓以上五十圓以下トシ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十八條 金融組合力其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十九條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ
一 第十四條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
二 事務所
三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四 設立許可ノ年月日

第二十條 前項ノ登記ニ在リテハ登記事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十一條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十二條 前項ノ變更アリタルトキハ金融組合ハ遲滞ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

第二十三條 前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第二十四條 第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル規定ノ規定ニ之ヲ準用ス

第二十五條 民法第四十五條第三項、第四十

トヲ得ス

第二十六條 金融組合ハ 令ニ記載セサル業務ヲ行フコトヲ得ス但シ朝鮮總督ノ命令アリタルトキハ供託又ハ地方金融ノ調節ニ關スル業務ヲ行フコトヲ得

第二十七條 朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ金融組合ノ業務ヲ制限スルコトヲ得

第二十八條 金融組合ニハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十九條 本令ニ定ムルモノノ外金融組合ノ業務ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十條 金融組合ヲ設立セムトスルトキハ定款ヲ作り朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタヘシ

第三十一條 定款ニハ本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ
一 目的
二 名稱
三 區域
四 事務所ノ所在地
五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
六 第一回拂込ノ金額
七 準備金積立ノ方法

第二章 設立

八 剩餘金ノ處分ニ關スル規定

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員持分ノ計算方法ニ關スル規定

十一 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十三 業務ノ執行ニ關スル規定

第十四 金融組合ノ設立ヲ許可スル爲ニ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ既設組合ノ區域及事務所所在地ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條 金融組合ハ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十六條 出資一口ノ金額ハ十圓以上五十圓以下トシ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十七條 金融組合力其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十八條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ
一 第十四條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
二 事務所
三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四 設立許可ノ年月日

五 組合長、理事、副理事及監事ノ氏名住所

第十六條 金融組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 前條第一項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第三號ノ事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十八條 前項ノ登記ニ在リテハ登記事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 主タル事務所以外ノ事務所ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セザリシトキハ前項ノ規定ハ其ノ事務所ニ於テ爲シタル行爲ニ付テノミ之ヲ適用ス

第二十條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十一條 前項ノ變更アリタルトキハ金融組合ハ遲滞ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

第二十二條 前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第二十三條 第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル規定ノ規定ニ之ヲ準用ス

第二十四條 民法第四十五條第三項、第四十

七條及第四十八條ノ規定ハ金融組合ニ之ヲ準用ス但シ期間ニ付一週間トアルハ二週間トス

第二十五條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第二十六條 組合員ノ有スヘキ出資口數ハ百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條 組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第二十八條 組合員ハ拂込ムヘキ出資ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三十條 組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓渡ケムトスルトキハ第五十七條第一項ノ例ニ依ルヘシ

第三十一條 組合員ノ持分ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十二條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第三十三條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ義務ヲ承繼ス

第三十四條 死亡ニ因リテ脱退シタル組合員ノ相続人ハ第五十七條第一項ノ例ニ依リ被相続人ノ持分ヲ承繼スルコトヲ得

第三章 組合員ノ權利義務

八 剩餘金ノ處分ニ關スル規定

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員持分ノ計算方法ニ關スル規定

十一 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十三 業務ノ執行ニ關スル規定

第十四 金融組合ノ設立ヲ許可スル爲ニ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ既設組合ノ區域及事務所所在地ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條 金融組合ハ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十六條 出資一口ノ金額ハ十圓以上五十圓以下トシ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十七條 金融組合力其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十八條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ
一 第十四條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
二 事務所
三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四 設立許可ノ年月日

五 組合長、理事、副理事及監事ノ氏名住所

第十六條 金融組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 前條第一項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第三號ノ事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十八條 前項ノ登記ニ在リテハ登記事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 主タル事務所以外ノ事務所ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セザリシトキハ前項ノ規定ハ其ノ事務所ニ於テ爲シタル行爲ニ付テノミ之ヲ適用ス

第二十條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十一條 前項ノ變更アリタルトキハ金融組合ハ遲滞ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

第二十二條 前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第二十三條 第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル規定ノ規定ニ之ヲ準用ス

第二十四條 民法第四十五條第三項、第四十

七條及第四十八條ノ規定ハ金融組合ニ之ヲ準用ス但シ期間ニ付一週間トアルハ二週間トス

第二十五條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第二十六條 組合員ノ有スヘキ出資口數ハ百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條 組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第二十八條 組合員ハ拂込ムヘキ出資ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三十條 組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓渡ケムトスルトキハ第五十七條第一項ノ例ニ依ルヘシ

第三十一條 組合員ノ持分ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十二條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第三十三條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ義務ヲ承繼ス

第三十四條 死亡ニ因リテ脱退シタル組合員ノ相続人ハ第五十七條第一項ノ例ニ依リ被相続人ノ持分ヲ承繼スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ持分ヲ承繼シタル相續人ニ付之ヲ準用ス
 第二十九條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得總會ノ目的及共ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ組合長ニ請求スルコトヲ得
 第三十條 組合員總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ通知事ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第三十一條 金融組合ニ組合長一人、理事一人、監事二人以上及評議員五人以上ヲ置ク但シ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ副理事一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得
 組合長、監事及評議員ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任シ理事及副理事ハ朝鮮總督之ヲ任免ス
 組合長ノ選任ハ通知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
 組合設立當時ノ組合長及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第三十二條 監事ハ組合長、理事、副理事其ノ他組合ノ職員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十三條 組合長ノ任期ハ三年トス但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得
 監事及評議員ノ任期ハ二年トス但シ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 第三十四條 組合長及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
 第三十五條 組合長ハ理事ト共同シテ金融組合ヲ代表ス但シ組合ノ常務ニ付テハ理事單獨ニ之ヲ代表スルコトヲ得
 組合長又ハ理事ニ對シテ爲シタル意思表示ハ組合ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス
 組合長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會及評議員會ノ議長ト爲ル
 組合長事故アルトキハ理事之ヲ代理シ缺員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ
 理事ハ總會及評議員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
 副理事ハ組合長及理事ヲ補佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ理事ノ職務ヲ代理ス
 第三十五條ノ二 副理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第三十六條 組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ金融組合ノ業務ヲ執行ス

第三十七條 監事ハ金融組合ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査ス
 監事ハ組合ノ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ通知事ニ具申スヘシ
 第三十七條ノ二 金融組合カ組合長、理事又ハ副理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合長、理事又ハ副理事トノ間ニ於ケル訴訟ニ付亦同シ
 第三十七條ノ三 組合長及理事事故アルトキ又ハ缺員ノ場合ニ於テハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ
 組合長及理事カ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ
 第三十八條 評議員ハ評議員會ヲ組織ス
 評議員會ハ組合長之ヲ招集ス
 評議員會ハ本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ定款ニ定メタル事項ヲ決議ス其ノ決議ノ方法ハ定款ノ定ムル所ニ依ル
 評議員ハ組合ノ業務ニ關シ組合長ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第三十九條 定時總會ハ毎年一回定款ニ定メタル時期ニ於テ組合長之ヲ招集ス
 第四十條 臨時總會ハ必要アルトキ組合長之ヲ招集ス

第四十一條 總會ノ招集ハ少クモ十日日前ニ其ノ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ各組合員ニ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第四十二條 總會ニ於テハ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テハ決議ヲ爲スモノトス
 第四十三條 總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 第四十四條 組合員ノ議決權ハ平等トス
 第四十五條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス
 代理人ハ組合員又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルコトヲ要ス
 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ
 第四十五條ノ二 金融組合ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得
 總會ニ關スル規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十五條ノ三 金融組合ト或ル組合員、評議員又ハ總代トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員、評議員又ハ總代ハ議決權ヲ有セス
 第四十六條 組合長及理事ハ定時總會ノ會日

ヨリ一週間前ニ財産目録、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ
 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
 第四十七條 組合長及理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ
 組合長及理事ハ前項ノ承認ヲ得タルトキハ二週間内ニ其ノ書類ヲ通知事ニ提出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ
 第四十八條 定款ハ總會ノ決議ヲ經朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 第三十四條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
 第四十九條 金融組合ハ定款ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
 第四十九條ノ二 金融組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル
 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第五十條 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 各組合員ノ氏名、住所
 二 各組合員ノ出資口數
 三 出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
 四 出資各口ノ取得ノ年月日
 第五十條ノ二 金融組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ
 組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アルトキハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス
 第五十三條ノ三 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス
 債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス
 第五十一條 金融組合ノ事業年度ハ一年トス
 第五十二條 金融組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 第五十三條 金融組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金

ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
 利餘金ハ拂込出資額ニ應シ年七分以下ノ割
 合ヲ以テ配當ヲ爲スコトヲ得但シ組合員カ
 其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ
 剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツルコトヲ要ス
 第五十三條ノ二 前條第一項ノ準備金ハ左ノ
 場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
 一 損失ノ補填ニ充ツルトキ
 二 其ノ金融組合ノ區域カ他ノ金融組合
 ノ區域ト爲リタル場合ニ於テ朝鮮總督
 ノ認可ヲ受ケ其ノ財產ノ一部ヲ他ノ金
 融組合ニ讓與スルトキ
 第五十三條ノ三 金融組合ハ第六條ノ規定ニ
 依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額
 ヲ左ノ方法ニ依リ管理スヘシ
 一 金融組合聯合會若ハ朝鮮殖産銀行ヘ
 ノ預ケ金又ハ郵便貯金
 二 國債證券又ハ地方債證券ノ金融組合
 聯合會又ハ朝鮮殖産銀行ヘノ保護預ケ
 前項ノ受入金額ハ毎年三月及九月ノ各末日
 現在ニ依リ之ヲ定ム
 第六條ノ規定ニ依ル預金者及給付金ノ債權
 者ハ其ノ預金及給付ニ關シテハ第一項ノ規
 定ニ依リテ管理シタル預ケ金、國債證券及
 地方債證券ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受
 クルノ權利ヲ有ス
 第五十四條 金融組合ハ組合員ノ持分ヲ取得

スルコトヲ得ス
 第五十五條 組合長、理事又ハ副理事ハ定款
 又ハ總會ノ決議ニ依リ禁止セラレサルトキ
 ニ限リ或ル種類又ハ特定ノ事項ニ付他人ヲ
 シテ代理セシムルコトヲ得
 第五十六條 金融組合ハ組合長、理事、副理
 事又ハ前條ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付
 他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス
 第五章 加入及脱退
 第五十七條 組合員ノ加入ハ評議員會ノ決議
 ヲ經ルコトヲ要ス
 新ニ組合員ト爲リタル者ハ定款ノ定ムル所
 ニ依リ直ニ第一回ノ出資拂込ヲ爲スヘシ
 第五十八條 組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱
 退ヲ爲スコトヲ得但シ三月前ニ其ノ豫告ヲ
 爲スコトヲ要ス
 第五十九條 組合員ハ左ノ事由ニ因リ脱退ス
 一 組合員タル資格ノ喪失
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名
 第六十條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
 除名ハ評議員會ノ決議ニ依ル但シ除名シタ
 ル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之

ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス
 第六十一條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ム
 ル所ニ依リ其ノ持分ノ拂戻ヲ請求スルコト
 ヲ得但シ第五十三條第一項ノ準備金ニ對ス
 ル持分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 前項ニ規定スル拂戻ノ請求權ハ二年間之ヲ
 行ハサルニ因リテ消滅ス
 第六十二條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合ノ
 財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルニ足ラサル
 トキハ脱退シタル組合員ハ出資額ヲ限度ト
 シ其ノ負擔ニ歸スヘキ金額ヲ拂込ムヘシ
 第六十三條 脱退シタル組合員カ組合ニ對ス
 ル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂
 戻ヲ停止スルコトヲ得
 第六章 監督
 第六十四條 金融組合ハ朝鮮總督及道知事之
 ヲ監督ス
 第六十五條 監督官廳ハ何時ニテモ金融組合
 ヲシテ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ報告セシメ
 又ハ之ヲ報告スルコトヲ得
 第六十六條 監督官廳ハ金融組合ノ業務又ハ
 財產ノ狀況ニ依リ組合ニ對シ財產ノ供託ヲ
 命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
 第六十七條 金融組合カ定款、本令、本令ニ
 基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタルト
 キ、公益ヲ害スル虞アルトキ又ハ組合ノ事

業ノ繼續困難ナルトキハ監督官廳ハ總會若
 ハ評議員會ノ決議ヲ取消シ、組合長、監事
 若ハ評議員ノ改選ヲ命シ又ハ組合ノ事業ノ
 停止ヲ命スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ組合ノ解散ヲ
 命スルコトヲ得
 第七章 解散
 第六十八條 金融組合ハ左ノ事由ニ因リ解散
 ス
 一 定款ニ定メタル存立時期ノ満了又ハ
 事由ノ發生
 二 總會ノ決議
 三 合併
 四 組合員ノ缺亡
 五 破産
 六 前條第二項ノ命令
 第六十九條 第三十四條ノ規定ハ解散及合併
 ノ決議ニ之ヲ準用ス
 前項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非
 サレハ其ノ效力ヲ生セス
 第七十條 金融組合第六十八條第一號、第二
 號又ハ第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキ
 ハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ
 登記ヲ爲スヘシ
 第二十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ解
 散ノ登記ニ之ヲ準用ス

第七十一條 第五十條ノ二及第五十條ノ三ノ
 規定ハ金融組合ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十二條 削除
 第七十三條 金融組合カ合併ヲ爲シタルトキ
 ハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併
 後存續スル組合ニ在リテハ變更ノ登記ヲ爲
 シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテ
 ハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シ
 タル組合ニ在リテハ第十九條第一項ノ登記
 ヲ爲スヘシ
 第七十四條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ
 因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅
 シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス
 第七十五條 金融組合カ其ノ債務ヲ完済スル
 コト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組
 合長及理事若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職
 權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス
 前項ノ場合ニ於テ組合長及理事ハ直ニ破産
 宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十六條 解散シタル金融組合債務ヲ完済
 シ殘餘ノ財產アルトキハ定款ノ定ムル所ニ
 依リ之ヲ處分スルモノトス
 第八章 清算
 第七十七條 金融組合解散シタルトキハ合併
 又ハ破産ノ場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依
 リ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 金融組合ノ清算ハ朝鮮總督ノ監
 督ニ屬ス
 朝鮮總督ハ清算事務及財產ノ狀況ヲ検査シ
 財產ノ供託ヲ命シ其ノ他監督ニ必要ナル命
 令ヲ爲スコトヲ得
 第七十九條 清算人ハ朝鮮總督之ヲ任免ス
 第八十條 清算人ハ就職後二週間内ニ各事務
 所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ノ登記ヲ
 爲スヘシ
 前項ノ登記事項ニ變更アリタルトキハ清算
 人ハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其
 ノ登記ヲ爲スヘシ
 第二十條第二項及第三項ノ規定ハ前二項ノ
 清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス
 第八十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財
 產ノ狀況ヲ調査シ財產目錄及貸借對照表ヲ
 作り總會ヲ召集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ
 求ムヘシ
 第八十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又
 ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレ
 ハ組合ノ財產ヲ分配スルコトヲ得ス
 第八十三條 清算事務ヲ終リタルトキハ清算
 人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り總會ヲ召集
 シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ
 第八十四條 清算力結了シタルトキハ清算人
 ハ遲滞ナク各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登
 記ヲ爲スヘシ

清算人ハ清算ノ顛末ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ
第八十五條 第四十二條乃至第四十五條及民法第七十三條第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ金融組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 登記

第八十六條 金融組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第八十七條 登記所ニ金融組合登記簿ヲ備フ
第八十八條 第十九條第一項ノ登記ノ申請書ニハ定款ヲ添付スヘシ
第八十九條 事務所ノ移轉其ノ他登記事項變更ノ登記ノ申請書ニハ移轉其ノ他變更ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ
第九十條 出資一口ノ金額減少ノ登記ノ申請書ニハ其ノ事實ヲ證スル書面ノ外第五十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ催告ヲ爲シタルコト若異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添付スヘシ
第九十一條 組合解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添付スヘシ
前條ノ規定ハ合併ニ因リ解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第九十一條 金融組合カ朝鮮總督ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ其ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ
第九十二條 金融組合ニ關シ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ
第九十三條 非訟事件手續法第四百一十一條乃至第四百十三條、第四百十七條乃至第四百十九條、第五百十條ノ二乃至第五百一十一條ノ六、第五百十四條乃至第五百十七條及第六百七十五條乃至第七十八條ノ規定ハ金融組合ノ登記ニ之ヲ準用ス但シ司法大臣トアルハ朝鮮總督地方裁判所長トアルハ地方法院長トス

第九章ノ二 金融組合聯合會

第九十三條ノ二 金融組合ハ左ノ目的ヲ以テ道ノ區域ニ依リ金融組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得
一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト
二 所屬組合ヨリ預リ金ヲ爲スコト
三 所屬組合ニ對シ業務上ノ指導ヲ爲スコト
四 所屬組合相互ノ聯絡及業務上ノ便宜ヲ圖ルコト
金融組合聯合會ハ金融組合ノ外朝鮮總督ノ

指定シタル產業ニ關スル法人ヲ加入セシムルコトヲ得
金融組合聯合會ハ貯蓄銀行又ハ信託會社ヨリ預リ金ヲ爲スコトヲ得(昭和六年六月制令第十二號ヲ以テ本項追加)
第九十三條ノ三 金融組合聯合會ハ社團法人トス
第九十三條ノ四 出資一口ノ金額ハ五百圓トス
第九十三條ノ五 金融組合聯合會ニ理事長一人理事一人又ハ數人及監事二人以上ヲ置ク
理事長及理事ハ朝鮮總督之ヲ任ス
監事ハ所屬ノ金融組合及第九十三條ノ二第二項ノ法人ノ役員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス
監事ノ任期ハ二年トス但シ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第九十三條ノ六 理事長ハ金融組合聯合會ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス
理事長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會ノ議長ト爲ル
理事ハ理事長ヲ補佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長事故アルトキハ之ヲ代理シ缺員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ
第九十三條ノ七 金融組合又ハ第九十三條ノ二第二項ノ法人カ金融組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經

ルコトヲ要ス

第九十三條ノ八 金融組合聯合會ハ所屬ノ金融組合又ハ第九十三條ノ二第二項ノ法人ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得
第九十三條ノ九 金融組合聯合會ハ朝鮮總督之ヲ監督ス但シ必要アリト認ムルトキハ道知事ヲシテ其ノ監督權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得
第九十三條ノ十 登記所ニ金融組合聯合會登記簿ヲ備フ
第九十三條ノ十一 第三條、第四條、第八條乃至第十四條、第十六條、第十八條乃至第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十七條、第三十四條、第三十七條乃至第三十七條ノ三、第三十九條乃至第四十五條、第四十五條ノ三乃至第五十條、第五十一條乃至第五十三條ノ二、第五十四條乃至第五十六條、第五十七條二項、第五十八條、第五十九條、第六十一條乃至第六十三條、第六十五條乃至第七十條、第七十五條乃至第八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十條第一項及第九十一條乃至第九十三條ノ規定ハ金融組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第四十六條第一項、第四十七條及第七十五條中組合長及理事トアルハ理事長、第十九條第一項第五號、第三十二條、第三十七條ノ二、第五十五條及第五十六條中組合長、理事、

第十章 罰則

第九十四條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 左ノ場合ニ於テハ金融組合ノ組合長、理事、副理事、監事若ハ清算人又ハ金融組合聯合會ノ理事長、理事、監事若ハ清算人ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 監督官廳ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
二 登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
三 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
四 第九條乃至第十一條、第十八條、第二十一條、第二十九條、第五十條、第五十三條、第五十二條、第五十二條、第五十三條、第五十三條ノ三、第七十一條又ハ第七十五條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
五 第四十六條第一項若ハ第四十九條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ第四十六條第一項若ハ第四十九條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載

セス、不正ノ記載ヲ爲シ若ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ閱覽セシメサルトキ
六 第四十七條、第六十五條又ハ第八十四條第二項ノ規定スル報告ヲ爲サス又ハ書類ヲ提出セサルトキ
七 公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
八 清算ノ場合ニ於テ第八十一條乃至第八十三條、民法第七十九條若ハ第八十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ債權中出期間満了前ニ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シタルトキ
九 監督官廳ノ検査ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ
十 本令ニ基キテ發スル命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
第九十六條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス
附 則
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(大正三年八月府令第二百十號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)
舊令ニ依リ設立シタル地方金融組合ハ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項ノ地方金融組合ハ本令施行後三月以内ニ
定款ヲ改正シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第十八條
及第十九條ノ規定ニ準シ出資ノ拂込及登記ノ
手續ヲ爲スヘシ
裁判所前項ノ登記ヲ爲シタルトキハ從前ノ登
記ヲ抹消スヘシ

附則(大正七年六月制令第十三號)
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(大正七
年九月府令第八十七號ヲ以テ同年十月一日ヨ
リ施行)

從前ノ規定ニ依ル地方金融組合登記簿ハ本令
ニ依ル金融組合登記簿ト看做シ其ノ登記簿中
地方金融組合トアルハ金融組合ニ變更セラレ
タルモノト看做ス

附則(昭和二年十二月制令第八號)
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和四
年五月府令第四十三號ヲ以テ同年七月一日ヨ
リ施行)

附則(昭和四年四月制令第四號)
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和四
年四月府令第三十七號ヲ以テ同年五月一日ヨ
リ施行)

本令施行ノ際現ニ組合員ニ貸付スル資金ノ爲
手形ノ割引ヲ爲シ又ハ組合員ノ爲ニ其ノ生産
物ヲ倉庫ニ保管シ若ハ之ニ對シ倉荷證券ヲ發
行スル金融組合ハ別ニ第五條第二項又ハ第三
項ノ規定ニ依ル朝鮮總督ノ認可ヲ受ケスシテ

其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得
本令施行ノ際現ニ存スル金融組合及金融組合
聯合會ハ本令ノ施行ニ伴ヒ登記スヘキ事項ヲ
本令施行後三月内ニ第二十條第一項ノ規定ニ
準シ登記スヘシ
本令施行ノ際現ニ組合員ノ有スル出資口數カ
百口ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ百口ヲ超ユル
部分ニ付テハ第二十三條第二項ノ規定ヲ適用
セス

本令施行前金融組合ノ爲シタル契約ニシテ本
令ニ依リ金融組合ノ爲スコトヲ得サル業務ニ
關スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍
ホ其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スル
コトヲ得

本令施行ノ際現ニ在職スル理事ニシテ總會ニ
於テ選任セラレタルモノハ第三十一條第二項
ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ任命シタルモノト看
做ス

附則(昭和六年六月制令第十二號)
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和六
年九月府令第十四號ヲ以テ昭和六年十二月
一日ヨリ施行)

朝鮮信託業令

(昭和六年六月九日
制令第八號)

第一條 信託業ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クルニ
非サレバ之ヲ營ムコトヲ得ス
前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ定
款及ニ業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面
ヲ添附シ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第二條 信託業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式
會社ニ非サレバ之ヲ營ムコトヲ得ス
第三條 信託會社ハ金融以外ノ財產ヲ以テ出
資ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第四條 信託會社カ第一條ノ免許ノ日ヨリ六
月内ニ營業ヲ開始セサルトキハ免許ハ其ノ
效力ヲ失フ
朝鮮總督ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ
申請ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第五條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文
字ヲ用フヘシ
第六條 信託會社ニ非サルモノハ名稱中ニ信託業者
タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得
但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者
ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 信託會社ハ代理店主ヲシテ其ノ代理
事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他從タル營
業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス
信託會社ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ
復代理店ノ出張所其ノ他從タル營業所又ハ
復代理店ヲ設ケルコトヲ得ス

第七條 信託會社ハ左ニ掲クル財產以外ノモ
其ノ種類ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケヘシ
第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價
格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一
ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リ
テ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保
トシテ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ
十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託
スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ超ユルコト
ヲ要セス

前項ノ供託金額中其ノ五分ノ三ヲ超ユル額
ニ付テハ前條第一項第一號ニ規定スル有價
證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十三條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ
依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付他ノ
債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十四條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル
迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ
利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第十五條 信託會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十
二月迄十二月ヨリ翌年五月迄トス

第十六條 信託會社ハ毎月ノ營業報告書及每
營業年度ノ業務報告書ヲ朝鮮總督ニ提出ス
ヘシ

第十七條 信託會社ハ朝鮮總督ノ定ムル株式

ノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス
一 金錢
二 有價證券
三 金錢債權
四 動產
五 土地及其ノ定著物
六 地上權及土地ノ賃借權
第八條 信託會社ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依
リ運用方法ノ特定セサル金錢信託ニ限リ元
本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタ
ル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填
シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得

第九條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタ
ル信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信
託會社ニ之ヲ適用セス
信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取
得シタル財產力取引所ノ相場アルモノナル
トキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔ス
ル債務ヲ履行スル爲ニ必要ナル場合ニ限リ信
託行爲ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財產ト爲
スコトヲ得

第十條 信託會社ハ左ニ掲クル業務ニ限リ之
ヲ併セ營ムコトヲ得
一 保護預り
二 債務ノ保證
三 不動産買入ノ媒介又ハ金錢若ハ不動
產ノ貸借ノ媒介
四 國債地方債社債若ハ株式ノ募集、其
ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配
當金ノ支拂ノ取扱
五 財產ニ關スル遺言ノ執行
六 會計ノ檢査
七 左ノ事項ニ關スル代理事務
イ 財產ノ取得、管理、處分又ハ貸借
ロ 財產ノ整理又ハ清算
ハ 債權ノ取立
ニ 債務ノ履行
ホ 保險
朝鮮總督ハ債務ノ保證ニ付必要ナル制限ヲ
設クルコトヲ得

ニ依リ毎營業年度ノ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第十八條 信託會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人カ營利ヲ目的トスル他ノ業務ニ從事セントストキ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 信託會社ノ合併ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第二十條 合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ依リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第四十二條並ニ第四十九條第一項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一 定款ヲ變更セントストキ

二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セントストキ

三 本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントストキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントストキ

第二十二條 朝鮮總督ハ何時ニテモ信託會社

ヲシテ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十三條 朝鮮總督ニハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命シテ信託會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十四條 朝鮮總督ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 信託會社カ法令、定款若ハ朝鮮總督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 朝鮮總督ハ業務ノ停止ヲ命セラレタル信託會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十七條 信託會社ノ廢止又ハ信託會社ノ解散ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第二十八條 信託會社カ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ其ノ信託ニ關スル債權ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ信託會社ニ非サル會社カ信託會社ノ任務

終了ニ因リ必要ナル事務ヲ處理スル間亦同シ

第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 信託會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第三十條 信託會社ノ清算ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬ス

朝鮮總督ハ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命シ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 信託會社カ營業免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ朝鮮總督ハ清算人ヲ選任ス

第三十二條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法ニ依リ裁判所カ檢事若ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スヘキトキ又ハ清算人ナキトキハ朝鮮總督ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ選任ス

第三十三條 朝鮮總督ハ清算人ヲ選任シタルトキハ信託會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十四條 朝鮮總督ハ重要ナル事由アルトキハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十五條 信託會社ノ和議、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ信託會社ノ検査

監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十六條 信託會社ノ和議、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ信託會社ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十七條 朝鮮總督ノ免許ヲ受ケスシテ信託業務ヲ營ミタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人又ハ清算人ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 營業報告書又ハ業務報告書ノ不實ノ記載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二 本令ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ

第四十條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人代表者)又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

一 第六條、第七條、第十條第一項、第十一條、第十二條、第十四條、第十六條乃至第十八條又ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ

三 第九條第二項ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ

四 第二十二條又ハ第二十八條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サス又ハ書類帳簿ヲ提出セザルトキ

五 第二十四條、第二十五條、第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

六 本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

七 信託會社カ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲サザルトキ

八 信託會社カ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目録ヲ作ラザルトキ

九 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ朝鮮

民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第四十條ノ規定ニ依リ閱覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲サザルトキ

前項ノ過料ニ關シテハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和六年九月十七日府令第十四號ヲ以テ昭和六年十月一日ヨリ施行)

本令施行ノ際迄一年以上引續キ信託業務ヲ營ム株式會社ニシテ本令施行後一月内ニ信託業務ノ免許ヲ申請スルモノニハ第二條ノ規定ヲ適用セス

信託會社ニシテ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノノ資本金ハ本令施行後五年内ニ百萬圓以上ト爲スコトヲ要ス

本令施行ノ際現ニ信託業務ヲ營ム株式會社ニシテ本令ニ依リ營業ノ免許ヲ受ケタルモノニハ本令施行後五年ヲ限リ第十一條第三項ノ規定ヲ適用セス

本令施行ノ際現ニ信託業務ヲ營ム株式會社ニシテ本令ニ依リ營業ノ免許ヲ受ケタルモノハ本令施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本令ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ關スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

民事訴訟法

民
新

民事訴訟法目次

民事訴訟法(明三二一法二九)

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄……………一

第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……………三

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力……………四

第二節 共同訴訟……………五

第三節 訴訟參加……………五

第四節 訴訟代理人及輔佐人……………六

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔……………七

第二節 訴訟費用ノ擔保……………九

第三節 訴訟上ノ救助……………九

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論……………一〇

第二節 期日及期間……………一〇

第三節 送達……………一三

第四節 裁判……………一四

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止……………一六

第六節 第一審ノ訴訟手續……………一六

第七節 第二審ノ訴訟手續……………一六

第八節 地方裁判所ノ訴訟手續……………一六

民事訴訟法目次

第一節 訴訟ノ準備……………一七

第一節 總則……………一七

第二節 證人訊問……………二二

第三節 鑑定……………二三

第四節 書證……………二三

第五節 檢證……………二四

第六節 當事者訊問……………二六

第七節 證據保全……………二七

第八節 區裁判所ノ訴訟手續……………二七

第三編 上訴

第一章 控訴……………二九

第二章 上告……………三〇

第三章 抗告……………三三

第四章 再審……………三三

第五章 督促手續……………三五

第六章 強制執行……………三五

第七章 總則……………三五

第八章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行……………三五

第九章 行爲ノ強制執行……………三五

第十章 動産ニ對スル強制執行……………三五

第十一章 通則……………三五

第十二章 有體動産ニ對スル強制執行……………三五

第十三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行……………三五

第四款 配當手續……………四〇

第一節 不動産ニ對スル強制執行……………四〇

第二節 通則……………四〇

第三節 強制競賣……………四〇

第四節 強制管理……………四〇

第五節 船舶ニ對スル強制執行……………四〇

第六節 金錢ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テノ強制執行……………四〇

第七節 假差押及ヒ假處分……………四〇

第八節 公示催告手續……………四〇

第九節 仲裁手續……………四〇

民事訴訟法施行法……………四六

民事訴訟費用法……………四七

民事訴訟用印紙法……………四七

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定……………四七

民事訴訟手續法……………四七

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件……………四七

第二章 關スル手續……………四七

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續……………七六

第三章 禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續……………七九

第四章 失踪ニ關スル手續……………七八

人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所指定……………八〇

(明三二一司八)

人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法……………八〇

(明三二一司九)

非訟事件手續法(明三二一法一四)

第一編 總則……………八〇

第二編 民事非訟事件……………八二

第一章 法人ニ關スル法律……………八二

第二章 財產ノ管理ニ關スル事件……………八二

第三章 信託ニ關スル事件……………八五

第四章 裁判上ノ地位ニ關スル事件……………八五

第五章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件……………八六

第六章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件……………八七

第七章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件……………八八

第八章 遺言ノ確認及執行……………八八

第九章 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記……………八九

第三編 商事非訟事件……………九二

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件……………八九

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件……………九二

第三章 商業登記……………九二

第一節 通則……………九二

第二節 商號ノ登記……………九三

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記……………九三

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記……………九四

第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記……………九四

第六節 株式會社ノ登記……………九六

第七節 株式合資會社ノ登記……………九七

第八節 外國會社ノ登記……………九七

商事非訟事件印紙法(明三三一法六六)……………九八

競賣法(明三三一法一五)

第一章 通則……………一〇〇

第二章 動產ノ競賣……………一〇〇

第三章 不動產ノ競賣……………一〇三

第四章 船舶ノ競賣……………一〇三

第五章 增價競賣……………一〇三

破產法(大一一一法七一)

第一編 實體規定……………一〇五

第一章 總則……………一〇五

第二章 破產財團……………一〇五

第三章 破產債權……………一〇六

第四章 財團債權……………一〇八

第五章 法律行為ニ關スル破產ノ效力……………一〇八

第六章 否認權……………一〇八

第七章 取戻權……………一〇九

第八章 別除權……………一一〇

第九章 相殺權……………一一〇

第二編 手續規定……………一一三

第一章 總則……………一一三

第二章 破產宣告……………一一四

第三章 破產管財人……………一一四

第四章 監査委員……………一一七

第五章 債權者集會……………一一八

第六章 破產財團ノ管理及換價……………一二九

第七章 破產債權ノ届出及調査……………一二九

第八章 配當……………一三三

第九章 強制和議……………一三四

第十章 破產廢止……………一三六

第十一章 小破產……………一三六

第三編 復権……………一三三

第四編 罰則……………一三三

和議法(大一一一法七二)

第一章 總則……………一三四

第二章 和議ノ開始……………一三四

第三章 和議債權及其ノ届出……………一三五

第四章 債權者集會……………一三五

第五章 和議ノ認否……………一三五

第六章 和議ノ廢止……………一三五

第七章 讓歩及和議ノ取消……………一三六

第八章 罰則……………一三六

民事訴訟法中改正法律(昭一〇一法一五)……………一三九

商事調停法(大一一一法四二)……………一四〇

勞働爭議調停法(大一一一法五七)……………一四〇

借地借家調停法(大一一一法四一)……………一四三

供託法(明三三一法一五)……………一四九

民事訴訟法 第一編 總則 第一章 裁判所 第一節 管轄

民事訴訟法

（明治二十三年四月二十一日）
（法律第二十九號）

改正
明治三十一法律一四、七二
大正一五法律六四
昭和六一法律第一七

民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
民事訴訟法改正法律（大正十五年四月二十四日法律第六十一號）
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
民事訴訟法中左ノ通改正ス
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第五號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行ス）
民事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第一章 裁判所

第一條 訴ハ被告ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス
第二條 人ノ普通裁判籍ハ住所ニ依リテ定マル日本ニ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ普通裁判籍ハ居所ニ依リ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
第三條 大使、公使、公使其他外國ニ在リテ治外法權ヲ享クル日本人力前條ノ規定ニ依リ普通裁判籍ハ東京市ニ在ルモノトス
第四條 法人其他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主たる事務所又ハ營業所ニ依リ、事務所又ハ營業所ナキトキハ主たる業務據當者ノ住所ニ依リテ定マル
第五條 普通裁判籍ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル
第六條 第一項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ニ付テハ日本ニ於ケル事務所、營業所又ハ業務據當者ニ之ヲ適用ス
第七條 財産權上ノ訴ハ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第八條 寄留者ニ對スル財産權上ノ訴ハ寄留地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第九條 軍人、軍屬又ハ船員ニ對スル財産權上ノ訴ハ軍事用ノ應舎ノ所在地又ハ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十條 日本ニ住所ナキ者又ハ住所ノ知レサル者ニ對スル財産權上ノ訴ハ請求若ハ其ノ擔保ノ目的又ハ差押フルコトヲ得ヘキ被告ノ財産ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十一條 事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對スル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スルモノニ限リ其ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十二條 船舶又ハ航海ニ關シ船舶所有者其ノ他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十三條 船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基ク訴ハ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十四條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員ノ資格ニ基クモノニ限リ會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第十五條 前項ノ規定ハ社團又ハ財團ヨリ役員ニ對スル訴及會社ヨリ發起人又ハ検査役ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス
第十六條 會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員ノ資格ニ基クモノニ限リ前條ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

民事訴訟法 第一編 總則 第一章 裁判所

第十四條 第十二條及前條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ検査役タリシ者ニ對スル訴及社員タリシ者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス

第十五條 不法行為ニ關スル訴ハ其ノ行為アリタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 船舶ノ衝突其ノ他海上ノ事故ニ基ク損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶力最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行為ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判所所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條 相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部力前條ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限リ其ノ裁判

所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十三條 裁判所構成法ニ依リ管轄力訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

第二十四條 前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

第二十五條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價額ヲ合算ス

第二十六條 損害賠償、通約金又ハ費用ノ請求カ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價格ハ之ヲ訴訟ノ目的ノ價額ニ算入セス

第二十七條 左ノ場合ニ於テハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ム

第二十八條 管轄裁判所及裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リテ之ニ代ルヘキ裁判所カ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

第二十九條 裁判第十三條 區裁判所ノ判事差支あるときは毎年地方裁判所長の前以て定めたる順序に従ひ互に相代理す但し監督判事の職務は其ノ裁判所ノ

判事官等ノ順序に従ひ之を代理す

一ノ區裁判所に於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情に因リ事務を取扱ふことを得るとき之に代るヘキ他の區裁判所ハ前項に同く毎年以前以て之を定む

二 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所カ定ラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十五條 當事者ハ第一審ニ限り合意ニ依リ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基ク訴ニ關シ且ツ書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ効ナシ

第二十六條 被告カ第一審裁判所ニ於テ管轄適ノ抗辯ヲ提出セスシテ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ管轄權ヲ有ス

第二十七條 第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十八條 裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ證據ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第三十條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部力其

ノ管轄ニ屬セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

第三十一條 裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付キ著キ損害又ハ遲滞ヲ避ケル爲必要ナリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除ク外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得

第三十二條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ屬ス

第三十三條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル裁判所ニ屬シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避

第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上

其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ

一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ價還義務者タル關係ヲ有スルトキ

二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

三 判事カ當事者ノ後見人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ

四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ

六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ得但シ忌避ノ

原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ之ヲ疏明スルコトヲ要ス前條第二項但書ノ事實亦同シ

第三十九條 合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所、區裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所所在地ノ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第四十條 判事ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判ニ關スルコトヲ得但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十一條 除斥又ハ忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ裁判ノ確定ニ依ル迄訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル行為ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於テハ判事ハ監督權アル判事ノ許

可テ得テ回避スルコトヲ得
第四十四條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力

第四十五條 當事者能力及訴訟能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從テ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ
第四十六條 法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルコトヲ得
第四十七條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得
訴訟ノ繫屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當該訴訟ヨリ脱退ス
第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者中死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 未成年者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテノミ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ相手方ノ提起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意、夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セス
準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ訴、控訴若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退ヲ爲スニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要ス
第五十一條 外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有セサルトキト雖日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘキトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス
第五十二條 法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ
前項ノ書面ハ訴訟記録ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス
第五十三條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命ジ若運滞ノ爲損害ヲ生スル虞アルトキハ一時訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得
第五十四條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行爲ハ其ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ノ承認ニ因リ行爲ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス
第五十五條 第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者カ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第五十六條 法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サントスル者ハ運滞ノ爲損害ヲ受クル虞アルコトヲ確明シテ受訴裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得
裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得
特別代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權アルコトヲ要ス
特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特定代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス
第五十七條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ効ナシ
前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ之ヲ準用ス
第五十八條 本法中法定代理及法定代理人ニ

關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非スシテ其名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第二節 共同訴訟

第五十九條 訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ數人ニ付共通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クトキハ其數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘラルコトヲ得
訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ同種ニシテ事實上及法律上同種ノ原因ニ基クトキ亦同シ
第六十條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得
第六十一條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサス
第六十二條 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合ニシテ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス
共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス
共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中断又ハ

中止ノ原因アルトキハ其中斷又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス
第六十三條 第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行爲ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟參加

第六十四條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得
第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
書面ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ書面ハ之ヲ當事者雙方ニ送達スルコトヲ要ス
參加ノ申出ハ參加人トシテ爲シ得ル訴訟行爲ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得
第六十六條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ベタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ確明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第六十七條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ベタルシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ

爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ失フ
第六十八條 參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許ササル裁判確定セサル間ハ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得
參加人ノ訴訟行爲ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許ササル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
第六十九條 參加人ハ訴訟ニ付攻撃又ハ防禦ノ方法ノ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス
參加人ノ訴訟行爲カ被參加人ノ訴訟行爲ト牴觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セス
第七十條 前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セザリシ場合、被參加人カ參加人ノ訴訟行爲ヲ妨ケタル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザリシ場合ヲ除クノ外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
第七十一條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 訴訟の目的が共同訴訟人の全員に付合一にのみ確定すべき場合に於ては其の一人の訴訟行為は全員の利益に於てのみ其の效力を生ず

共同訴訟人の一人に對する相手方の訴訟行為は全員に對して其の效力を生ず

共同訴訟人の一人に付訴訟手續の中断又は中止の原因あるときは其の中断又は中止は全員に付其の效力を生ず

第六十五條 參加の申出は參加の趣旨及理由を具し參加に依りて訴訟行為を爲すに於ては其の書面は之を當事者雙方に送達することを要す

參加の申出は參加人として爲し得る訴訟行為と共に之を爲すことを得

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲メ訴訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十三條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟參加ヲ爲シタルトキハ其ノ參加ハ訴訟ノ繫屬ノ

初ニ過リテ時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ズ

第七十四條 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承継シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十二條ノ規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得

訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ相手方ヨモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セ

サリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得ズ但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ當該吏員ノ認證ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ調書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行為ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得

左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

一 反訴ノ提起

二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退

三 控訴、上告又ハ其ノ取下

四 代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ズ但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケズ

第八十三條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ有セス

第八十四條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生ゼス

第八十五條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セ

第八十六條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 共同ノ利益を有する多數者にして前條ノ規定に該當せざるものは其の中より總員の爲に原告若は被告と爲るべき一人若は數人を選定し又は之を變更することを得

訴訟の繫屬の後前項の規定に依りて原告又は被告と爲るべき者を定めたるときは他の當事者は當然訴訟より脱退す

第八十七條 第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第五十二條第二項 前項の書面は訴訟記録に之を添附することを要す

第五十三條 訴訟能力、法定代理權又は訴訟行為を爲すに必要な授權の欠缺あるときは裁判所は期間を定めて其の補正を命じ若運滞の爲損害を生ずる虞あるときは一時訴訟行為を爲さしむることを得

第五十四條 訴訟能力、法定代理權又は訴訟行為を爲すに必要な授權の欠缺ある者カ爲したる訴訟行為は其の欠缺なきに至りたる當事者又は法定代理人の追認に因り行為の時に過りて其の效力を生ず

第五十七條 法定代理權の消滅は本人又

は代理人より之を相手方に通知するに非ざれば其の効なし

前項の規定は第四十七條の規定に依る當事者の變更に之ヲ準用す

第八十八條 當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ら之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第八十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十條 裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナラサル行為ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナリシ行為ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 當事者カ適當ノ時期ニ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出セサル爲メ又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由

ニ因リ訴訟ヲ遲滞セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其勝訴ノ場合ニ於テモ遲滞ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナラサル行為ヲ爲シタル當事者ヲシテ其ノ行為ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ

第九十五條 裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用

ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ争ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス場合亦同シ

第九十七條 當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定メ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條 法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受審裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行為ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行為ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

第九十九條 裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ

テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行為ヲ爲シタル者ノ負擔トス

第一百條 裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受審裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用額ノ説明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百一條 裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ交付シ陳述ヲ爲スヘキ旨並一定ノ期間内ニ費用計算書及費用額ノ説明ニ必要ナル書面ヲ提出スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

相手方カ期間内ニ前項ノ書面ヲ提出セサルトキハ裁判所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス

第一百二條 裁判所カ訴訟費用額ヲ定ムル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ前條第二項ノ場合ヲ除ク外各當事者ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ對當額ニ付相殺アリタルモノト看做ス

第一百三條 第九十九條ノ場合ニ於テ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ其ノ額ヲ定メサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其ノ額

ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第九十條第二項第三項、第一百條及前條ノ規定ヲ準用ス

第一百四條 前條ノ場合ヲ除ク外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ額ヲ定メ且其負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ付テノ異議ノ取下アリタルトキ亦同シ

第八十九條乃至九十四條、第一百條第二項第三項、第一百條及第一百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百五條 裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百六條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行為ヲ爲ササルコトヲ得

第二節 訴訟費用ノ擔保

第一百七條 原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ

於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

第一百八條 擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知リタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百九條 擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得

第二十條 裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スヘキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第二十條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

第二十條 被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第二十四條 原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十六條 裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第十七條 第九條、第一百條第一項及第一百一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟上ノ救助

第十八條 訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助

ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル
 第百十九條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ救助ノ事由ハ之ヲ疎明スルコトヲ要ス
 第百二十條 訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス
 一 裁判費用ノ支拂ノ猶豫
 二 執達吏及裁判所ニ於テ附添フ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫
 三 訴訟費用ノ擔保ノ免除
 第百二十一條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニシテ其ノ效力ヲ有ス
 裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス
 第百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得
 第百二十三條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立

及強制執行ヲ爲スコトヲ得
 辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第百三條又ハ第百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得
 第百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第百二十五條 當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム
 前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス
 第百二十六條 口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮スル裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得
 第百二十七條 裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得
 陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル

處置ヲ爲スコトヲ得
 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得
 第百二十八條 裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
 第百二十九條 當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依ル裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス
 第百三十條 受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス
 裁判所ノ爲ス屬託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判長之ヲ爲ス
 第百三十一條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト
 二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト
 三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト
 四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得
 第百三十七條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得
 第百三十八條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得
 第百三十九條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得
 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ
 第百四十條 當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト
 前項ノ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據ニ關スル規定ヲ準用ス
 第百三十二條 裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分難若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得
 第百三十三條 裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得
 第百三十四條 辯論ニ與ル者カ日本語ト過セサルトキ又ハ聲若ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ聲者若ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得
 鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス
 第百三十五條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル陳述ヲ爲スコトヲ能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯論進行ノ爲メ新期日ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得
 訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
 第百三十六條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコトヲ得
 裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ

相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス
 第百四十一條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滯ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第百四十二條 口頭辯論ニ付テハ裁判所書記期日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス
 第百四十三條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル
 一 事件ノ表示
 二 判事及裁判所書記ノ氏名
 三 立會ヒタル檢事ノ氏名
 四 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並陪席シタル當事者ノ氏名
 五 辯論ノ場所及年月日
 六 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由
 第百四十四條 調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス
 一 和解、認諾、拋棄、取下及自白

二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
 三 檢證ノ結果
 四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
 五 書面ニ作ラサル裁判
 六 裁判ノ言渡
 第四百四十五條 調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得
 第四百四十六條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 第四百四十七條 口頭辯論ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 第四百四十八條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ヲ遵守ハ調書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第四百四十九條 裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得
 第四百五十條 裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス
 第四百五十一條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定

アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第四百五十二條 期日ハ裁判長之ヲ定ム
 第四百五十三條 期日ハ已ムコトヲ得サル場合
 第四百五十四條 期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付口頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル
 第四百五十五條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス
 第四百五十六條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ
 第四百五十七條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ効力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム
 第四百五十八條 裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス
 第四百五十九條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル訴訟行爲ノ追

ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ定ムルコトヲ得
 第四百六十條 期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付口頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル
 第四百六十一條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス
 第四百六十二條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ
 第四百六十三條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ効力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム
 第四百六十四條 裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス
 第四百六十五條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル訴訟行爲ノ追

先ヲ爲スコトヲ得此ノ期間ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス
 第四百六十六條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第四百六十七條 送達ニ關スル事務ハ裁判所書記之ヲ取扱フ
 第四百六十八條 送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リテ之ヲ爲ス
 第四百六十九條 送達ニ依リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス吏員トス
 第四百七十條 當該事件ニ付口頭シタル者ニ對シテハ裁判所書記自ラ送達ヲ爲スコトヲ得
 第四百七十一條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書類ノ原本ヲ交付シテ之ヲ爲ス
 第四百七十二條 送達スヘキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタルトキハ其ノ調書ノ原本又ハ抄本ヲ交付シテ送達ヲ爲ス
 第四百七十三條 訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス
 第四百七十四條 數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲

スヲ以テ足ル
 第四百七十五條 軍事用ノ倉庫又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス
 第四百七十六條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス
 第四百七十七條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百七十八條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百七十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十一條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十二條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十三條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十四條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十五條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十六條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十七條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十八條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百八十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十一條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十二條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十三條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十四條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十五條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十六條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十七條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十八條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第四百九十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス
 第五百條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス

務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
 第四百九十九條 送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事務ヲ辨論スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得
 第五百條 前項ニ掲クル者其ノ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クタルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得
 第五百一條 前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ送達スルコトヲ得
 第五百二條 第五百一條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ送達シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス
 第五百三條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ執達吏ニ依リ送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス
 第五百四條 前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス
 第五百五條 前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受取リタル場合ニ限リ

其ノ効力ヲ有ス
 第百七十五條 外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス
 第百七十六條 出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス
 前項ノ送達ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス
 第百七十七條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
 第百七十八條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付第七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ効ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第百七十九條 公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス

裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得
 第百八十條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ効力ヲ生ス但シ第七十八條第二項ノ公示送達ハ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ効力ヲ生ス前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス
 第百八十一條 送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス
 第四節 裁判
 第百八十二條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス
 第百八十三條 訴訟ノ一部カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數箇ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス
 第百八十四條 獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ爭ニ付裁判ヲ爲スニ熟スル

トキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付爭アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ
 第百八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス
 第百八十六條 裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得
 第百八十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關シタル判事之ヲ爲ス
 判事ノ更送アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
 第百八十八條 判決ハ言渡ニ因リテ其ノ効力ヲ生ス
 第百八十九條 判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス
 裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告グルコトヲ得
 第百九十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
 第百九十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判

決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 一 主文
 二 事實及爭點
 三 理由
 四 當事者及法定代理人
 五 裁判所
 事實及爭點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ揭示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス
 第百九十二條 判決ハ言渡後滯留ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
 第百九十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス
 判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス
 第百九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得
 更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作り之ヲ當事者ニ

送達スルコトヲ要ス
 更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第百九十五條 裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ對シ仍裁判所ニ繫屬ス
 訴訟費用ノ裁判ヲ脫漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第四百條ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ規定ニ依リ訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ効力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ控訴ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス
 第百九十六條 財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セスシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得
 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得
 前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲グルコトヲ要ス
 第百九十七條 第一百十二條、第一百十三條、第一百十五條及第一百十六條ノ規定ハ前條ノ擔保

ニ之ヲ準用ス
 第百十二條 擔保を供するには金銭又は裁判所カ相當ト認むる有價證券を供託することヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約を爲したるときは其ノ契約に依る
 第百十三條 被告は訴訟費用に付前條ノ規定に依りて供託したる金銭又は有價證券の上に質權者同一ノ權利を有す
 第百十五條 擔保を供したる者カ擔保の事由止みたることを證明したるときは裁判所ハ申立に因り擔保取消の決定を爲すことを要す
 擔保を供したる者カ擔保取消に付擔保權利者の同意を得たることを證明したるとき亦前項に同し
 訴訟の完結後裁判所カ擔保を供したる者の申立に因り擔保權利者に對し一定の期間内に其の權利を行使すヘキ旨を催告し擔保權利者カ其の行使を爲さざるときは擔保取消に付擔保權利者の同意ありたるものと看做す
 第一項及第二項の規定に依る決定に對しては即時抗告を爲すことを得
 第百十六條 裁判所は擔保を供したる者の申立に因り決定を以て供託したる擔保物の變換を命ずることを得
 前項の規定は供託したる擔保を契約に因

りて他の擔保に變換することを妨げず
第九十八條 假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ
 本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告方給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス
 假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス
第九十九條 確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス
 相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判断ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス
第一百條 外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス
 一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セサルコト
 二 敗訴ノ被告カ日本ナラ場合ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト
 三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公

ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト
第四節 相互ノ保證アルコト
第一百零一條 確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承繼人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス
 他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス
 前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス
第一百零二條 不合法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
第一百零三條 和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ圖書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
第一百零四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
 裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判所原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
第一百零五條 訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
第一百零六條 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第一百七七條 決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限り判決ニ關スル規定ヲ準用ス
第五節 訴訟手續ノ中断及中止
第一百零八條 當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財產管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟手續ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
 相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス
第一百零九條 當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
 前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス
第一百一十條 當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
第一百一十一條 受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第一百十二條 一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中断シタル場合亦同シ
第四十七條 規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
第四十七條 共同ノ利益を有スル多數者にして前條ノ規定ニ該當セざるものは其の中より總員ノ爲に原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人を選定シ又は之を變更することを得
 訴訟ノ繫屬の後前項ノ規定に依りテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者を定めたるときは他の當事者は當然訴訟より脱退す
第四十六條 法人に非ざる社團又は財團にして代表者又は管理人の定あるものは其の名に於て訴へ又は訴へらるることを得
第一百十三條 第一百零八條第一項、第一百九

條第一項及第一百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス
第一百十四條 當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テ破産ニ依リ受繼アル迄ニ破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス
第一百十五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリタル後破産手續ノ解止アリタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
第一百十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
第一百十七條 訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス
第一百十八條 訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス
 裁判ノ送達後中断シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲スコトヲ要ス
第一百十九條 裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得
第一百二十條 天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟

手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス
第二百一十一條 當事者カ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得
 裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得
第二百一十二條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中断ト雖之ヲ爲スコトヲ得
 訴訟手續ノ中断又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム
第二章 第一審ノ訴訟手續
第一章 地方裁判所ノ訴訟手續
第一節 訴
第二百二十三條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二百二十四條 訴狀ニハ當事者、法定代理人カ請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス
第二百二十五條 確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起ス

ルコトヲ得
 第二百二十六條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫
 メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限リ之ヲ
 提起スルコトヲ得
 第二百二十七條 數箇ノ請求ハ同種ノ訴訟手
 續ニ依ル場合ニ限リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲ス
 コトヲ得
 第二百二十八條 訴訟狀カ第二百二十四條第
 一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長
 ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補
 正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規
 定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同
 シ
 原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長
 ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス
 前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得
 抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スル
 コトヲ要ス
 第二百二十九條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スル
 コトヲ要ス
 前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサ
 ル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百三十條 訴ノ提起アリタルトキハ裁判
 長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出ス
 コトヲ要ス
 第二百三十一條 裁判所ニ繫屬スル事件ニ付

テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 第二百三十二條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナ
 キ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請
 求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因
 著ク訴訟手續ヲ遲滞セレムヘキ場合ハ此ノ
 限ニ在ラス
 請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ
 要ス
 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ
 要ス
 第二百三十三條 裁判所カ請求又ハ請求ノ原
 因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ
 因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨
 ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百三十四條 裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト
 爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ル
 トキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關
 係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ
 確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサ
 ルトキニ限ル
 前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リ
 テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ
 要ス
 第二百三十五條 時效ノ中断又ハ法律上ノ
 間違守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提
 起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若

前條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書
 面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力
 ヲ生ス
 第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其
 ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相
 手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手
 續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタ
 ルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ
 要ス
 訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要
 ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命
 判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト
 ヲ妨ケス
 訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ
 相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 第二百三十七條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部
 分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做
 ス
 本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタ
 ル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期
 日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シ
 タル場合ニ於テ三月以内ニ期日指定ノ申立
 ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト
 看做ス
 第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至
 ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起ス

ルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁
 判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的
 タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ
 限ル
 第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規
 定ニ依ル
 第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ
 被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下ク
 ルコトヲ得
 第二節 辯論ノ準備
 第二百四十二條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ
 準備スルコトヲ要ス
 第二百四十三條 準備書面ハ之ニ記載シタル
 事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期
 間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ
 相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ム
 ルコトヲ得
 第二百四十四條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記
 載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコ
 トヲ要ス
 一 當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業
 及住所
 二 代理人ノ氏名、職業及住所
 三 事件ノ表示
 四 攻撃又ハ防禦ノ方法

五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法
 六 對スル陳述
 七 年月日
 八 裁判所ノ表示
 第二百四十五條 當事者ノ所持スル文書ニシ
 テ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ
 各通ニ其ノ原本ヲ添附スルコトヲ要ス
 文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄
 本ヲ添附シ文書カ大部ナルトキハ其ノ文書
 ヲ表示スルヲ以テ足ル
 第二百四十六條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ
 因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムルコトヲ要ス
 第二百四十七條 準備書面ニ記載セサル事實
 ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於
 テ之ヲ主張スルコトヲ得ス
 第二百四十八條 外國語ヲ以テ作りタル文書
 ニハ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス
 第二百四十九條 訴訟ニ付テハ受命判事ニ依
 リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但
 シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命
 シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或爭點ノミニ付準備
 手續ヲ命スルコトヲ得
 第二百五十條 準備手續ニ於テハ調書ヲ作り
 當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號
 及第五號ニ掲タル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ
 付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス

受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以
 テ前項ノ陳述及調書ニ代フルコトヲ得
 第二百五十一條 當事者ノ一方カ期日ニ出頭
 セサルトキハ前條ノ調書ノ原本ヲ之ニ送達
 シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ
 得
 第二百五十二條 受命判事ハ當事者ヲシテ準
 備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ
 於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス
 第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又
 ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期
 間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判
 事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得
 第二百五十四條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準
 備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
 第二百五十五條 調書又ハ之ニ代ルヘキ準備
 書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之
 ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ事項カ裁判
 所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著
 ク訴訟ヲ遲滞セシメサルトキ又ハ重大ナル
 過失ナクシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スル
 コト能ハサリシコトヲ確明シタルトキハ此
 ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ
 適用ヲ妨ケス
 訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面
 ニ記載シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ

準備書面ニ記載セサルモノト雖口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス
 第二百五十六條 第二百二十六條乃至第二百九十四條、第三百一十一條、第三百三十三條乃至第三百四十一條及第二百三十八條ノ規定ハ準備書面ニ之ヲ準用ス
 第二百二十六條 口頭辯論は裁判長之を指揮す
 裁判長は發言を許し又は其の命に従はざる者に發言を禁することを得
 第二百二十七條 裁判長は訴訟關係を明瞭ならしむる爲事實及法律上ノ事項に關し當事者に對して問を發し又は立證を促すことを得
 陪席判事は裁判長に告げて前項に規定する處置を爲すことを得
 當事者は裁判長に對し必要なる發問を求むることを得
 第二百二十八條 裁判長は前條の規定に依りて當事者をして釋明せしむべき事項を指示し口頭辯論期日前準備を爲すべきことを命ずることを得
 第二百二十九條 當事者か辯論の指揮に關する裁判長の命又は第二百二十七條若は前條の規定に依る裁判長若は陪席判事の處置に對し異議を述べたるときは裁判所決定を以て其の異議に付裁判を爲す

第三百三十一條 裁判所は訴訟關係を明瞭ならしむる爲左の處分を爲すことを得
 一 當事者本人又は其の法定代理人の出頭を命ずること
 二 訴訟書類又は訴訟に於て引用したる文書其の他の物件にして當事者の所持するものを提出せしむること
 三 當事者又は第三者の提出したる物件を裁判所に留置すること
 四 檢證を爲し又は鑑定を命ずること
 五 必要なる調査を囑託すること
 前項に規定する檢證鑑定及調査の囑託に付ては證據調に關する規定を準用す
 第三百三十三條 裁判所は終結したる口頭辯論の再開を命ずることを得
 第三百三十四條 辯論に與る者か日本語に解せざるるとき又は譯者又は譯者には文字を以て問ひ又は陳述を爲さしむることを得
 鑑定人に關する規定は通事に之を準用す
 第三百三十五條 裁判所は訴訟關係を明瞭ならしむる爲必要なる陳述を爲すこと能はざる當事者、代理人又は輔佐人の陳述を禁じ辯論續行の爲新期日を定むることを得
 前項の規定に依りて陳述を禁したる場合

に於て必要ありと認むるときは裁判所は辯護士の附添を命ずることを得
 訴訟代理人の陳述を禁じ又は辯護士の附添を命じたるときは本人に其旨を通知することを要す
 第三百三十六條 裁判所は訴訟の如何なる程度に在るを問はず和解を試み又は受命判事若は受託判事をして之を試みしむることを得
 裁判所又は受命判事若は受託判事は和解の爲當事者本人又は其の法定代理人の出頭を命ずることを得
 第三百三十七條 攻撃又は防禦の方法は別段の規定ある場合を除くの外口頭辯論の終結に至る迄之を提出することを得
 第三百三十八條 原告又は被告が最初に爲すべき口頭辯論の期日に出頭せず又は出頭するも本案の辯論を爲さざるときは其の者の提出したる訴狀、答辯書其の他の準備書面に記載したる事項は之を陳述したるものと看做し出頭したる相手方に辯論を命ずることを得
 第三百三十九條 當事者か故意又は重大なる過失に因り時機に後れて提出したる攻撃又は防禦の方法は之が爲訴訟の完結を遲滞せしむべきものと認めたるときは裁判所は申立に因り又は職權を以て却下の

決定を爲すことを得
 攻撃又は防禦の方法にして其の趣旨明瞭ならざるものに付當事者か必要なる釋明を爲さず又は釋明を爲すへき期日に出頭せざるとき亦前項に同じ
 第二百四十條 當事者か口頭辯論に於て相手方の主張したる事實を明に争はざるときは其の事實を自白したるものと看做す但し辯論の全趣旨に依り其の事實を争ひたるものと認むべき場合は此の限に在らず
 相手方の主張したる事實を知らざる旨の陳述を爲したる者は其の事實を争ひたるものと推定す
 第二百四十一條 當事者か訴訟手續に關する規定の違反を知り又は之を知ることを得へかりし場合に於て遲滞なく異議を述べざるときは之を述ふる權利を失ふ但し拋棄することを得ざるものは此の限に在らず

ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
 第二百五十九條 當事者ノ申出タル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス
 第二百六十條 證據ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得
 第二百六十一條 裁判所ハ當事者ノ申出タル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得
 第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得
 第二百六十三條 證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
 第二百六十四條 外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス
 外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモノ本法ニ違背セザルトキハ其ノ效力ヲ有ス
 第二百六十五條 裁判所ハ相當ト認ムルトキ

ハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得
 受託判事カ他ノ區裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受託裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス
 第二百六十六條 受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受託裁判所ニ送付スルコトヲ要ス
 第二百六十七條 疏明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得
 第二百八十六條乃至第二百八十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ之ヲ準用ス
 第二百八十六條 宣誓は起立して嚴肅に之を行ふことを要す
 第二百八十七條 裁判長は宣誓前宣誓の趣旨を諭示し且偽證の罰を警告することとを要す
 第二百八十八條 宣誓は證人をして宣誓書を朗讀せしめ且之に署名捺印せしめて之を爲す證人宣誓書を朗讀すること能はざるときは裁判長代りて之を朗讀す

宣誓書には良心に従ひ眞實を述べ何事をも黙秘せず又何事をも附加せざることを誓ふ旨を記載することを要す

第二十八九條 左に掲ぐる者を證人として訊問するには宣誓を爲さしむることを得ず

一十六年未滿の者
二宣誓の趣旨を理解すること能はざる者

第二百六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虚偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒收ス

第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虚偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二百七十條 第二百六十八條及前條ノ規定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二款 證人訊問

第二百七十一條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ

於テハ裁判所ハ當該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス

第二百七十三條 國務大臣、官内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ表示
- 二 訊問事項ノ要領
- 三 出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁

第二百七十七條 證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

ノ場合

一 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辨理士、辯護人、公證人、宗教又ハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知りタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ

三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ

前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十二條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス

第二百八十三條 第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絶ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス證言拒絶ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 證言拒絶ノ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十五條 裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十六條 宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條 裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ指示シ且偽證ノ罰ヲ警告スルコトヲ要ス

第二百八十八條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人ハ宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述べ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百八十九條 左に掲ぐる者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

- 一 十六年未滿ノ者
- 二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者

第二百九十條 第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絶ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

第二百九十一條 證人カ自己又ハ第二百八十八條ニ掲グル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十二條 宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ圖書ニ記載スルコトヲ要ス

第二百九十三條 第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十八條 裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

前項ノ勾引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十九條 左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 證人カ受訴裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ
- 二 證人カ受訴裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

第二百八十條 證言カ證人又ハ左ニ掲グル者ノ刑事上ノ罪追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ

- 一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係力止ミタル後亦同シ
- 二 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者
- 三 證人カ主人トシテ仕フル者

第二百八十一條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第二百七十二條乃至第二百七十四條

第二百九十四條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

第二百九十五條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在テ許スコトヲ得

第二百九十七條 證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十八條 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得

第二百九十九條 陪席判事ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ發問ノ許否ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所製成ニ付裁判ヲ爲ス

第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事ニ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

第三款 鑑定

第三百一條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ヲ準用ス

第三百二條 鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ
 第二百八十九條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス
 第二百八十條 證言カ證人又は左に掲ぐる者ノ刑事上ノ訴追又は處罰を招ク虞ある事項に關するときは證人は證言を拒むことを得證言カ此等の者の恥辱に歸すへき事項に關するときは亦同シ
 一 證人の配偶者、四親等内の血族若ハ三親等内の姻族又は證人の家の戸主但し親族に付ては親族關係が止みたる後亦同シ
 二 證人の後見人又は證人の後見を受くる者
 三 證人カ主人として仕ふる者
 第二百八十九條 左に掲ぐる者を證人として訊問するには宣誓を爲さしむることを得ず
 一 十六年未滿の者
 二 宣誓の趣旨を理解すること能はざる者
 第二百九十一條 證人カ自己又は第二百八十條に掲ぐる者に著き利害關係ある事項に付訊問を受くるときは宣誓を拒むことを得

第三百三條 鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得
 第三百四條 鑑定人ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ指定ス
 第二百五條 鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ニ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキハ其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同シ
 第三百六條 忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 忌避ノ事由ハ之ヲ曉明スルコトヲ要ス
 忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百七條 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 第三百八條 裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得
 第三百九條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル
 第三百十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ

官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得
 第四百條 書證
 第三百十一條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百十二條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス
 一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル書證ヲ自ラ所持スルトキ
 二 學識者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ書證又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキ
 三 文書カ學識者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ學識者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ
 第三百十三條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス
 一 文書ノ表示
 二 文書ノ趣旨
 三 文書ノ所持者
 四 證スヘキ事實

五 文書提出ノ義務ノ原因
 第三百十四條 裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス
 第三百十五條 文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百十六條 當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 第三百十七條 當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 第三百十八條 第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百十九條 書證ノ提出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ原本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限りニ在ラス
 第三百二十條 裁判所ハ必要アリト認ムルト

キハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得
 第三百二十一條 第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ調書ニハ文書ノ原本又ハ抄本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第二百六十五條 裁判所ハ相當と認むるときは裁判所外に於テ證據調を爲すことを得此の場合に於ては部外に命シ又は區裁判所に囑託して證據調を爲さしむることを得
 受託判事カ他の區裁判所に於テ證據調を爲すことを相當と認むるときは更に證據調の囑託を爲すことを得此の場合に於ては其の旨を受訴裁判所及當事者に通知することを得
 第三百二十二條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル原本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ送付ヲ爲サシムルコトヲ得
 裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ原本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得
 第三百二十三條 文書ハ其ノ方式及ヒ趣旨ニ

依リ官吏其ノ他ノ公務員カ職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス
 公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ當該官廳又ハ公署ニ照合ヲ爲スコトヲ得
 第三百二十四條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス
 第三百二十五條 私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス
 第三百二十六條 私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス
 第三百二十七條 文書ノ眞否ハ筆蹟又ハ印影ニ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得
 第三百二十八條 第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆蹟又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス
 第三百二十九條 申出ノ事出ナクシテ前項ノ規定ニ依リ提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆蹟ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手

記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得
相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ
依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ
文書ノ眞否ニ關スル證據者ノ主張ヲ眞實ト
認ムルコトヲ得書據ヲ變シテ手記シタルト
キ亦同シ

第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原
本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添附スルコ
トヲ要ス

第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故
意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文
書ノ眞正ヲ争ヒタルトキハ裁判所決定ヲ以
テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シ
テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ争ヒタル當
事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬中其ノ眞正ナ
ルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依
リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ爲作り
タル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準
用ス

第五款 檢證

第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ
表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條 受命判事又ハ受託判事ハ檢
證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ檢

定ヲ命スルコトヲ得
第三百三十五條 第三百三十一條、第三百十四
條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第
三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ揭示又
ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百三十一條 當事者ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ
依ル揭示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決
定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定
ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條 書證ノ申出ハ文書を提出
シ又ハ之を所持する者に其の提出を命ぜ
むことを申立て之を爲すことを要ス

第三百三十四條 裁判所カ文書提出の申立
を理由ありと認めたるときは決定を以て
文書の所持者に對し其の提出を命ず

第三百三十五條 文書提出の申立に關する
決定に對しては即時抗告を爲すことを得

第三百三十六條 當事者カ文書提出の命に
從はざるときは裁判所ハ文書に關する相
手方の主張を眞實と認むることを得

第三百三十七條 當事者カ相手方の使用を
妨ぐる目的を以て提出の義務ある文書を
毀滅し其の他之を使用すること能はざる
に至らしめたるときは裁判所ハ其の文書
に關する相手方の主張を眞實と認むるこ

とを得
第三百十九條 書證の申出は第三百十一
條の規定に拘らず文書の所持者に其の文
書の送付を囑託せむことを申立て之を爲
すことを得但し當事者カ法令に依りて文
書の正本又は謄本の交付を求むることを
得る場合は此の限に在らず

第三百二十條 裁判所ハ必要ありと認む
るときは提出又は送付に係る文書を留置
くことを得

第三百二十一條 第二百六十五條の規定
に依りて受命判事又ハ受託判事をして文
書に付證據調を爲さしむる場合に於ては
裁判所ハ受命判事又ハ受託判事の調書に
記載すべき事項を定むることを得

前項の調書には文書の謄本又ハ抄本を添
附することを要ス

第六款 當事者訊問

第三百三十六條 裁判所カ證據調ニ依リテ心
證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又
ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ
得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲
サシムルコトヲ得

第三百三十七條 裁判長必要アリト認ムルト
キハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質
ヲ命スルコトヲ得

第三百三十八條

當事者カ正當ノ事由ナクシ
テ呼出ニ應セス又宣誓若ハ申述ヲ拒ミタル
トキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ
主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虚偽ノ
陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ
五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテ
ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ規定
ニ之ヲ準用ス

第三百四十條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其
ノ陳述及ヒ宣誓ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサ
ルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第三百四十一條 第三百三十六條乃至前條ノ
規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代シスル法定代
理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問ス
ルコトヲ妨ケス

第三百四十二條 第二百七十六條、第二百七
十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九
條、第二百九十五條及ヒ第二百九十七條乃
至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用
ス

第二百七十六條 證人の呼出狀には左ノ
事項を記載することを要ス
一 當事者の表示
二 訊問事項の要領
三 出頭せざる場合に於ける法律上の制

民事訴訟法

第二編

第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第七款

第二百七十九條 左の場合に於ては受命
判事又ハ受託判事を以て證人の訊問を爲
さしむることを得
一 證人カ受託裁判所に出席する義務な
きとき又ハ正當の事由に因り出席す
ること能はざるとき
二 證人カ受託裁判所に出席するに付不
相當の費用又は時間を要するとき

第二百八十五條 裁判長は證人をして訊
問前宣誓を爲さしむることを要ス但し特
別の事由あるときは訊問後之を爲さしむ
ることを得

第二百八十六條 宣誓は起立して嚴肅に
之を行ふことを要ス

第二百八十七條 裁判長は宣誓前宣誓の
趣旨を諭示し且偽證の罰を警告すること
を要ス

第二百八十八條 宣誓は證人をして宣誓
書を朗讀せしめ且之に署名捺印せしめて
之を爲す證人宣誓書を朗讀すること能は
ざるときは裁判長代りて之を朗讀ス

宣誓書には良心に従ひ眞實を述べ何事を
も黙秘せず又何事をも附加せざることを
誓ふ旨を記載することを要ス

第二百八十九條 左に掲ぐる者を證人と
して訊問するには宣誓を爲さしむること

第八款

一十六年未滿の者
二 宣誓の趣旨を理解すること能はざる
者

第二百九十五條 裁判長は必要ありと認
むるときは證人をして文字の手記其の他
必要なる行為を爲さしむることを得

第二百九十七條 證人は書類に依りて陳
述を爲すことを得但し裁判長の許可を
受けたるときは此の限に在らず

第二百九十八條 陪席判事は裁判長に告
げ證人に對して問を發することを得

第二百九十九條 當事者は裁判長に對し
必要な發問を求め又ハ其の許可を得て
問を發することを得

當事者は發問の許否に付異議を述ふるこ
とを得此の場合に於ては裁判所異議に付
裁判を爲す

第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人
訊問を爲す場合に於ては裁判所及裁判長
の職務は其の判事之を行ふ但し前條第二
項の規定に依る異議の裁判は受託裁判所
之を爲す

第七款 證據保全

第三百四十三條 裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲ス
ニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル

事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其ノ證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ若シハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百四十五條 證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

- 一 相手方ノ表示
- 二 證據ヘキ事實
- 三 證據
- 四 證據保全ノ事由

第三百四十六條 證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

第三百四十八條 證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十九條 證據保全ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十條 證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百五十一條 證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第三百五十二條 區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前ノ規定ヲ準用ス

第三百五十三條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百五十四條 當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付口頭論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭辯論ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百五十五條 被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十二條及第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第三百五十六條 移送ノ裁判は移送を受けたる裁判所を職束す

移送を受けたる裁判所は更に事件を他の裁判所に移送することを得ず

第三十四條 移送の裁判確定したるときは訴訟は初より移送を受けたる裁判所に繫屬したるものと看做す

前項の場合に於ては移送の裁判を爲したる裁判所の書記は其の裁判の正本を訴訟記録に添附し移送を受けたる裁判所の書記に之を送付することを要す

第三百五十六條 民事上ノ争ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因並ニ事實ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

和解ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

第三百五十七條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲ス

コト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ハラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ得

第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲サル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條 準備書面に記載せざる事實は相手方カ在廷せざるときは口頭辯論に於て之ヲ主張することを得ず

第三百五十八條 準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

第三百五十九條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨其ノ原因ノ有無並ニ請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第三編 上訴

第一章 控訴

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ

之ヲ準用ス

第二百五條 當事者は第一審に限り合意に依り管轄裁判所を定めることを得

前項の合意は一定の法律關係に基き訴に關し且書面を以て之を爲すに非ざれば其の効なし

第三百六十一條 訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十二條 終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判、此ノ限ニ在ラス

第三百六十三條 控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第二百三十三條第二項第三項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條第二項第三項 訴の取下は書面に依りて之を爲すことを要す但し口頭辯論に於て又は準備手續中受命判事の面前に於て口頭を以て之を爲すことを妨げず

訴狀送達の後には在りては取下の書面は之を相手方に送達することを要す

第二百三十七條第一項 訴訟は訴の取下ありたる部分に付ては初より繫屬なかりしものと看做す

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論の期日に出頭せず又は辯論を爲さずして退廷したる場合に於て三月内に期日指定の申立を爲さざるときは訴の取下ありたるものと看做す

第三百六十四條 控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百六十五條 控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第三百六十六條 控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第三百六十七條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者及法定代理人
- 二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ

控訴ヲ爲ス旨

第三百六十八條 準備書面ニ開スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス
第三百六十九條 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記官ニ控訴狀ノ送附ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百七十一條 控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス
第三百七十二條 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第三百八十條 第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
第三百八十一條 控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所ノ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張スルコトヲ得

第三百八十八條 訴ヲ不合法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス
第三百八十九條 前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第三百六十條 第二項ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得
第三百六十一條 控訴は第一審の終局判決に對して之を爲すことを得但し當事者雙方共に控訴を爲さざる旨の合意を爲したるときは此の限に在らず

アルトキ 前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス
第五十四條 訴訟能力、法定代理權又は訴訟行為を爲すに必要なる授權の欠缺ある者か爲したる訴訟行為は其の欠缺なきに至りたる當事者又は法定代理人の追認に因り行為の時に適りて其の效力を生ず

第三百九十三條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シタルモノトス
一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第五十三條 訴訟能力、法定代理權又は訴訟行為を爲すに必要なる授權の欠缺あるときは裁判所は期間を定めて其の補正を命じ若し遲滞の爲損害を生ずる虞あるときは一時訴訟行為を爲さしむることを得

事者の變更に之を準用す
 第四百七條 共同の利益を有する多數者にして前條の規定に該當せざるものは其の中より總員の爲に原告若は被告と爲るべき一人若は數人を選定し又は之を變更することを得
 訴訟の繫屬の後前項の規定に依りて原告又は被告となるべき者を定めたるときは他の當事者は當然訴訟より脱退す
 第三百九十六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外上告及ヒ上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
 第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ヲ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス
 第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス
 第三百九十九條 上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得
 第四百條 裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被上告人ニ命スルコトヲ得

第四百一條 上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ヲシテ認ムルトキハ口頭辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得
 第四百二條 上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス
 第四百三條 原裁判ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス
 第四百四條 第三百九十三條第二項ノ規定ニ依リ上訴アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得
 第四百五條 第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ之ヲ適用セズ
 第四百六條 上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ依リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
 第四百七條 上告ノ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス
 差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破毀ノ理由ト爲シタル事實上及法律

上ノ判断ニ羈束セラル
 原判決ニ關與シタル判事ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス
 第四百八條 左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス
 一 確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件カ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ
 二 事件カ通常裁判所ノ權限ニ屬セサルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スルトキ
 第四百九條 差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ裁判所書記ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス
 第三章 抗告
 第四百十條 口頭辯論ヲ經シテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百十一條 決定又ハ命令ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得サル事項ニ付決定又ハ命令ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百十二條 受命判事又ハ受託判事ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受託裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判力受訴

裁判所ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル
 抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 第一項ノ規定ハ大審院ニ繫屬スル事件ニ付受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス
 第四百十三條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百十四條 抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限り第一章ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ前章ノ規定ヲ準用ス
 第四百十五條 即持抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第四百十六條 抗告ハ原裁判所又ハ抗告裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 抗告裁判所カ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ適當ト認ムルトキハ事件ヲ原裁判所ニ送付スルコトヲ得
 第四百十七條 原裁判所カ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ヲ送付ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ノ理由アリト認ムル

トキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス
 抗告ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス
 第四百十八條 抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス
 抗告裁判所又ハ原裁判所ヲ爲シタル裁判所若ハ判事ハ抗告ニ付決定アル迄原裁判所ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
 第四百十九條 抗告裁判所ハ抗告ニ付口頭辯論ヲ命セサル場合ニ於テハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得
 第四編 再審
 第四百二十條 左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知りテ主張セザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ
 二 法律ニ依リ裁判ニ關與スルコトヲ得サル判事カ裁判ニ關與シタルトキ
 三 法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ
 四 裁判ニ關與シタル判事カ事件ニ付職

務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ
 五 刑事上罰スヘキ他人ノ行爲ニ依リ自白ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ判決ニ影響ヲ及ボスヘキ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ケラレタルトキ
 六 判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件カ偽造又ハ變造セラレタルモノナリシトキ
 七 證人、鑑定人、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ法定代理人ノ虚偽ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタルトキ
 八 判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ裁判又ハ行政處分ニ依リテ變更セラレタルトキ
 九 判決ニ影響ヲ及ボスヘキ重要ナル事項ニ付判断ヲ遺脱シタルトキ
 十 不服ノ申立アル判決カ前ニ言渡サレタル確定判決ト抵觸スルトキ
 前項第四號乃至第七號ノ場合ニ於テハ罰金ヘキ行爲ニ付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ノ理由ニ依リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁判ヲ得ルコト能ハサルトキニ限リ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタルトキハ第一審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起

スルコトヲ得ス
 第四百二十一條 判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對スル再審ノ理由ト爲スコトヲ得
 第四百二十二條 再審ハ不服ノ申立アル判決ヲ爲シタル裁判所ノ專屬管轄トス
 第四百二十三條 再審ノ事由同一事件ニ付爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄ス
 第四百二十四條 再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限り各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス
 第四百二十五條 再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 第四百二十六條 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
 第四百二十七條 判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第四百二十八條 再審ノ事由カ判決確定後再審ノ事由カ判決確定後生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第四百二十九條 前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及ヒ第四百二十條第一項第十號ニ掲ケル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セス
 第四百三十條 訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

ルコトヲ要ス
 一 當事者及法定代理人
 二 不服ノ申立アル判決ノ表示及ヒ其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨
 三 不服ノ理由
 第四百三十一條 本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得
 第四百三十二條 再審ノ事由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルコトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス
 第四百三十三條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲ケル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十九條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第四百三十四條 督促手續ハ債務者ノ普通裁判所所在地ノ區裁判所又ハ第九條ノ規定ニ

依ル管轄裁判所ノ專屬管轄トス
 第九條 事務所又は營業所を有する者に對する訴は其の事務所又は營業所に於ける業務に關するものに限り其の所在地の裁判所に之を提起することを得
 第四百三十五條 支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セサル限り訴ニ關スル規定ヲ準用ス
 第四百三十六條 支拂命令ノ申立カ第四百三十三條若クハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス
 第四百三十七條 支拂命令ノ申立ニ付シテ之ヲ得サルコトキ其ノ一部ニ付亦同シ
 第四百三十八條 支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス
 第四百三十九條 支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第四百四十條 支拂命令ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス
 第四百四十一條 支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第四百三十七條 債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ
 第四百三十八條 債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第四百三十九條 假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス
 第四百四十條 假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百四十一條 債權者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日以内ニ其ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ
 第四百四十二條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ債權者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第四百四十三條 區裁判所カ異議ヲ不適法ト認ムルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 支拂命令ニ對シ適法ナル異議ヲ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス
 第四百四十三條 依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遲滞ナク訴訟記録ヲ地方裁判所書記ニ送付スルコトヲ要ス
 第四百四十四條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタルトキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 第四百四十五條 第四百九十六條 (削除)

モ之ヲ執行スルコトヲ得但シ第六十四條ノ規定ニ依ル參加人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第四百四十六條 前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ第五百九十九條乃至第六百二十一條ノ規定ヲ準用ス
 第四百四十七條 訴訟の結果に付利害關係を有する第三者は其の訴訟の繫屬中當事者の一方を補助する爲訴訟に参加することを
 第四百四十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ満了前ニハ確定セサルモノトス
 第四百四十九條 確定ハ故障若クハ上訴ヲ其ノ期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之レヲ遮斷ス
 第四百五十條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス
 第四百五十一條 訴訟カ猶本上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス
 第四百五十二條 判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限り上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル
 第四百五十三條 再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判

所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲スコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメシテ爲ス強制執行ノ傍止ハ其ノ執行ニ因リ價ヲ付コト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ確明スルトキニ限り之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一十一條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シテ上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニ對シテ異議ヲ申立テタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

ハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百十二條 第五百十三條、第五百十五條及ヒ

第五百十六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保證ニ付キ之ヲ準用ス

第五百十二條 擔保を供するに金は金銭又は裁判所が相當と認むる有價證券を供託することとを要す但し當事者が別段の契約を爲したるときは其の契約に依る

第五百十三條 被告は訴訟費用に付前條の規定に依りて供託したる金銭又は有價證券の上に質權者同一の權利を有す

第五百十四條 原告が擔保を供すへき期間内に之を供せざるときは裁判所は口頭辯論を經ずして判決を以て訴を却下することを得但し判決前擔保を供したるときは此の限に在らず

第五百十五條 擔保を供したる者か擔保の事由止みたることを證明したるときは裁判所は申立に因り擔保取消の決定を爲すことを要す

擔保を供したる者か擔保取消に付擔保權利者の同意を得たることを證明したるとき亦前項に同じし

訴訟の完結後裁判所が擔保を供したる者の申立に因り擔保權利者に對し一定の期間内に其の權利を行使すへき旨を催告し擔保權利者か其の行使を爲さざるときは擔保取消に付擔保權利者の同意ありたるものと看做す

第一項及第二項の規定に依る決定に對しては即時抗告を爲すことを得

第五百十六條 裁判所は擔保を供したる者の申立に因り決定を以て供託したる擔保物の變換を命することを得

前項の規定は供託したる擔保を契約に因りて他の擔保に變換することを妨げず

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レテ強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所ノ之ヲ管轄ス

第八條 日本に住所なき者又は住所の知れざる者に對する財産權上の訴は請求若し其の擔保の目的又は差押ふることを得へき被告の財産の所在地の裁判所に之を提起することを得

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二 外國判決力第二百條ノ條件ヲ具備セサルトキ

第二百條 外國裁判所の確定判決は左の條件を具備する場合に限り其の效力を有す

一 法令又は條約に於て外國裁判所の裁判權を否認せざることを

二 敗訴の被告が日本人なる場合に於て公示送達に依らずして訴訟の開始に必要な呼出若しは命令の送達を受けたること又は之を受けざるも應訴したること

三 外國裁判所の判決が日本に於ける公の秩序又は善良の風俗に反せずること

四 相互の保證あること

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ

強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣告アリタルトキニ服リ之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證明スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但し其承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ此承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所ニ之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其ノ命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

債務者ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ

判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ爲ス

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區域内ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證明書ノ原本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ満了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其原本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條 豫備、後備ノ軍艦ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上級司令官應ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執行吏ノ實施ス債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執行吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條 執行吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ヲ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其實ニ任ス

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執行吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキハ雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債權者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債權者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條 執行吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得

執行吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條 執行吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條 執行吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執行吏ハ威力ヲ

用ヒ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條 執行吏ハ執行ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執行吏ノ記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ原本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

第五百四十條 執行吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調書ヲ作りタル場所、年月日

第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコト

トノ開示

第六 執行吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條 執行行爲ニ關スル催告其ノ他ノ通知ハ執行吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第六十七條、第六十八條、第七十條、第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ原本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ原本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第六十七條 軍事用ノ應舎又は艦船に屬スル者ニ對スル送達ハ其の應舎又は艦船ノ長に之を爲す

第六十八條 在監者ニ對スル送達は監獄ノ長に之を爲す

第六十九條 送達を爲すべき場所に於テ送達を受くべき者に出會はざるときは事務員、雇人又は同居者にして事理を辨認するに足るべき知能を具ふる者に書類

を交付することを得

前項に掲ぐる者其の他書類の交付を受くべき者カ正當の事由なくして之を受くることを拒みたるときは送達を爲すべき場所ニ書類を差置ることを得

第七十二條 前條の規定に依りて送達を爲すこと能はざる場合に於ては裁判所書記書類を書留郵便に付して之を送達することを得

第五百四十二條 執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執行吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏方執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者方執行文付與ノ際證明シタリト認めラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承継ヲ爭フトキハ亦之ヲ費用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラレルト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ履行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルコト無シ

第五百四十八條 強制執行ノ履行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルコト無シ

第五百十九條 執行力ある正本は判決に表示したる債權者の承継人の爲に之を付與し又は判決に表示したる債務者の一般の承継人に對し之を付與することを得但其承継が裁判所に於て明白なるとき又は證明書を以て之を命ずるときに限り此承継が裁判所に於て明白なるときは之を執行文に記載す可シ

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命ジタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命ジタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三 執行ヲ免カラル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證明スル書面

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者方弊濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

拂命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ支拂命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基キトキニ限り之ヲ許ス

執行文付與ニ付テハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタル認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區域裁判所之ヲ管轄ス但シ其請求方區域裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十一條ノ二 過料ノ裁判ハ檢察ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區域裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタル認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債

務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第八條 日本に住所なき者又は住所の知れざる者に對する財産權上の訴は請求若は其の擔保の目的又は差押ふることを得ヘキ被告の財産の所在地の裁判所に之を提起することを得

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ對シテ爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒテ訴ヲ以テ實得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此力爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付テ孰明アリタルトキハ裁判所ハ實得金ノ供託ヲ命ス可シ但シ此事項ニ付テハ第五百五十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印ニ限リ其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一箇月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但シ差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

立私立ノ教育場教師の職務上の收入、恩給及び其遺族扶助料

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條 左ニ掲ケタル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ禮婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物及ヒ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶、及ヒ公務

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證據

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其ノ他禮拜ノニ用供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書畫

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除外之ヲ差押フルコトヲ得

第六百十八條 第一項第三號乃至五號第三 下士、兵卒の給料並に恩給及び其遺族の扶助料

第四 出陣の軍隊又は役務に服したる軍艦の乗組員に關する軍人軍屬の職務上の收入

第五 文武の官吏、神職、僧侶及び公務

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得若シ此力爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ賣賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條 賣賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 差押金額ハ之ヲ債權者ニ引渡スコトヲ得

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但シ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ從ラズ

第五百七十五條 差押ノ日ト賣賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但シ差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ賣賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ

差押物ヲ永ク貯蔵スルニ付キ不相應ノ費用若ハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條 最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メザルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價力最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條 競賣賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ

免カルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ競賣ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條 競賣有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ指定ニ從ヒテ之ヲ賣却ス可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達スルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達スルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス競賣ハ全ク爾ト爲リタル後ヲ爲サシムル權利アリ

第五百八十五條 差押ヘタル競賣ハ全ク爾ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十六條 競賣ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

競賣ハ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押物ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執

ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲スコトヲ許ス又ハ競賣ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十九條 競賣ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

競賣ハ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押物ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル競賣ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執

達更競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アララコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ競賣更ニ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ競賣更ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ競賣更ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達更ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達更ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其實得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘラレタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ競賣更ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款 債權及他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第三債務者)ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所、此區ノ裁判所ナキトキハ差押ヘキ債權ノ所在地ノ裁判所ナキトキハ第三債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ヲ有ス

差押ヲ可キ債權ハ第三債務者ノ普通裁判籍ノ所在地ニ在ルモノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ擔保權ヲ有スル債權ハ其物ノ所在地ニ在ルモノトス

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ

差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押ヲ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債權者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權者ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ債權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲スコシ其申請ハ差押命令ノ申請トシ併合スルコトヲ得

裁判所ハ債務者ヲ質フタル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差

押債権者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セス
 シテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面
 額ニテ差押債権者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令
 アランコトヲ申請スルコトヲ得
 右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二
 項ノ規定ヲ準用ス
 第六百一十一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉
 付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存ス
 ル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲
 スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモ
 ノト看做ス
 第六百一十二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全
 額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債權者ノ
 申立ニ因リ差押債権者ヲ審訊シテ差押額ヲ
 其債權者ノ要求額ヲテニ制限シ其超過スル
 額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其
 制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要
 求ヲ爲スコトヲ得ス
 右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可
 シ
 第六百一十三條 毛筆其他裏書ヲ以テ移轉スルコ
 トヲ得ル證券ニ關ル債權ノ差押ハ執達吏
 其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス
 第六百一十四條 幣給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ
 債權ノ差押ハ債權額ヲ限リシ差押後ニ收入
 ス可キ金額ニ及フモノトス
 第六百一十五條 職務上收入ノ差押ハ債權者ヲ轉

官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノ
 トス
 第六百一十六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證
 書ヲ差押債権者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ
 差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證
 書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得
 第六百一十七條 第五百九十六條第二項ニ從ヒテ債
 務者ニ擔保ヲ供セシメテ執行ヲ免カサルコ
 トヲ許スコトキハ差押ヘタル金額債權ニ
 付テハ取立ノ命令ノミヲ爲スコシ但此命令
 ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル
 效力ノミヲ有ス
 第五百九十六條第二項 裁判所は申立に因
 り又は職權を以て擔保を供して假執行を
 免るることを得べきことを宣言すること
 を得
 第六百一十八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其
 旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ
 第六百一十九條 差押債権者ハ第三債務者ヲシテ
 差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ
 以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ
 申立ツルコトヲ得
 第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ
 支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度
 第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有
 無及ヒ其種類
 第三 債權力既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘ

ラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類
 右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記
 載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ
 此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス
 第六百二十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三
 債務者ニ對シテ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一
 般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其
 訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レ
 タルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ
 第六百二十一條 債權者カ取立ヲ爲スコキ債權
 ノ行用ヲ怠リタルトキハ此ノ爲メ債權者ニ
 生シタル損害ノ責ニ任ス
 第六百二十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲
 メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此
 カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ
 此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス
 但其際ハ第三債務者及ヒ債權者ニ之ヲ送
 達ス可シ
 第六百二十三條 差押ヘタル債權カ條件附若ク
 ハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ
 他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁
 判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法
 ヲ命スルコトヲ得
 債權者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ
 其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ
 第六百二十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求
 ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌

シテ第五百九十八條乃至第六百一十二條ノ規
 定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
 第六百一十五條 有體物ノ請求ノ差押ニ付テ
 ハ其物產ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引
 渡スコトヲ命ス可シ
 右物產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關ス
 ル規定ヲ準用ス
 第六百一十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ
 債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在
 地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス
 可キコトヲ命ス可シ
 引渡シタル不動産ニ付テハ強制執行ハ不動
 產ニ對スル強制執行ニ付テハ規定ニ從ヒテ
 之ヲ爲ス
 第六百一十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求
 ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコ
 トヲ得ス
 第六百一十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フ
 ルコトヲ得ス
 第一 法律上ノ養料
 第二 債務者カ義務建設所ヨリ又ハ第三
 債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモ
 ノニ限ル
 第三 下士、兵卒ノ給料及ニ恩給及ヒ其
 遺族ノ扶助料
 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍

無ノ乘組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務
 上ノ收入
 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立
 私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩
 給及ヒ其遺族ノ扶助料
 第六 職工、勞務者又ハ雇人カ其勞力又
 ハ役務ノ爲ニ受クル報酬
 第七 第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務
 上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一箇年間ニ三
 百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差
 押フルコトヲ得
 第六百一十九條 數名ノ差押債権者ノ爲メ同時
 ニ爲スコキ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規
 定ヲ準用ス
 第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權
 者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ
 債權者ハ差押債権者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執
 行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ寄得
 金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得
 但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求
 スル債權者ニ付テハ第五百九十九條及ヒ第五
 百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス
 支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配
 當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス
 右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、
 債權者及ヒ差押債権者ニ送達シ又既ニ爲シ
 タル差押力取消トリ爲タルトキハ執行力ヲ

ル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求
 ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス
 第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求
 ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供
 託スル權利アリ
 第三債務者ハ配當ニ與カルル債權者ノ求
 ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ
 第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事
 情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
 第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキ
 ハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所
 カ差押債権者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ
 命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラ
 レタル命令ヲ悉ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ
 有シ又ハ差押債権者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス
 義務アリ
 第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對
 シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債権者ハ
 訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得
 執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴
 訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ
 訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサ
 ル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコ
 トヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコ
 トヲ得
 右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債
 權者ニ利害ヲ及ボス效力アリ

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコキコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ賣却期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スコシ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

債權者ハ直チニ陳述ヲ爲スコシ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ起シタルコトヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセザルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス

第六百三十八條 第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコト又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルコトノ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ各區裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ事件ヲ他ノ管轄區裁判

所ニ移送スルコトヲ得

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一箇年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ貸借アル場合ニ於テハ其期限及ニ借貸ヲ證ス可キ證書
 第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得
 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ
 強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添付スルコトヲ要セス
 第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ
 差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス
 差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ債權者ヲ以テ之ヲ爲ス
 第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
 右申立ハ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續

取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス
 第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
 右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ
 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申立ツ可シ
 債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ
 第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス
 第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者
 第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者
 第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者
 第五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人
 第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス
 不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス
 留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス
 債權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス
 第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス
 若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ

競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ
 第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際債權者ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ
 登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ
 第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ原本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ送付ス可シ
 第六百五十三條 債權者知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ
 第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ
 第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅

其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス
 第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ
 右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應ズル競賣人ナキ場合ニ於テハ自ら其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ
 第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス
 第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 不動産ノ表示
 第二 租稅其他ノ公課
 第三 賃借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ

爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
 第六 最低競賣價額
 第七 競落期日ノ場所及ヒ日時
 第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ヘキ旨
 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨
 第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
 此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム
 第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス
 此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
 第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス
 第一 裁判所ノ揭示板
 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
 其他ノ公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得
 第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達

更ハ執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シ又特別ノ
賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額
申出ヲ催告ス可シ
第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨ
リ保證ヲ立テシメント申出ツルトキハ
其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ
當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ
執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許
サス
右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ
之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競
買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ
第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人
ハ更ニ高價ノ競買ヲ許アルマテ其申出テタ
ル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時
間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ
得ス
第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏
名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ
告知ス可シ
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責
務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時
ニ其返還ヲ求ムル權利アリ
第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニ
ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示
第三 執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シタル
コト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告
知シタルコト
第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏
名、住所又ハ許シ可キ競買ノ申出ナキ
コト
第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時
第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テ
タルコトヲノ申立アルモ保證ヲ立テサ
ル爲メ其競買ヲ許ササルコト
第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ
呼上ケタルコト
最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ
調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ
作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可
シ
競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銀又ハ有價證
券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取
リ之ヲ調書ニ添付ス可シ
第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買
ノ保證ノ爲メ預リタル金銀又ハ有價證券ニ
シテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記
ニ之ヲ渡ス可シ
第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ
所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキ

ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所
ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百
七十條第二項及ヒ第百七十三條ノ規定ヲ準
用ス住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ
作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得
第七十條第二項 送達を受ケル者カ
前項ノ届出を爲さざるときは其の者に對
して送達すへき書類は前條第一項ノ規定
に依リ送達すへき場所宛テ書留郵便に
付して之を發送することを得
第七十三條 第七十條第二項又は前
條ノ規定に依りて書類を郵便にして發送
したる場合に於ては其の發送の時に於て
送達ありたるものと看做す
第六百七十條 競買期日ニ於テ許シ可キ競買
價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一
項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見
ヲ以テ最低價額ヲ相當ニ低減シ新競買
期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許シ
可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ
新競買期日ハ少クとも十四日後タル可シ
第六百七十一條 裁判所ハ競買期日ニ出頭シ
タル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ
爲サシム可シ
競落ノ競買ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ル
マテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議
ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ
左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又
ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
第二 最高價競買人買契約ヲ取結ヒ若
クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買
ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人
ノ合意ヲ得シテ法律上ノ賣却條件ヲ
變更シタルコト
第四 競買期日ノ公告ニ第六百五十八條
ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
第五 競買期日ノ公告ハ法律上規定シタ
ル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間
ヲ存セザリシコト
第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百
六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコ
ト
第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最
高價競買人ナリト呼上ケタルコト
第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權
利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス
第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當
トスルトキハ競落ヲ許サス
第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタ
ル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ

許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競買シタル
不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ
又ハ競買手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ
第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠
缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場
合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承
認セサルトキニ限ル
第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競買ニ付シ
タル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ
各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用
ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テ
ハ競落ヲ許サス
此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可
キモノヲ指定スルコトヲ得
第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百
七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル
場合ニ於テ更ニ競買ヲ許ス可キトキハ職權
ヲ以テ新競買期日ヲ定ム可シ
新競買期日ハ少クとも十四日後タル可
シ
第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競買
期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許サ
サル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ
競落期日ノ調書ニ付テハ第百四十二條乃至
第百四十七條ノ規定ヲ準用ス
第百四十二條 口頭辯論に付ては裁判所
書記期日毎に調書を作ることを要す

第四百三十三條 調書には左ノ事項を記載
シ裁判長及裁判所書記之に署名捺印シ裁
判長支障あるときは陪席判事其の席次に
從ヒ順次之に代りて署名捺印し且其の事
由を記載することを要す但し判事皆支障
あるときは書記其の旨を記載することを以て
足る
一 事件ノ表示
二 判事及裁判所書記ノ氏名
三 立會ひたる當事者ノ氏名
四 出頭したる當事者、代理人、輔佐
人及通事並關席したる當事者ノ氏名
五 辯論の場所及年月日
六 辯論を公開したること又は公開せ
ざる場合に於ては其の理由
第四百三十四條 調書には辯論の要領を記
載し殊に左ノ事項を明確にすることを要
す
一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
三 檢證の結果
四 裁判長ノ記載を命じたる事項及當
事者ノ請求に因リ記載を許したる事
項
五 書面に作らざる裁判
六 裁判の言渡
第四百三十五條 調書には書面、寫眞其の

他裁判所に於て適當と認むるものを引用し訴訟記録に添附して之を調査の一部と爲すことを得

第四百四十六條 調査の記載は申立に因り法廷に於て關係人に之を讀聞かせ又は閱覽せしめ且調査に其の旨を記載することに要す

調査の記載に付關係人が異議を述べたるときは調査に其の趣旨を記載することに要す

第五百五十七條 口頭辯論の方式に關する規定の遵守は調査に依りてのみ之を證するを得但し調査が滅失したるときは此の限に在らず

第六百七十八條 競買期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因り不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競買ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

テノ決定ニ因り損失ヲ被ルル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得 第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス 第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

く可き旨を申立て十分なる保證を立てるときは競落手續を取消す可シ

第六百五十七條 裁判所は前條第一項の債權及ヒ費用を辨濟し剩餘を得る見込あるとき又は差押債權者前條第二項の申立を爲し十分なる保證を立てたるときは職權を以て競買期日及ヒ競落期日を定めて之を公告す

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメントコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競買ヲ命ス可シ

最初ノ競買ノ爲ニ定メタル最低競買價額其他賣却條件ハ再競買ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競買期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ 第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス 第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ
若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債權者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ債權ノ届出ヲ爲ササル抵當證券ノ所持人ノ債權又ハ其順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ債務者又ハ他ノ債權者ノ提起スヘキ訴ニ付テハ第六百九十七條ノ規定ニ依リ準用セラルル第六百三十三條ノ期間ハ其所持人ノ知レタル日ヨリ之ヲ起算ス

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス第五百四十五條 判決に因りて確定したる請求に關する債務者ノ異議は訴を以て

第一審の受訴裁判所に之を主張す可シ
右の異議は此法律の規定に從ひ遅くとも異議を主張することを要する口頭辯論の終結後に其原因を生じたる時に限り之を爲す
債務者か數箇の異議を有するときは同時に之を主張することを要す

第五百四十七條 強制執行の續行は前二條の場合に於ける異議の訴の提起に因りて妨げらるること無し
然れども異議の爲め主張したる事情が法律上理由ありと見え且事實上の點に付き確明ありたるときは受訴裁判所は申立に因り判決を爲すに至るまで保證を立てしめ若くは之を立てしめずして強制執行を停止す可きことを命じ又ハ保證を立てしめて強制執行を續行す可きことを命じ又ハ其爲したる執行處分を保證を立てしめて取消す可きを命ずることを得

右裁判は口頭辯論を経ずして之を爲し又急迫なる場合に於ては裁判長之を爲すことを得

急迫なる場合に於ては執行裁判所も亦此權利を行使することを得此場合に於ては執行裁判所は受訴裁判所の裁判を提出せしむる爲に相當の期間を定む可し此期間を徒過したるときは債權者の申立に因り

強制執行を續行す
第五百四十八條 受訴裁判所は異議の訴に付き裁判する判決に於て前條に掲げたる命を發し又ハ既に發したる命を取消し之を變更し若くは之を認可することを得判決中前項に掲ぐる事項に限り職權を以て假執行の宣言を爲す可シ
右裁判に對しては不服を申立つることを得ず

第六百九十九條 競得人ハ賣却條件ニ依リ不動産ノ買得ヲ引受ル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競得人ナルトキハ其債權ノ配當額力買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競得人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競得人ノ所有權ノ登記
第二 競得人ノ引受ケサル不動産上負擔ノ記入ノ抹消
第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シ

タル記入ノ抹消
右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競得人ノ負擔ス可シ

第六百五十一條 裁判所は競賣手續開始の決定を爲す際職權を以て競賣の申立ありたることを登記簿に記入す可き旨を登記判事に囑託す可シ
登記判事は前項の囑託に從ひて記入を爲す可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所
第二 不動産ノ表示
第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ
二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入

札人ヲ定ム
一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百四十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受ケタルモノヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第六百六十四條 利害關係人か或る競買人より保證を立てしめんことを申立つるときは其競買人か保證として競買價額十分の一に當る金額を現金又は有價證券を以て直ちに執達吏に預くるときに非されは其競買を許さず

右申立は競買價額の申出ありたる後直ちに之を述ぶることを要す其申立は同一なる競買人の其後の競買に付ても亦效力あり

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者力占有スルコトヲ説明スル證書ヲ以テ足ル

第六百四十二條 強制競賣の申立には左の諸件を具備することを要す

第一 債權者債務者及ヒ裁判所の表示
第二 不動産の表示
第三 競賣の原因たる一定の債權及ヒ其執行し得ヘキ一定の債務名義

第六百四十三條 申立には執行力ある正本の外左の證書を添附す可シ

第一 登記簿に債務者の所有として登記したる不動産に付ては登記判事の認證書
第二 登記簿に登記あらざる不動産に付ては債務者の所有たることを證す可き證書
第三 地所に付ては國郡市町村、字、番地、地目、反別若くは坪數、土地臺帳に登錄したる賃貸價額及ヒ其他所に付ては納む可き一年の租稅其他の公課を證す可き證書
第四 建物に付ては國郡市町村、字、番地、構造の種類、建坪及ヒ其他建物に付て納む可き一年の公課を證す

第五 可き證書
 第五 地所、建物に付き賃貸借ある場合に於ては其期限に借賃を證す可き證書
 第二號、第三號及び第四號の要件に付ては債權者公簿を主管する官廳に其證明書を求むることを得
 第四號及び第五號の要件を證明する能はざるときは債權者は競賣申立の際其取調を執行裁判所に申請することを得但此場合に於ては裁判所は執達吏をして其取調を爲さしむ可し
 強制管理の爲め既に不動産を差押へたる場合に於て其執行記録に第一號乃至第五號の要件を記載したるもの有るときは其證書を添附することを要せず
 第六百四十四條 競賣手續の開始決定に同時に債權者の爲め不動産を差押ふることを宣言す可し
 差押は其決定を債務者に送達するに因り其效力を生ず此送達は職權を以て之を爲す
 第六百五十一條 裁判所は競賣手續開始の決定を爲す際職權を以て競賣の申立ありたることを登記簿に記入す可き旨を登記判事に囑託す可し
 登記判事は前項の囑託に従ひて記入を爲す可し

第六百五十二條 登記判事は前條に掲げたる記入を爲したる後登記簿の謄本を裁判所に送付し不動産上權利者より差出したる證書あるときは其抄本をも送付す可し
 第六百五十三條 豫め知るに於ては手續の開始を妨ぐ可き事實か登記判事の通知に依り顯はるるときは裁判所は其事情に因り直ちに手續を取消し又は裁判所の意見を以て定むる期間内に其障礙の消滅したることを證明す可きことを債權者に命す可し其期間内に此證明を爲さざるときは期間の満了後職權を以て手續を取消す可し
 第六百五十四條 裁判所は競賣開始の決定を爲したるときは租税其他の公課を主管する官廳に通知し其不動産に對する債權の有無及び限度を申出づ可きことを期間を定めて催告す可し
 第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ト事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ヲ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲スコトヲ命ス可シ
 既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到

來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ關ス開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ズ此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ズ
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス
 第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ事務ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
 第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ
 第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得
 管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ら不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得
 管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノト

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理ノ業務施行ヲ監督ス可シ
 裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得
 第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨グル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス
 第五百四十九條 第三者が強制執行の目的物に付き所有權を主張し其他目的物の讓渡若くは引渡を妨ぐる權利を主張するときは訴を以て債務者に對し其強制執行に對する異議を正當なりとせざるときは債權者及び債務者に對して之を主張す可し
 右訴を債權者及び債務者に對して起すとき之を共同被告と爲す
 右訴は執行裁判所の管轄に屬す然れども訴訟物カ區裁判所の管轄に屬せざるときは執行裁判所の所在地を管轄する地方裁判所之を管轄す
 強制執行の停止及び既に爲したる執行處

分の取消に付ては第五百四十七條及び第五百四十八條の規定を準用す但執行處分の取消は保證を立てしめずして之を爲す可し
 第五百四十七條 強制執行の續行は前二條の場合に於ける異議の訴の提起に因りて妨げらるること無し
 然れども異議の爲め主張したる事情が法律上理由ありと見え且事實上の點に付き現明ありたるときは受訴裁判所は申立に因り判決を爲すに至るまで保證を立てしめ若くは之を立てしめずして強制執行を停止す可きことを命し又は保證を立てしめて強制執行を續行す可きことを命し又は其爲したる執行處分を保證を立てしめて取消す可きことを命す
 右裁判は口頭辯論を経ずして之を爲し又は急迫なる場合に於ては裁判長之を爲す可し
 急迫なる場合に於ては執行裁判所も此權利を行使することを得此場合に於ては執行裁判所は受訴裁判所の裁判を提出せしむる爲に相當の期間を定む可し此期間を徒過したるときは債權者の申立に因り強制執行を爲す
 第五百四十八條 受訴裁判所は異議の訴に付ても裁判する判決に於て前條に掲げた

る命を發し又は既に發したる命を取消し之を變更し若くは之を認可することを得判決中前項に於ける事項に限り職權を以て假執行の宣言を爲す可し
 右裁判に對しては不服を申立つることを得す
 第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租税其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
 前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權ニ支配ヲ爲サシム可シ
 第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出スコトヲ得
 各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス
 異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審

第七百十六條 強制執行ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百十七條 船舶其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制執行ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶力差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百二十條 強制執行ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ證明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船主登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

キハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

第七百二十三條 船舶力差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定製港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定製港ノ區裁判所ニ送達シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

を以て之を爲したるものと看做す 右の場合に於ては裁判所は特別の處分殊に其權利の管理若くは讓渡を命ずることを得

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證明ス可キ船舶登記簿ノ謄本又ハ信用スヘキ證明書ヲ添付ス可シ

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第五百十八條 執行力ある正本は判決の確定したるとき又は假執行の宣言ありたるときに限り之を付與す

判決の執行が其旨趣に従ひ保證を立つることに繋る場合の外他の條件に繋る場合に於ては債権者が證明書を以て其條件を履行したることを證するときに限り執行力ある正本を付與することを得

第五百十九條 執行力ある正本は判決に表示したる債権者の承継人の爲に之を付與し又は判決に表示したる債務者の一般の承継人に對し之を付與することを得但し其承継が裁判所に於て明白なるとき又は證明書を以て之を證するときに限る

此承継が裁判所に於て明白なるときは之を執行文に記載す可し
第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條の場合に於ては執行力ある正本は裁判長の命令あるときに限り之を

付與することを得
裁判長は其命令前に書面又は口頭を以て債権者を審訊することを得
右命令は執行文に之を記載す可し

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權に換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未定期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假差押ア可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸條件ヲ掲ク可シ
第一 請求ノ表示若シ其請求力一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申

立ツル理由ヲ開示ス可シ

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

第七百四十六條 本案ノ未だ繫屬セザルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經シテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起スコキコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所ニ之ヲ爲ス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其ノ命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承継アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ此ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トシ債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債權者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコトヲ得

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當

スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セザルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セザルモノニ付テモ假

執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄
裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ
經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立
ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ
命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコト
ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲
スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五
十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ
記入セシム可シ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り
保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコト
ヲ得

第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付
キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコト
ヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付
キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ
防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要ト
スルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争
物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ
當否ニ付テハ口頭辯論ヲ爲メ本案ノ管轄裁
判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定

メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因
リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコト
ヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ
管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案力控
訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯
論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申
立ニ付テ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サ
シムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ
爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法
律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ
口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ
之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許スコトキハ裁判所ハ公示催告ヲ
爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲
ク可シ

第七編 公示催告手續

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテ

ニ届出ツ可キコトノ催告
第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失
權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定
第七百六十六條 公示催告ニ付テハ公告ハ裁
判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ
掲載シテ之ヲ爲ス

裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス
可キコトヲ命スルコトヲ得

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ
掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法
律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクト
モ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後
ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當
ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之
ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命
スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判
決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時
抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主
張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルト
キハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テハ
裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止又ハ

除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保スコ
シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出
頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム
可シ

此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内
ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲
メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ
爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナ
ル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲
スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ
爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人
ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管
轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ
得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場
合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テハ公告ヲ爲サス又
ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲

ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務
ノ執行ヨリ除外セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘
ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ
顯ミサルトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ
場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存ス
ルトキ

第四百二十條第四號乃至第八號

四 裁判に關與したる判事カ事件
ノ執行に關する罪を犯したる
とき

五 刑事上罰すべき他人の行爲に
因リ自白を爲すに至りたるとき
又は判決に影響を及ぼすべき或
撃若は防禦の方法を提出するこ
とを妨げられたるとき

六 判決の證據と爲りたる文書其
他の物件が偽造又は變造せら
れたるものなりしとき

七 證人、鑑定人、通事又は宣誓

したる當事者若は法定代理人の
虚偽の陳述カ判決の證據と爲り
たるとき

八 判決の基礎と爲りたる民事若
は刑事の判決其の他の裁判又は
行政處分カ後の裁判又は行政處
分に依りて變更せられたるとき

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不
變期間内ニ之ヲ起スコシ此期間ハ原告カ除
權判決ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ
前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立
ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日
ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間
ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始
マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五箇年ノ
滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ
併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若ハ滅
失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキ
コトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス
公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定

ヲ適用ス
此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所特人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ
此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判所ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス
證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲スコシ
第一 證書ノ原本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スル

ニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト
第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト
第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スコキ旨ヲ戒示ス可シ
第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス
公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ
第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス
第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其ノ判決ノ確定後官報又

ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判断ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス
第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲スコキ旨ヲ催告ス可シ
右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其ノ仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ
第二 仲裁人カ其意見ノ可否同意ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ
第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判断前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ
仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得
仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ
第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判断上ノ行為ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但シ其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ
第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判断ス可キ争ニ關係セサルコト、又ハ仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ履行シ且仲裁判断ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判断ヲ爲スコキトキハ過半數ヲ以テ其判断ヲ爲スコシ但シ仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第七百九十九條 仲裁判断ニハ其作リタル年月日ニ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ
當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ
第八百條 仲裁判断ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八百一節 仲裁判断ノ取消ハ左ノ場合ニ於

定ス
第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル
第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ履行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ
第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得
此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其職務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得
無能力者、變者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得
第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サザリシトキハ其效力ヲ失フ

第八百一節 仲裁判断ノ取消ハ左ノ場合ニ於

テ之ヲ申立ツルコトヲ得

- 第一 仲裁手續ヲ爲スコカラサリシトキ
- 第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ
- 第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ
- 第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ
- 第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ
- 第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ爲ス條件ノ存スルトキ
- 仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四百二十條第四號乃至第八號
- 四 裁判に關與したる判事カ事件に付職務に關する罪を犯したるとき
- 五 刑事上罰すへき他人の行爲に因リ自らを爲すに至りたるるとき又は判決に影響を及ぼすへき攻撃若は防禦の方法を提出することを妨げられたるとき

六 判決の證據と爲りたる文書其の他の物件が偽造又は變造せられたるものなりしとき

- 七 證人、鑑定人、通事又は宣言したる當事者若は法定代理人の虚偽の陳述が判決の證據と爲りたるるとき
- 八 判決の基本と爲りたる民事若は刑事の判決其の他の裁判又は行政處分が後の裁判又は行政處分に依りて變更せられたるとき
- 第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其爲スコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
- 右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハザリシコトヲ確明シタルトキニ限ル
- 第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合

六八

ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起スコトヲ得

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五箇年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行ノ判決取消ヲモ亦言渡スコトヲ得

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許スコカラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和

四年勅令第五百五號ヲ以テ同四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス)

附則 (昭和六年法律第十七號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第八十九號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行ス)但シ第六百四十二條ノ改正規定ハ地租法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十一 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十二 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十三 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十四 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十五 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十六 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十七 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十八 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第十九 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

第二十 民事訴訟法ノ施行ニ關スル法律ニ依リテ之ヲ施行ス

民事訴訟法施行法

(改正大正十五年四月二十四日) 法律第六十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ從前ノ規定ヲ謂フ

第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス
第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル
第八條 新法施行前裁決所書記カ判決原本ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ判決ノ送達ハ申立アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 新法施行前抗告裁決所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
第十三條 關聯判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得
第十四條 新法施行前妨訴抗辯ヲ棄却シ又ハ請求ノ原因ヲ正當ナリトシタル中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十八條 新法施行前言渡シタル判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲グルモノニ對シテ訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル
附則(大正十五年法律第六十二號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

民事訴訟費用法

(明治二十三年八月十六日) 法律第六十四號

改正 (明治三三〇一法律六三) 大正一五〇一法律六三

民事訴訟費用法
第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシ以下條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス
第二條 訴訟其他總テ書類ノ書記料ハ半枚トシ二行二十字詰ニ付金五錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金二十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其ノ測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
司法代書人法第五條ノ規定ニ依リ地方裁判所長ノ定ムル所ニ從ヒテ司法代書人ニ支拂ヒタル金額カ前二項ニ定ムルモノト異ナルトキハ其額ニ依ル
第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付一圓トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

百十條第二項ニ規定スル說明者ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
鑑定又ハ通辯ニ付數多ク時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得
第十二條 當事者、證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

ク外前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス
強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若ク
ハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判
所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
第十七條 證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟
法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ日
當、旅費、止宿料其他ノ費用ハ請求ニ因リ
裁判所之ヲ支拂フ民事訴訟法第二百六十二
條及ヒ第三百十條第一項ノ規定ニ依ル囑託
ヲ受ケタル者ニ對スル報酬亦同シ
第十八條 當事者ノ豫納ニ係ラサル費用ハ裁
判ニ因リテ其費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ裁判
所之ヲ取立ツルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル費用ノ取立ハ第一審ノ受
訴裁判所ノ決定ニ依リ民事訴訟法第六編ノ
規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル
債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス
前項ノ規定ハ民事訴訟法第二百三條ノ規
定ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手
方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲ス場合ニ之ヲ準
用ス
第十九條 民事訴訟法第二百一一條及ヒ第百
二十二條ノ規定ニ依ル費用ノ取立ノ決定ハ
民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス
其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力
ヲ有ス

民事訴訟用印紙法

(明治二十三年八月十六日)
法律第六十五號

改正
明治四三法律一五
昭和一六法律一八

民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行
スヘキコトヲ命ス
民事訴訟用印紙法
第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定
ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所
書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ
其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ
第二條 財產權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀
ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印
紙ヲ貼用ス可シ
訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十五錢
同 十圓マテ 四十錢
同 二十圓マテ 八十錢
同 五十圓マテ 一百五十錢
同 七十五圓マテ 二百二十五錢
同 一百圓マテ 三百五十錢
同 二百五十圓マテ 七百五十錢
同 五百圓マテ 一千五百錢
同 七百五十圓マテ 二千二百五十錢
同 一千圓マテ 三千五百錢
同 一千五百圓マテ 五千二百五十錢
同 二千圓マテ 七千五百錢
同 三千圓マテ 一千零二十五錢
同 五千圓マテ 一千七百五十錢
同 七千五百圓マテ 二千二百二十五錢
同 一萬圓マテ 三千五百錢
同 一萬五千圓マテ 四千七百五十錢
同 二萬圓マテ 五千二百五十錢
同 三萬圓マテ 七千五百錢
同 四萬圓マテ 九千七百五十錢
同 五萬圓マテ 一千二百二十五錢
同 七萬五千圓マテ 一千七百五十錢
同 一萬圓マテ 三千五百錢
同 一萬五千圓マテ 四千七百五十錢
同 二萬圓マテ 五千二百五十錢
同 三萬圓マテ 七千五百錢
同 四萬圓マテ 九千七百五十錢
同 五萬圓マテ 一千二百二十五錢
同 七萬五千圓マテ 一千七百五十錢

第三條 財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テ
ハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用
ス可シ
財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ由
テ生スル財產權上ノ訴訟ト併合スルトキハ
其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙
ヲ貼用ス可シ
第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物
ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ
要セス
第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半
額上告狀ニハ其金額ノ印紙ヲ加貼ス可シ
第五條ノ二 民事訴訟法第七十一條又ハ第七
十五條ノ規定ニ依ル參加ノ申出書ニハ第二
條、第三條及ヒ前條ノ規定ニ準シ印紙ヲ貼
用ス可シ
第六條 支拂命令ノ申立ニシテ訴訟物ノ價額

十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙
ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ
依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ
半額ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第六條ノ二 左ニ掲クル申立、申出又ハ申請
ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓
以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二
十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙
ヲ貼用ス可シ
一 期日指定ノ申立
二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼
ノ申立
三 民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出
除斥又ハ忌避ノ申立
四 和解ノ申立
五 費用額確定ノ申立
六 假執行ニ關スル申立
七 強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行
處分ノ取消ノ申立
八 配當要求
九 強制執行又ハ強制管理ノ申立
十 債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請
十一 民事訴訟法第七百三十二條乃至第
七百三十四條ノ申立
十二 七百三十四條ノ申立、申出又ハ申請
ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓
以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定

十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ
貼用ス可シ
一 抗告
二 故障
三 證據ノ申出
四 假差押又ハ假處分ノ申請
五 判決送達ノ申立
六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但二通
以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼
用ス可シ
第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法
第三百五十六條第三項又ハ第四百四十二條
ノ規定ニ依リ訴訟力繫屬スルトキハ第二條
及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ
但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタ
ル印紙ノ額ヲ通算ス
第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス
可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用
ス可シ
第九條 (削除)
第十條 答辯書其他前條ニ掲ケサル申立、
申出又ハ申請ニテ訴訟物ノ價額又ハ請求
ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢
ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ
二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第十一條 民事訴訟法第二百十條第一號ノ場
合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事

訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼
用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判
所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシ
ムルヲ得
第十二條乃至第十五條 (削除)
第十六條 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニ
シテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テ
ハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合
ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ但第
六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス
左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額
二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙
ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ
印紙ヲ貼用ス可シ
一 裁判上代位ノ申請
二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
三 競賣法ニ依ル競賣又ハ不動產登記ニ
關スル抗告
四 抵當證券法ニ依ル異議ノ申立及ヒ同
法第三十二條第一項ノ規定ニ依ル許可
ノ申請
非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求
ノ價額ナキモノハ其請求ノ價額二十圓以下
ノモノト看做ス
第十一條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定

(明治二十四年一月七日勅令第三號)

改正
明治二五〇、三〇三
明治四一〇、一六〇、一六六
明治四三〇、一六六
大正一五〇、一六六

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 各省、内閣印刷局、樺太廳、北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得
第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス
第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

人事訴訟手續法

(明治三十一年六月二十一日法律第六六號)

改正、大正一五〇法律六六

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
人事訴訟手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ノ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
トキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

地トス
第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス
第三條 夫カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス
前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス
檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受審ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承継人トシテ選定スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第三條 無能力者カ婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス
無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受審裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス
無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受審裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受審裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス
第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス
檢事ハ受審裁判所又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得
事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ
第六條 檢事ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得
他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得但扶養ノ請求、損害ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リテ婚姻損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求手續法 第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

縁ノ請求ハ此限ニ在ラス
第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得
第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ヲ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第十條 民事訴訟法第三百九條、第四百一條第一項、第二百五十五條、第三百六十六條及ヒ第三百七十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セシム
第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス
第十二條 裁判所ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用スルコトヲ得
第十三條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ

自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得
當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受審裁判所又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス
第十三條 和議ノ調ヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得
第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ
第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス
第十七條 檢事カ收訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス
第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス
民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコ

トテ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其力訴訟ニ參加シタルトキニ限り其效力ヲ有ス

第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス

第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス

第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ難縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ

附帶シテ縁組ノ取消又ハ難縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ難縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件、及隠居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無効若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ

提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受續クコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ五ニ其相手方ト爲ル

子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ遺産推定相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トス

ル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隠居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隠居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隠居者カ提起スル隠居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隠居者ヲ以テ相手方トス

隠居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隠居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據ヲ爲シ且當事者カ提出セザル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權

ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隠居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ

爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ進行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第三節第二款及ヒ第三款ノ規定ハ認人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付

キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス
 前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ
 第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ
 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ
 第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス
 法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ
 第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一箇月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス
 第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス
 禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス
 第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第四條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
 第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス
 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス
 第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
 前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ
 第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合

ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス
 前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ
 禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス
 檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得
 第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス
 第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス
 第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス
 第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依

リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス
 第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム
 第四章 失踪ニ關スル手續
 第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス
 第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト
 二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト
 公示催告期間ハ六箇月以上オコトヲ要ス
 第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足ル
 前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告

ノ日ヨリ二箇月以上ナルヲ以テ足ル
 第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得
 第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得
 第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ應ルマテ公示手續ヲ中止スヘシ
 第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財產ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス
 第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得
 前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス
 第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民

人事訴訟手續法第六十二條及第六十三條ノ規定ヲ適用ス

第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セシメ

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴訟ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所指定

(明治三十一年七月八日 司法省令第八號)

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所地トス

人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

(明治三十一年七月八日 司法省令第九號)

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區域裁判所ノ選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

非訟事件手續法

(明治三十一年六月二十一日 法律第十四號)

改正 明治三二一法律五一、明治四四一法律七四、大正二一法律一九、大正三一法律六三、昭和七一法律一、大正一五法律六七、昭和二一法律三三、昭和四一法律六〇、昭和六三法律四二、昭和九一法律三

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一編 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第二條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續

開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ適用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第七條 民事訴訟法第八十條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ適用ス但私文書ニ認證ヲ受クヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第八條 民事訴訟法第五十條ノ規定ハ申立

及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人ノ署名、捺印スヘシ
一 申立人ノ姓名、住所
二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其姓名、住所
三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
四 年月日
五 裁判所ノ表示
證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條 期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ適用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行為ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得
事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

第十八條 裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且原本ニハ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十九條 裁判ハ之ヲ受ケルモノニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス
裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第二十條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十一條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコト

ヲ得
 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス
 第二十二條 當事者カ其實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ即時抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得
 第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
 第二十四條 (削除)
 第二十五條 抗告ニハ特ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス
 第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢察力申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ
 第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔

ヲ命スルコトヲ得
 第二十九條 民事訴訟法第九十三條ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得
 第三十二條 民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス
 第三十三條 費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス
 第三十四條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ
 第三十五條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

キ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第三十六條 法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第三十七條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得
 第三十八條 第三百三十六條乃自第三百三十八條及ヒ第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス
 第三十九條 第四百二十九條ノ三及ヒ第四百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二編 民事非訟事件
 第一章 法人ニ關スル事件

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

管理人ヲ改任スルコトヲ得
 管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ
 第四十條 二 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得
 第四十二條 第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得
 第四十三條 前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第四十四條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得
 第四十五條 檢察ハ前項ノ書類ヲ閱覽スルコトヲ得
 第四十六條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス
 第四十七條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得
 第四十八條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶

船ノ上ニ抵當權ヲ設定スルコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ
 前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス
 第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所ノ之ヲ爲ス
 利害關係人、管理人及ヒ檢察ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得
 第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス
 一 日用品
 二 封印ヲ爲スニ適セサル物
 三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス
 第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ
 第五十條 第四十條、第四十一條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ
 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人ノ之署名、捺印スヘシ
 一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示
 二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其理由
 三 申請人ノ氏名、住所
 四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫
 五 封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由
 調書ハ二通ヲ作り其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ
 第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢察ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得
 第五十二條 第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス
 第五十三條 保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得
 第五十四條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢察ニ之ヲ告知スヘシ
 第五十五條 利害關係人、管理人及ヒ檢察ハ前項ノ期日以前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民

法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス
 異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス
 封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財產ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス
 第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人ノ署名、捺印スヘシ
 一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示
 二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由
 三 申立人ノ氏名、住所
 四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト
 五 財產ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメザリシコト
 六 封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由
 第五十五條 管理人カ調製スヘキ財產ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人ノ

ニ署名、捺印スヘシ
 一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
 二 申立人ノ氏名、住所
 三 不動產ノ表示
 四 動產ノ種類及ヒ數
 五 債權及ヒ債務ノ表示
 六 帳簿、證書其他ノ書類
 財產ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノ之ヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ
 第四十六條第二項ノ規定ハ財產ノ目錄ノ調製ニ之ヲ準用ス
 第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財產ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目錄ノ不充分ト認メタルトキ亦同シ
 前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ因リテ書記又ハ公證人カ財產ノ目錄ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
 第五十七條 利害關係人ハ財產ノ目錄ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得
 檢事ハ財產ノ目錄ヲ閱覽スルコトヲ得
 第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財產ヲ賣却セ

シムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ
 第五十九條 本人カ自ラ其財產ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ
 第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財產ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス
 第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財產ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ
 第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財產ノ負擔トス
 第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財產ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住

所地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第三者カ數人ノ子ニ財產ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財產ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 第六十五條 民法第二十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ相續財產ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
 第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス
 第六十七條 民法第四十三條ノ相續財產ノ管理ニ關スル事件ハ財產分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス
 第六十八條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス
 第六十九條 民法第五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申立人ノ氏名、住所
 二 被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所
 三 被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所並ニ

其年月日
 四 管理人ノ氏名、住所
 第七十條 民法第五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
 二 相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ催告
 第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前五條ノ公告ニ之ヲ準用ス
 第三章 信託ニ關スル事件
 第七十一條ノ二 信託法第八條第一項、第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所ノ區裁判所、同法第四十九條第一項第一區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス
 第七十一條ノ三 裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財產目錄及ヒ信託

事務ニ關スル帳簿並ニ書類ノ提出ヲ命シ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得
 前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第七十一條ノ四 裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル受託管理人又ハ信託財產ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得
 第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財產ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス
 第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理人又ハ信託財產ノ管理人ニ之ヲ準用ス
 第七十一條ノ六 第二百二十八條、第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタル検査役ニ付キ之ヲ準用ス
 第四章 裁判上ノ代位ニ關スル事件
 七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スル

第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者カ普通債
判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス
第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタ
ル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所
二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其
履行ハントスル權利ノ表示
第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ム
ルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシ
テ之ヲ許可スルコトヲ得
第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ
以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ
前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處
分ヲ爲スコトヲ得ス
第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテ
ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ
即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務
者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算
ス
第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負
擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及
ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第八
十九條ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム
第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ
本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第五章 保存、供託、保管及
ヒ鑑定ニ關スル事件
第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書
保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ
區裁判所ノ管轄トス
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ
裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於
テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔ト
ス
第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供
託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務
履行地ノ區裁判所ノ管轄トス
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ擔保者ヲ
訊問スヘシ
裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル
場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔
トス
第八十二條 第四十條、第四十條ノ二、民法
第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃
至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規
定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六
百六十條ノ通知ハ擔保者ニ之ヲ爲スコトヲ
要ス
第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百
九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二
項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物
ヲ以テ直チニ擔保ニ充ツルコトヲ申請スル
場合ニ之ヲ準用ス
裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其
手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス
第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ
選任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁
判所ノ管轄トス
裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ
訊問ノ費用亦同シ
第八十五條 民法第三百三十二條第二項、第千
三十四條及ヒ第三百三十二條第二項ノ鑑定
人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區
裁判所ノ管轄トス
第八十六條 民法第四百七條及ヒ第千五十
條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ
訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄
トス
第八十七條 民法第一千三十二條第二項、第千
三十四條、第千四十七條及ヒ第千五百條ノ
場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ
相續財產ノ負擔トス
第八十八條 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ
ハ之ヲ適用セス
第八十九條 本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ

第六章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十條 隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル
戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス
許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表
示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シ
タル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セ
シムヘシ
隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告
ヲ爲スコトヲ得ス
第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸
主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス
利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタ
ル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用
ス
第九十二條 子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住
所地ノ區裁判所ノ管轄トス
檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ
抗告ヲ爲スコトヲ得
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用
ス

第九十三條 民法第九百七十八條ノ戶主權ノ
行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十五條ニ定
メタル裁判所ノ管轄トス
第九十四條 家督相續人ノ選任ニ關スル許可
ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場
合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔
トス
第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與
ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用
ス
第九十六條 無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族
會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所
ノ管轄トス
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場
合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔
トス
第九十七條 家督相續人ノ選任ノ爲メニ開ク
ヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區
裁判所ノ管轄トス
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場
合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔
トス
第九十八條 前二條ニ掲ケサル事件ノ爲メニ
開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住
所地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場
合ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負
擔トス
第九十九條 裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員
ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四
條ニ掲ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル
者ヲ指名セシムルコトヲ得
第一百條 親族會員タルコトヲ得
ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ
前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服
ヲ申立ツルコトヲ得ス
第一百一條 親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任
ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗
告ヲ爲スコトヲ得
民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會
員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告
ヲ爲スコトヲ得
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準
用ス
第一百二條 親族會員其他民法第九百四十四條
ニ掲ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ
裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シ
テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準
用ス

非訟事件手續法

民事非訟事件 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

三 年月日
 四 裁判所ノ表示
 第三百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ要ス
 裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得
 第三百二十九條 商法第二百四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ
 發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ
 第三百二十九條ノ三 商法第二百四條又ハ第九十八條ノ規定ニ依リ裁判所ハ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム
 第三百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百三十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第三百三十一條 商法第十一條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由、同法第六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役力其招集ヲ怠リシ事實ヲ證明スルコトヲ要ス
 前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百三十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ
 申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第三百三十三條 商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ證明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ
 前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス
 第三百三十四條 商法第四十七條及ヒ第四十八條ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ
 前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法

ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス
 第三百三十五條 會社及ヒ検査ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 抗告裁判所力會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス
 第三百三十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判力確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル外國會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在ノ商業登記所ニ其登記ノ屬託ヲ爲スヘシ
 抗告裁判所力裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ
 登記所力前項ノ屬託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ
 第三百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所力商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス
 第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル

判決力確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ屬託ヲ爲スヘシ
 登記所力前項ノ屬託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ヲ無効ナルコトヲ登記スヘシ
 第三百三十五條ノ五 地方鐵道法第六條ノ四第ニ項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ證明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ
 第三百三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ
 申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

所力銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ
 第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシモ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 一 未成年者
 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
 三 刑罰公權者及ヒ停止公權者
 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
 五 破產者
 第三百三十八條ノ二 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算事務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得
 第三百三十八條ノ三 第二百二十九條ノ三及ヒ第八十九條ノ四ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第三百三十八條ノ四 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス
 裁判所力前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ
 第三百三十八條ノ五 第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ準用ス

第三章 商業登記
 第一節 通則
 第三百三十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
 第四百零條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ
 一 商號登記簿
 二 未成年者登記簿
 三 妻登記簿
 四 法定代理人登記簿
 五 支配人登記簿
 六 合名會社登記簿
 七 合資會社登記簿
 八 株式會社登記簿
 九 株式合資會社登記簿
 十 外國會社登記簿
 第四百零一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ
 第四百零二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又ハ手抄料ヲ納付スルトキハ之ニ其原本若クハ抄本ヲ交付スヘシ
 登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ證明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ
 郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ原本又ハ抄本ヲ

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督亦同シ
 第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス裁判

會計ノ清算ニ關スル事件 商業登記 通則

非訟事件手續法 商事非訟事件

請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ
 第四百三十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項
 ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコト
 ノ證明ヲ爲スヘシ
 第四百四十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報
 及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ
 要ス
 公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞
 紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做
 ス
 第四百四十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年
 登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ
 選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘ
 シ
 公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢
 刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前
 項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
 第四百四十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ
 爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムル
 トキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其
 管轄内ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲ス
 コトヲ得
 第四百四十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變
 更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場
 合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之
 ヲ爲スコトヲ得ス
 第四百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其

登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル
 トキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコト
 ヲ得
 第四百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル
 後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許
 スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルト
 キハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ
 得
 第四百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ
 爲スコトヲ要ス
 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其
 代理人ノ署名、捺印スヘシ
 一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人
 ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
 二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其
 氏名、住所
 三 登記ノ目的及ヒ事由
 四 年月日
 五 登記所ノ表示
 第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申
 請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ
 連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ
 者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
 連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明ス
 ルコトヲ要ス
 第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ
 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書

又ハ其認證アル膠本ヲ添附スルコトヲ要ス
 第五百十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於
 テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於
 テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所
 在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添
 附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ
 定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス
 第五百十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又
 ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シ
 タル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對
 シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之
 ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス
 第五百十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル
 後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許
 スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルト
 キハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超エ
 サル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキ
 トキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ
 登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサ
 ルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告
 ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一
 ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得
 第五百十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキ
 ハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁
 判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第五百十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ
 異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登
 記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ
 第五百十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ
 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記
 ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記
 ニノミ之ヲ適用ス
 前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登
 記ヲ抹消シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ支店
 所在地ノ登記所ニ通知スヘシ
 支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタ
 ルトキハ遲滞ナク登記ヲ抹消スヘシ
 第五百十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル
 後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シ
 タルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其
 旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所
 ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス
 前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク
 地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲
 スヘシ
 第五百十二條 (削除)
 第五百十三條 (削除)
 第五百十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ
 滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ
 期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ

命スルコトヲ得
 第五百十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管
 轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所
 ニ委任スルコトヲ得
 第五百十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關ス
 ル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム
 第五百十七條 不動産登記法第十條、第十三
 條、第十八條、第二十條、第二十二條、第三
 十二條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記
 ニ之ヲ準用ス
 第二節 商號ノ登記
 第五百十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於
 テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモ
 ノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲
 スコトヲ得ス
 第五百十九條 商法施行法第十三條第一項ノ
 規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ
 商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨ
 リ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス
 第六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百
 十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種
 類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請ス
 ルトキ亦同シ
 第六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承
 繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格
 ヲ證明スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ
 申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所
 ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其登記ヲ申請
 スヘシ
 第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタル
 トキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ
 相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ス
 トキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附
 スルコトヲ要ス
 第六十三條 規定ハ本條第一項ノ
 申請ニ之ヲ準用ス
 第六十四條 商法第二十四條第一項ノ規定
 ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其
 登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明スル
 コトヲ要ス
 第六十四條 第五百十一條ノ二乃至第五
 十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場
 合ニ之ヲ準用ス
 第六十五條 登記所カ第五百十一條ノ六第
 二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正
 ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル
 者ニ其旨ヲ通知スヘシ
 第三節 未成年者、妻及ヒ法定
 代理人ノ登記
 第六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ
 於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ
 種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコ
 トヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法

非訟事件手續法

商事非訟事件 商號ノ登記 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

法定代理人ノ之ニ連署スルトキハ此限ハニ在ラス 親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス 繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス 夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス 妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セザル場合ニ於テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス 第六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第七十條 法定財産制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス 一 支配人ノ氏名、住所 二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス 第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號及第三號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 申請書ニハ變更ノ事由ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十八條 清算ノ了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十二條 合名會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十三條 合名會社カ合併ニ因リテ設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十二條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十四條 合名會社ノ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス 第八十五條 商法第八十三條ノ三又ハ第八十四條ノ四ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ要ス 申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス 有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

非訟事件手續法

商業非訟事件 商業登記支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記 合名會社及ヒ合資會社ノ登記

三 支配人ヲ置キタル場所 四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號及第三號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 申請書ニハ變更ノ事由ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十八條 清算ノ了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス 前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十二條 合名會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十三條 合名會社カ合併ニ因リテ設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十二條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十四條 合名會社ノ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス 第八十五條 商法第八十三條ノ三又ハ第八十四條ノ四ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ要ス 申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス 有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條ノ二 第百七十九條第二項及ヒ前條ノ規定ハ商法第百十八條ノ二ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第百八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第六節 株式會社ノ登記

第百八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 三 株式申込證
- 四 取締役及ヒ監査役又ハ檢査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類
- 五 檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
- 六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類
- 七 創立總會ノ決議錄

第百八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議

ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏、名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 二 株式申込證
- 三 商法第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ檢査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
- 四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十條 會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 最終ノ貸借對照表
- 二 社債ノ引受ヲ證スル書面
- 三 社債申込證
- 四 各社債ニ付キ商法第百二十四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十九條第三號、第四號ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當並ニ引受ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第百四十四

條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十四條 (削除)

第百九十四條ノ二 舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 株主名簿
- 三 各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
- 四 設立免許書
- 五 創業總會ノ決議錄

第百八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十四條ノ三 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株主名簿
- 二 新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
- 三 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ其決議錄

第百九十四條ノ四 舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 舊商法第百二十七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申立テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

二 資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ其決議錄

第百九十四條ノ五 舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株金ノ拂込金額ヲ證スル書面
- 二 債券原簿
- 三 主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本
- 四 債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十五條 資本ノ増加並ニ減少、解散及ヒ合併ニ因ル變更並ニ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百九十五條ノ二 第百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第百六十三條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

之ヲ準用ス

第百九十七條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百九十八條 第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ第百九十一條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十八條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十九條 第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百條 株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員力退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議録ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社力裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議録及ヒ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一條 株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式合資會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式合資會社ノ總取締役及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議録ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一條ノ二 第百九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八節 外國會社ノ登記

第二百二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者アル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二百五條 (削除)

第二百六條 民法第八十四條、第百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二及ヒ民法施行法第十一條第二項、第十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條、第六十七條、第六十九條、第七十五條、第六十七條、第六十七條及ヒ小切手法第七十一條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラレヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百九條 非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要ス

ルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二百十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三十六条ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第一章 總則

第一條 本法ノ目的ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第二條 本法ノ適用スル事件ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三條 本法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十一條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十二條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十三條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十四條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十五條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十六條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十七條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一百條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商事非訟事件印紙法

(明治二十三年八月十六日法律第六十六號)
(改正) 明治四三法律一六
大正一五法律六五
昭和二法律三二

商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一章 總則

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調査ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲ケルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

第三條 左ニ掲ケルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

競賣法 (明治三十一年六月二十一日)

改正 (大正一五) 法律六八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サシテ競買ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ
第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競買ノ目的タル權利ヲ取得ス
競買ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス
競買人ハ留置權者、競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競買ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競買ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

第四條 乃至第七條 (刪除)
第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第三章第一節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限リ之ヲ準用ス

附則 (昭和二年法律第三十二號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第七十號) 以テ同年四月十日ヨリ施行ス

本法施行ノ際未タ終局計算ニ至ラサル破産手續ニ在リテハ財團ノ全部ニ付印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス
大正十五年法律第六十五號第三項ヲ削ル

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第四條 競買ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス
債權者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス
第五條 競買ハ競買ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲ス但其他地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
第六條 競買ノ日時ハ執達吏力其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス
第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣委任者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
四 競賣ノ場所及ヒ年月日時

五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所
委任者力競賣ノ條件ヲ定メザリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受ケヘキ者ノ住所又ハ居所力知レサルトキハ此限ニ在ラス
第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス
第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競賣ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ

付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス
競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競賣圖書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ
一 競賣委任者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
四 競賣ノ場所及ヒ日時
五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セザリシトキハ其事由
七 告知シタル競賣ノ條件
八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由
十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時
十一 競賣圖書ヲ作りタル場所及ヒ年月日
競賣圖書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署

名、捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證明スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス
執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣圖書ノ騰本ヲ交附スルコトヲ要ス
第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ還附ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス
第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣圖書ニ添附スヘシ
第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス
第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス
第十九條 第三者力競賣ノ目的物ニ關シテ訴

ヲ起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス
物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ運搬ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十一條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得
前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章 不動産ノ競賣

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス
民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス
第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競賣申込ノ同意アル場合ニ限り其申立ノ取
下ヲ爲スコトヲ得
第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之

ヲ爲スコトヲ要ス
申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ
一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ原本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス
抵當證券ノ所持人ハ競賣ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書面ノ外申立書ニ抵當證券ヲ添付スルコトヲ要ス
民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス
第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ
第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

シ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依リテ本章ノ規定ヲ準用ス
第三十五條 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第四章 船舶ノ競賣

第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス
第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者及ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ原本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス
第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百二十九條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第五章 増價競賣

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ増價競賣ヲ請求スル債權者

民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス
競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス
一 申立人
二 債務者及ヒ所有者
三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者
五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ眞書人
第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低價額トスヘシ
第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ

一 債務者ノ氏名、住所
二 抵當不動産ノ表示
三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
四 擔保ノ表示
五 第三取得者カ提供シタル金額
六 請求者カ定メタル増價金額
七 年月日
八 裁判所

第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト

第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セザル
裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ
民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第
三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタ
ル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ
三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキ
ハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ
決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十
一條第一項第一號乃至第三號第六號及第七
七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第二十五條第二項、第三項及第二十六條
第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス
第四十五條 第二十七條第一項及第二項ノ
規定ハ増價競賣ニ之ヲ準用ス
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス
一 競賣請求者
二 債務者
三 第三取得者及ヒ讓渡人
四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利
者
五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證
明シタル者
第四十六條 競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立
ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタ
ル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條

第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九
號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條
乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至
第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六
百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本條
ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス
第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタ
ル増價金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ
請求債權者ヲ以テ競落人トス
民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最
高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁
判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ
之ヲ公告スルコトヲ要ス
第四十八條 増價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完
済ニ因リテ其效力ヲ失フ
第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因
リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ
於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五
條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス
附則
第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム(明治三十一年勅令第二百二十三號ヲ以
テ同年七月十六日ヨリ施行ス)
第五十一條 明治二十三年法律第九十二號増
價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最
高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁
判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ
之ヲ公告スルコトヲ要ス
第四十八條 増價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完
済ニ因リテ其效力ヲ失フ
第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因
リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ
於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五
條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス
附則
第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム(明治三十一年勅令第二百二十三號ヲ以
テ同年七月十六日ヨリ施行ス)
第五十一條 明治二十三年法律第九十二號増
價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

破産法

(大正十一年四月二十五日)
(法律第七十一號)

改正、大正一五一法律七〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル破産法ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

第一編 實體規定

第一章 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス
第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日
本人又ハ日本法人ト同一ノ地位ヲ有ス但シ
其ノ本國法ニ依リ日本人又ハ日本法人カ同
一ノ地位ヲ有スルトキニ限ル
第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者
ノ財産ニシテ日本ニ在ルモノニ付テノミ其
ノ效力ヲ有ス
外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財
産ニ付テハ其ノ效力ヲ有セス
民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコト
ヲ得ヘキ債權ハ日本ニ在ルモノト看做ス
第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍
内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス
第五條 相續人又ハ相續財産ニ對スル破産ノ

破産法 第一編 實體規定

第一章 總則 第二章 破産財團

第二章 破産財團

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル
一切ノ財産ハ之ヲ破産財團トス
破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ
將來行フコトアルヘキ請求權ハ破産財團ニ
屬ス
第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ
破産管財人ニ專屬ス
第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開
始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後
ニ爲シタル單純承認ハ破産財團ニ對シテハ
限定承認ノ效力ヲ有ス
第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續
ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣
告後ニ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキト雖破産
財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス
破産管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效

力ヲ認ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拋棄
アリタルコトヲ知りタル時ヨリ三月内ニ其
ノ旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス
第十條 前二條ノ規定ハ包括遺贈ニ之ヲ準用
ス
第十一條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ特定遺
贈アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告ノ
當時承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキハ破産
管財人破産者ニ代リテ其ノ承認又ハ拋棄ヲ
爲スコトヲ得
民法第八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリ
タル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財産ヲ
以テ破産財團トス
被相續人カ相續人ニ對シ及相續人カ被相續
人ニ對シテ有シタル權利ハ消滅セザリシモ
ノト看做ス
第十三條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續
ノ場合ニ於テ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告
アリタルトキハ留保財産モ亦破産財團ニ屬
ス
國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續
財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相
續開始ノ時ニ於テ前戶主カ有シタル財産ヲ
以テ破産財團トス
第十四條 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部

ヲ處分シタル後相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人カ反對給付ニ付有スル權利ハ破産財團ニ屬ス
 相續人カ既ニ反對給付ヲ受ケタルトキハ之ヲ破産財團ニ返還スルコトヲ要ス但シ其ノ當時相續人カ破産ノ原因タル事實又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ其ノ現ニ受ケル利益ヲ返還スルヲ以テ足ル前二項ノ規定ハ前項ノ規定ノ財産ヲ處分シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 破産債權

第十五條 破産者ニ對シ破産宣告前ノ原因ニ基キテ生シタル財産上ノ請求權ハ之ヲ破産債權トス
 第十六條 破産債權ハ破産手續ニ依ルニ非ザレハ之ヲ行フコトヲ得ス
 第十七條 期限附債權ハ破産宣告ノ時ニ於テ辨濟期ニ至リタルモノト看做ス
 第十八條 債權カ無利息ニシテ其ノ期限カ破産宣告後ニ到來スヘキ場合ニ於テハ破産債權ノ額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ル迄ノ破産債權ニ對スル法定利息ヲ債權額ヨリ控除スルモノトス
 第十九條 前條ノ規定ハ金額及存續期間ノ確定スル定期金債權ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル

利息ヲ生スヘキ元本額ヲ超ユルトキハ其ノ元本額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス定期金債權ノ金額又ハ存續期間カ不確定ナルトキ亦同シ
 第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニハ之ヲ適用セス
 第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ外國ノ通貨ヲ以テ定メタルモノナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 第二十三條 條件附債權ハ其ノ全額又ハ前條ノ規定ニ依リ評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 前項ノ規定ハ破産者ニ對シテ行フコトアルヘキ將來ノ請求權ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十五條 保證人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル

債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人若ハ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ請求權ヲ有スル者ハ其ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ請求權ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應ジテ債權者ノ權利ヲ取得ス
 前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ請求權ニ付之ヲ準用ス
 第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條ノ第一項第二項ノ規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス
 第二十八條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十九條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破

産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス
 第三十條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財産ノ分攤アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十一條 相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十二條 前二條ノ場合ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタル相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ相續人ノ固有財産ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ
 第三十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債權及被相續人ノ債務消滅ノ爲ニ爲シタ

ル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ權利ヲ有ス
 第三十四條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス
 第三十五條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ規定アルトキハ相續開始後ノ前項ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十六條 相續財産及前項ノ主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ規定アルトキハ相續開始後ノ前項ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前項ノ主ハ將來行フコトアルヘキ請求權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十八條 左ニ掲クル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 破産宣告後ノ利息
 二 破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及運約金

三 破産手續参加ノ費用
 四 罰金、料料、刑事訴訟費用、追徴金及過料
 第三十九條 破産財産ニ屬スル財産ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債權ハ他ノ債權ニ先ツ
 第四十條 同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟ス
 第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ起リテ之ヲ計算ス
 第四十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者ノ債權ハ受遺者ノ債權又ハ相續開始後ノ前項ノ主ノ債權者ノ債權ニ先ツ
 第四十三條 相續財産ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ
 第四十四條 相續財産及相續人ノ債權ニ先ツ受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ
 第四十五條 相續財産及前項ノ主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前項ノ主

ノ債權者ノ債權ハ前主ノ破産財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ債權額ト第十條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ掲タル請求權ハ法人ノ債權者又ハ相續債權者ノ他ノ債權ニ後ル

第四章 財團債權

第四十七條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ財團債權トス

- 一 破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用
- 二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基ク請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル
- 三 破産財團ノ管理換價及配當ニ關スル費用
- 四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行為ニ因リテ生シタル請求權
- 五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權
- 六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行為ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權

八 破産宣告ニ因リテ債務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權

九 破産者及之ニ扶養セラルル者ノ扶助料

第四十八條 破産管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第四十九條 財團債權ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス

第五十條 財團債權ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス

第五十一條 破産財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未ク辨濟セサル債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第四十七條第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十二條 第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七

第五章 法律行為ニ關スル破産ノ效力

第五十三條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ關スル財產ニ關シ破産者ノ法律行為ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行為ハ破産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ關スル財產ニ關シ破産者ノ法律行為ニ因ラスシテ債權者ニ對抗スルモノ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 不動產又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動產登記法第二條第一號ノ規定ニ依リ假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記債權者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登録又ハ假登録ニ付之ヲ準用ス

條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債權ニ之ヲ準用ス

第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テノミ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條 爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラスシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラザリシモノト推定シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條 債務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未ク共ニ其ノ履行ヲ完了セザルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對

シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルカヲ要スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲サザルトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ得ル

第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ損害賠償ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 破産宣告ノ後破産管財人カ破産者ノ債務ヲ履行シタルトキハ其ノ定ニ從フ

第六百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有スル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 貸買人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借賃ノ前拂又ハ借賃ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除ク外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ザルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セザルモノナルトキハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受クヘキ報酬ハ破産財團ニ關ス

第六十五條 委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ委任者カ破産宣告ノ通知ヲ受ケ且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債

第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求權ハ破産者之ヲ有スルトキハ破産財團ニ屬シ相手方之ヲ有スルトキハ破産債權トス

第六十七條 數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ノ中破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲ササル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他ノ共有者ハ相當ノ價金ヲ拂ヒテ破産者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第六十八條 民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財産ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行使スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産宣告ノ當時屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼グコトヲ得第四十七條第七號ニ掲ケル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

第七十條 破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ費用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破産管財人ヲ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條 破産財團ニ屬スル財産ニ對シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産ノ宣告ハ其ノ處分ノ續行ヲ妨ケス

破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産宣告ノ當時行政廳ニ繫屬スル事件アルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 左ニ掲ケル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戶主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日內ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實

第六章 否認權

ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六十日內ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假登錄アリタル後本登記又ハ本登錄ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登錄ニ付テ之ヲ準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行

爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人ノ行爲ヲ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破産財團ノ原狀ニ復セシム

第七十二條第五號ニ掲ケル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ行爲ノ當時善意ナリシトキハ其ノ現ニ受ケル利益ヲ償還スルヲ以テ足ル

第七十八條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セザルトキハ相手方ハ其ノ價額ノ償還ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ價額カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ價額ヲ償還シタルトキハ相手方ノ債權ハ之ニ因リテ原狀ニ復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリ

タル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財產管理人及遺言執行者カ相續財產ニ關シテ爲シタル行爲並前戶主カ第十三條ノ財產ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財產ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル債務其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行爲カ其ノ債權ニ先ツ債權ヲ有スル破産債權者ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第八十條ニ規定スル行爲カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ價額ニ應ジテ殘餘財產ヲ分配スルコトヲ要ス

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

一 轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルトキ

二 轉得者カ破産者ノ親族、戶主、家族又ハ同居者ナルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アル

ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得
 第百十四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第百十五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス
 其ノ效力ヲ生ス
 第百十六條 裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張所又ハ其ノ管轄内ノ市役所、町村役場若ハ之ニ準スヘキ公署ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ揭示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ス
 第百十七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
 第百十八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效力ヲ有ス

第百十九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ通滞ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 第百二十條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ通滞ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 第百二十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産停止又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記アリタル權利ヲ破産財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登記囑託ノ申立アリタルトキ亦同シ
 第百二十二條 登記所カ前二條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ通滞ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス
 第百二十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ
 第百二十四條 前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス
 第百二十五條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス
 前項ノ規定ハ破産取消、破産停止若ハ強制和議取消ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 破産宣告

第百二十六條 債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス
 債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス
 第百二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ準用セス
 第百二十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖殘餘財産ノ引渡又ハ分配カ終了セザル間ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第百二十九條 相續財産ヲ以テ相續債權者及

受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス
 第百三十條 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後相續カ開始シタルトキハ破産手續ハ相續財産ニ對シテ之ヲ續行ス
 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後ニ於ケル因縁ノ喪失ハ破産手續ニ關シテハ其ノ效力ヲ有セス
 第百三十一條 相續財産ニ對シテハ民法第千四百一十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限り破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對スル債權カ未タ終了セザル間亦同シ
 第百三十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 債權者カ破産ノ申立ヲ爲スコトキハ其ノ債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ヲ證明スルコトヲ要ス
 第百三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲サザル場合ニ於テハ破産ノ原因タル事實ヲ證明スルコトヲ要ス
 第百三十五條 前二條ノ規定ハ第百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス
 第百三十六條 相續財産ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財産管理人及遺言執行者モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 相續財産管理人、遺言執行者又ハ限定承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財産ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス
 相續人、相續財産管理人又ハ遺言執行者カ破産ノ申立ヲ爲スコトキハ破産ノ原因タル事實ヲ證明スルコトヲ要ス
 第百三十七條 破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ證明スルコトヲ要セズ
 第百三十八條 破産申立人カ債權者ニ非ザルトキハ申立同時ニ財產ノ概況ヲ示スヘキ書面或債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ兩後通滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第百三十九條 債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得
 費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第百四十條 破産申立人カ債權者ニ非ザルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ
 第百四十一條 破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス
 第百四十二條 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス
 一 債權提出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ二週間以上四月以下ナルコトヲ要ス
 二 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破産宣告ノ日ヨリ一月内ナルコトヲ要ス
 三 債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權

届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス
 前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス
 第四百三十三條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 破産決定ノ主文
- 二 破産管財人ノ氏名及住所
- 三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日
- 四 破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財産ノ所持者ハ破産者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財産ヲ交付スヘカラサル旨及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財産ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコトヲ一定ノ期間内ニ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命令

知レタル債權者、債務者及財産所持者ニハ前項ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス
 前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第四百四十一條 破産者カ逃走シ又ハ財産ヲ隠匿シテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ得

トヲ要ス
 第四百四十四條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス
 第四百四十五條 裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破産ノ宣告ト同時ニ破産停止ノ決定ヲ爲ス
 第四百四十六條 前條ノ規定ハ無制限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セズ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第四百四十七條 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルルコトヲ得ス
 第四百四十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得
 第四百四十九條 破産者カ逃走シ又ハ財産ヲ隠匿シテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ執行セシム
 第四百五十條 監守ヲ命セラレタル破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス
 第四百五十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ警察官署ニ命シテ監守ヲ解カシム
 第四百五十二條 前項ノ規定ハ破産者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者或ハ支配人ニ付テハ準用ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ
 第四百五十三條 破産者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人、前主、相續財産管理人、遺言執行者並相續人及前主ノ代理人亦同シ
 第四百五十四條 前項ニ規定スル資格ヲ有

シタル者ニ之ヲ準用ス
 第四百五十四條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖債務者及第四百五十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得
 第四百五十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得
 第四百五十六條 破産ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得
 第四百五十七條 破産管財人ハ裁判所ノ選任ヲ爲ス
 第四百五十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得

第四百五十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ認メ書面ヲ交付スルコトヲ要ス
 破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アルトキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス
 第四百六十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス
 破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ要ス
 第四百六十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
 第四百六十二條 破産財團ニ關スル訴訟ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被告トス
 第四百六十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得
 破産管財人數人アルトキハ第三者ノ同意表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル
 第四百六十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス
 破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第四百六十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得
 前項ノ代理人ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得ル

コトヲ要ス
 第四百六十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ裁判所ノ之ヲ定ム
 第四百六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ要ス
 第四百六十八條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滞ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
 破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス
 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算報告書及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
 第四百六十九條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ破産管財人又ハ破産者カ財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 監査委員

第四百七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ

債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得

第七十一條 監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス

監査委員ノ選任ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第七十二條 監査委員ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條 第六十四條及第六十六條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第七十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第七十七條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第七十八條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第七十九條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十一條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十二條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十三條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十四條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十五條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十七條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十八條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十九條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十一條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

破産債權者ノ申立アリタルトキ亦同シ

第七十七條 債權者集會ノ期日又會議ノ目的タル事項ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス

債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七十八條 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス

第七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス

債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第八十條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハサルトキト雖決議決スヘキ事項ニ付同意シタル者ノ債權額カ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ總債權ノ半額ヲ超ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八十一條 破産債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第八十二條 破産債權者ハ確定債權額ニ應シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

未確定債權、停止條件附債權、將來ノ請求權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監査委員ノ同意ニ代フルコトヲ得

債權者集會ノ決議カ監査委員ノ意見ト異ナルトキハ其ノ決議ニ從フ

第八十四條 債權者集會ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破産管財人、監査委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

議決權ヲ有セザリシ破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依ル禁止決定ハ其ノ言渡アリ

第八十五條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十七條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十八條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第八十九條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十一條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十二條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十三條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十四條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十五條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十七條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十八條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第九十九條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第六章 破産財團ノ管理及及換價

第九十條 裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産管財人若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第九十一條 裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産管財人若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

債權者ノ有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

第九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リ

第九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的タル財産ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得

破産管財人カ前項ノ財産ヲ評價セムトスルトキハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得

債權調査ノ終了前強制和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ

破産財團ニ屬スル財産ニシテ遲滞ナク之ヲ換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 破産管財人左ニ掲クル行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

但シ第七號乃至第十四號ニ掲クル行爲ニ付千圓以上ノ價格ヲ有スルモノニ關セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 破産管財人ハ破産管財人ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第九十九條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第一百條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得

第一百零一條 第六十四條及第六十六條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第一百零二條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零三條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零四條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零五條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零七條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零八條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百零九條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十一條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十二條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十三條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十四條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十五條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

第一百一十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ召集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル

一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日
 本船舶及外國船舶ノ任意賣却
 二 營業權、漁業權、特許權、意匠權、
 實用新案權及著作權ノ任意賣却
 三 營業ノ讓渡
 四 商品ノ一括賣却
 五 借財
 六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄
 ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈
 拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ
 依ル特定遺贈ノ拋棄
 七 動産ノ任意賣却
 八 債權及有價證券ノ讓渡
 九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行
 ノ請求
 十 訴ノ提起
 十一 和解及仲裁契約
 十二 權利ノ拋棄
 十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認
 十四 別除權ノ目的ノ受戻
 第十五 第九十八條 第一回ノ債權者集會前ニ於テ
 前條ノ規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要スル
 行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ
 裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財
 人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但
 シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得

ルヲ以テ足ル
 第九十九條 前二條ノ場合ニ於テ破産管財
 人ハ遲滞ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ
 意見ヲ聽クコトヲ要ス
 第二百條 破産管財人ハ第九十七條ニ揭ク
 ル行爲ヲ爲スニ付監査委員ノ同意ヲ得タル
 トキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ
 行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行爲ニ關ス
 ル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ召集ス
 ルコトヲ得
 第二百一條 破産管財人ハ第九十六條乃至
 第九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規
 定ニ依ル執行ノ中止ノ命令ニ違反シタルトキ
 ト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコト
 ヲ得ス
 第二百二條 第九十七條第一號及第二號ニ
 掲クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之
 ヲ爲ス
 第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ
 別除權ノ目的タル財産ノ換價ヲ爲スコトヲ
 得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ之ヲ拒ムコ
 トヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額
 カ未タ確定セザルトキハ破産管財人ハ代金
 ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ
 ハ別除權ハ代金ノ上ニ存ス
 第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法

ニ依ラスシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利
 ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立
 ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間
 ヲ定ム
 別除權者カ前項ノ期間内ニ處分ヲ爲ササル
 トキハ前項ノ權利ヲ失フ
 第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ム
 ル所ニ依リ債權者集會又ハ監査委員ニ破産
 財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス
 第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨
 幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ム
 ルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキ
 ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權
 者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ
 其ノ決議ニ依ル
 破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合
 ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキ
 ハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス
 前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ
 支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發
 行スル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ
 破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相
 互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ
 於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ
 第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保
 險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産

管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應シ會社ノ債務
 ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課ス
 ルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルト
 キハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ貢
 擔ス
 第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人
 ハ第九十八條第二項ノ規定ニ依リ財産目
 録及貸借對照表ノ原本ヲ裁判所ニ提出シタ
 ル後直ニ計算表ヲ作り之ニ各社員ノ氏名、
 住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス
 第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主
 務官廳カ認證シタル定款ノ原本ヲ添附シ之
 ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコ
 トヲ要ス
 破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關ス
 ル登記簿カ破産裁判所タル區域裁判所ノ出張
 所ニ在ルトキハ登記簿カ交付シタル社員名
 簿ノ原本ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス
 第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁
 判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲
 期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 裁判所ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲期日
 ヲ三日前ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相
 互保險會社ノ取締役、監査役、破産管財人
 及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述ブルコトヲ得
 第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由ア
 リトスルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計
 算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更
 正セシメタル後計算表認可ノ決定ヲ爲スコ
 トヲ要ス
 計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタ
 ル一週間内ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ
 要ス
 計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閲覧ニ
 供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ
 要ス
 第二百十四條 第二百十一條第一項及前條第
 一項第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不
 服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルト
 キハ破産管財人ハ遲滞ナク各社員ヲシテ其
 ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
 社員ニ對スル強制執行ハ執行文ヲ附シタル
 決定ノ正本及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲
 ス
 民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五
 條及第五百四十六條ノ規定ニ依ル訴ハ第二
 百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定言
 渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間内ニ破産管財人
 ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコト

ヲ得
 異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタ
 ルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト
 能ハサリシコトヲ證明スルニ非サレハ之ヲ
 提起スルコトヲ得ス
 第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所
 ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額カ區
 裁判所ノ權限ヲ超ユル場合ニ於テ本案ノ辯
 論前ニ當事者ノ申立アリタルトキハ本案ノ辯
 論以テ破産裁判所ノ所在ヲ管轄スル地方裁判
 所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得其ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ
 起算ス
 第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地
 方裁判所ニ繫屬ス此ノ場合ニ於テハ區域判
 所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之ヲ地方裁判
 所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部ト看做ス
 第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間内
 ハ異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開クコトヲ得ス
 數個ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲ス
 コトヲ要ス
 第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行
 處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十
 七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス
 第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ
 社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百一十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ事由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百一十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百一十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脱退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百一十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ノ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百一十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ相續財産ノ處分ハ破産管財人ノ之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財産分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財産ニ付破産財團ノ財産目録及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

第七章 破産債権ノ届出及調査

第二百一十八條 破産債権者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債権ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ原本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ノ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルト能ハサルヘキ債権額ヲ届出ツルコトヲ要ス

破産債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ノ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二百一十九條 裁判所書記ハ債権表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 債権者ノ氏名及住所

二 債権ノ額及原因

第二百二十條 破産債権者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債権ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ原本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ノ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルト能ハサルヘキ債権額ヲ届出ツルコトヲ要ス

破産債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ノ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二百二十一條 裁判所書記ハ債権表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 債権者ノ氏名及住所

二 債権ノ額及原因

三 優先權アルトキハ其ノ權利

四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出テタル債権額

裁判所書記ハ債権表ノ原本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百二十條 債権ノ届出ニ關スル書類及債權表ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百二十一條 債権調査ノ期日ニ於テハ届出アリタル各債権ニ付第二百二十九條第一項ニ掲ケル事項ヲ調査ス

第二百二十二條 破産者ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

届出ヲ爲シタル破産債権者又ハ其ノ代理人ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百二十三條 債権ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債権ニ付テハ破産管財人及破産債権者ノ異議アル場合ヲ除クノ外債権調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債権者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債権ノ調査ヲ爲ス爲

特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ負擔トス

第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債権者カ届出テタル事項ニ付届出期間後他ノ破産債権者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債権者カ債権調査ノ一般期日後ニ債権ノ届出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條 債権調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタル破産債権者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債権調査ノ期日ノ變更或ハ債権調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セ

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依リ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百四十條 債権調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債権者ノ異議ナカリシトキハ債權ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債権者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受續クコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ債権調査ノ結果ヲ

債権表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債権ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

第二百四十二條 確定債権ニ付テハ債権表ノ記載ハ破産債権者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條 破産債権者カ債権調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債権ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債権者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十四條 第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條 異議アル債権ニ付テハ其ノ債権者ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ

裁判所ハ債権者ニ其ノ債権ニ關スル債権表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十六條 債権確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百四十七條 異議アル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債権者カ

其ノ債権ノ確定ヲ求ムトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受續クコトヲ要ス

第二百四十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條 破産債権者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債権表ニ記載シタル事項ニ付テハ債権確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十四條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受續クコトヲ得

第二百五十條 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債権ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百五十一條 第二項第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十二條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債権者ノ申立ニ因リ債権ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十三條 債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債権者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十四條 破産財團カ債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債権者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債権者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム

第二百五十三條 公訴附帯ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受審キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

公訴附帯ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十四條 第三十八條第四號ニ掲タル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滞ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百五十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ノ原因カ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百五十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 配當

第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所

二 配當ニ加フヘキ債權ノ額

三 配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條 異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ノ提起又ハ訴訟ノ受審ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除

斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

一 債權者ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタルトキ

二 前二條ニ定ムル事項ノ證明及説明アリタルトキ

三 別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルシ債權額ヲ證明シタルトキ

第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ起算ス

第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遲滞ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シ

テ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條 解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條 強制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限り提供者ノ申立ニ依リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス

破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ説明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ

後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ説明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付テハ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條 左ニ掲タル債權ニ對スル配當額ハ破産管財人ノ寄託スルコトヲ要ス

一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アリタルモノ

二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ著セサル債權

三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ證明シタル債權額

四 停止條件附債權及將來ノ請求權

五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件附債權

第二百七十二條 破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人ハ配當表ニ對スル異議著ノ後遲滞ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通

知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成シセサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第二百七十一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラ

第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲メ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財産アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ遲滞ナク配當表ヲ更生スル

コトヲ要ス
 第二百八十條 左ニ掲クル配當額ハ債権者ノ爲破産管財人ノヲ供託スルコトヲ要ス
 一 第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額
 二 配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴訟又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權ニ對スル配當額
 三 債権者力受取ラサル配當額
 第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債権者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ナキ爲換價セサリシ財産ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十二條 債権者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財産アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破産終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ
 破産管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滞ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債権者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條 追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス
 第二百八十五條 破産管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク計算報告書ヲ作リ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス
 第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破産管財人ニ知レサル財團債権者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス
 第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り債權表ノ記載ハ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス債権者ハ破産終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百二十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス
 第二百八十八條 破産者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間内ニ限り異議ヲ追完スル爲破産裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 裁判所ハ債權ヲ以テ破産者ノ異議アル債權ノ債権者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十九條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債権者及受遺者ハ殘餘財産ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第九章 強制和議
 第二百九十條 破産者ハ何時ニテモ強制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得
 第二百九十一條 強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
 第二百九十二條 強制和議ノ提供ハ相續財産ニ在リテハ相續人ノ之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコトヲ要ス
 第二百九十三條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債権者ト看做サス
 第二百九十四條 強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルコトキハ其ノ擔保其ノ他強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス
 第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破産ノ公訴繫屬スルト

キハ強制和議ヲ爲スコトヲ得ス詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同シ
 第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得
 一 債権者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアルトキ
 二 強制和議ノ爲ニスル債権者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
 三 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 四 強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 第二百九十七條 裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セサル場合ニ於テ監査委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス
 第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監査委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債権者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス
 期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債権者、強制和議ノ提供者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破

産債権者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破産管財人及監査委員ヲ呼出スコトヲ要ス
 前項ニ規定スル者ニハ強制和議ノ條件及監査委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス
 第三百條 裁判所ハ強制和議ノ提供者及監査委員ノ申立ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債権者集會ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得
 第三百一條 強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得
 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲ササルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス
 第三百二條 強制和議ノ提供者ハ破産債権者ヲ利スル場合ニ限り債権者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得
 第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ス
 第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破産債権者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラスシテ或破産債権者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無効トス
 第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債権者ノ過半數ニシテ其ノ債權額數ニシテ其ノ債權額カ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス
 前項ノ債權額及總債權額ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リテハ其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第八十二條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル
 第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債権者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權額ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ之ヲ言渡スコトヲ要ス
 第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認可ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認可ニ付意見ヲ述ブルコトヲ得
 第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ

定ムル決定ニ之ヲ準用ス
第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債権者ノ申立ニ因リ又ハ債権ヲ以テ強制和議不認可ノ規定ヲ爲スコトヲ得
 一 強制和議ノ手續又ハ決議力法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺力追完スヘカラサルモノナルトキ
 二 第二百九十五條ニ規定スル事由力強制和議ノ決議後ニ生シタルトキ
 三 強制和議ノ決議力不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ
 四 強制和議ノ決議力破産債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ
 議決權ヲ有セザリシ破産債権者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債権者タルコトヲ曉明スルコトヲ要ス
 申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ曉明スルコトヲ要ス
第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ社團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得
第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議

議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 法人ヲ繼續セザルトキ又ハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
第三百十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債権者ニ限り強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得
第三百十四條 相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ限定承認又ハ財産分離アリタルトキハ相續人ノ債権者ニ限り強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得
第三百十五條 相續財産及相續人又ハ前項主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前項主ノ強制和議ニ付テハ相續人ノ債権者又ハ前項主ノ相續開始後ノ債権者ニ限り之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得
第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ノ債権ハ第三百六條第一項ノ總債権ニ之ヲ算入セス
第三百十七條 強制和議カ前條ノ破産債権者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス
第三百十九條 議決權ヲ有セザリシ破産債権者カ強制和議認否ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破産債権者タルコトヲ曉明スルコトヲ要ス
第三百二十條 強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ハ強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第三百二十一條 強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
第三百二十二條 強制和議認可ノ決定力確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス
第三百二十三條 強制和議認可ノ決定力確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債権者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ノ確定債権ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス
 財團債権及一般ノ優先權アル債権ニシテ異議アルモノニ付テハ破産管財人ハ債権者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破産管財人ニ對シテ曉明アリタル一般ノ優先權アル債権ニ付亦同シ

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定力確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス
第三百二十六條 強制和議ハ破産債権者ノ全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス
 強制和議ハ破産債権者カ破産者ノ保證人其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破産債権者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ボサス
第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債権者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ
第三百二十八條 確定債権ヲ有スル破産債権者ハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘザリシ場合ニ限り破産終結ノ後破産者ノ強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債権者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス
第三百二十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場

合ニ之ヲ準用ス
第三百二十九條 強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議不認可ノ申立ヲ爲サザリシ破産債権者ハ此ノ限ニ在ラス
 讓歩ノ取消權ハ破産債権者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキ亦同シ
第三百三十條 破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得
第三百三十一條 讓歩ノ取消ハ破産債権者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス
 讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破産債権者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス
第三百三十二條 破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ過半数ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス
第三百三十五條 強制和議取消ノ決定力確定シタルトキハ破産手續ヲ續行ス
第三百三十六條 第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做シ第三百三十二條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做ス
第三百三十七條 第四百一十一條乃至第四百四

六條及第五百五十四條乃至第五百五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付テハ準用ス
破産手續進行ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ付テハ從前ノ破産債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破産債權ノ額トス

第三百三十九條 從前ノ確定債權ニ付テハ破産債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調査ス

第三百四十條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破産債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破産財團ニ其ノ債權者カ受ケタルモノヲ加算シテ配當率ノ標準ヲ定ム但シ其ノ債權者ハ他ノ破産債權者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受ケル迄ハ配當ヲ受ケルコトヲ得ス

第三百四十一條 破産終結ノ後破産者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條 強制和議取消ノ申立及破産ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一ニ付強制和議取消ノ決定又ハ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財產ニ於ケルモノ同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十五條第一項第二項及第一千二百一十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條 第三百三十一條ノ規定ハ相續財產ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十章 破産廢止

第三百四十七條 破産者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破産債權者ニ對シ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ破産財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破産債權者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破産廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週内ニ破産廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破産債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破産廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破産者、破産管財人及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條 裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一章 小破産

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タズト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第四百三十三條第一項ニ掲ケル事項ノ外小破産決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員並知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破産取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

定ヲ準用ス

第三百六十一條 小破産ノ決定及小破産取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十二條 第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條 第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會並債權調査、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第三百六十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三編 復権

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ノ申

立ニ因リ復権ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
申立人ハ免責ヲ請スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百六十八條 復権ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條 裁判所ハ復権ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復権ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ヲ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條 復権ノ決定力確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條 第八條乃至第一百十二條及第一百十四條乃至第一百七條ノ規定ハ復権ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編 罰則

爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ關スル財産ヲ隠匿、毀棄又ハ債權者ノ不利益ニ處分スルコト

二 破産財團ノ負擔ヲ虚偽ニ増加スルコト

三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト

四 第八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハズ左ニ掲クル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射博行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二 破産ノ宣告ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ

債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ關セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ關セザルモノ

四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト

五 第八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人前二條ノ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依リ相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ罰則同シ

第三百七十八條 債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破産債權者トシテ虚偽ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産

宣告確定シタルトキ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準ル者ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百八十二條 第五百三十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事

實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第一百號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條 民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第五十二條第五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削ル

第三百八十六條 他ノ法令中身分限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セザル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身分限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セザル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復権ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依リ但シ明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶

豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十八條 舊法ニ依リテ破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身分限ノ處分ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リテ復権ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ申立ハ其ノ事件ノ第一審裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十九條 他ノ法律ニ依リ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者カ其ノ法人ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テモ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百九十條 商法第四百五條ノ左ノ如ク改ム

保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其効力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三箇月ヲ經過シタルトキハ其効力ヲ失フ

第三百九十一條 商法施行法中第三百八條乃至第四百五條及第四百七條ヲ削リ「第四百六條」ヲ「第三百三十八條」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第三百九十九條 商法施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ効力ヲ有ス